



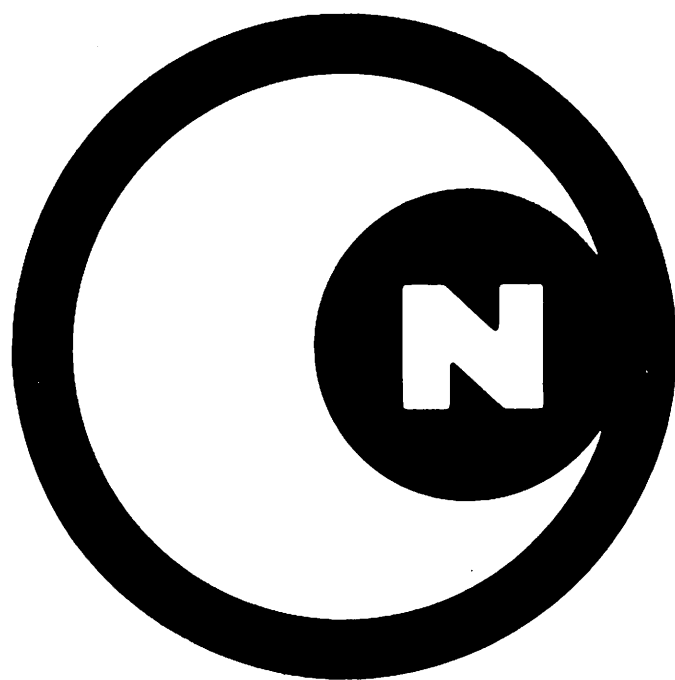
十年の歩み



協同組合

長崎卸センター

十年の歩み



協同組合 長崎卸センター







長崎郵セン

30
No parking

長崎郵便

冷凍食品



不明な文字

不明な看板

不明な看板

30

30

ごあいさつ



協同組合長崎卸センター理事長

前 田 圭一郎

弊センター創立10周年記念事業の一環として記念誌「10年の歩み」を刊行するに際し、ご挨拶申し上げます。

昭和47年4月長崎卸商百貨連盟を母体とし、長崎県、市、商工会議所等のお力添えにより協同組合長崎卸センターが発足して以来、昨年で満10周年を迎え、記念式典を始め諸記念事業を行うべく準備致しておりました矢先、7月23日未曾有の長崎大水害に見舞われ、式典等の行事中止の止むなきになりました。然し創立以来の歩みを記録として残すべく、昨冬来記念誌委員会によって充分検討され、爾来逐次その稿を進め、このほど漸く上梓の運びとなったものであります。

憶えば昭和44年頃長崎卸商百貨連盟の方々为中心となり、流通革新の気運に棹し、長崎市を基軸とした中小卸業100余社が同志的結合のもとに参集し、諫早貝津附近、長崎古賀、東望と紆余曲折の末、ここ田中町の一角、山陵地帯を造成し、卸団地の建設へと進んだのであります。初代理事長の松島福男氏を中心とした組合員一同の不退転の決意と協調合の努力とにより、難航すると思われた土地買収を超人的な折衝のもとに済ませ、造成も幾多の地形、土質の悪条件を克服しての完成でありました。

国道34号線の要所に位置し、九州横断道路の起点に近く、長崎県南部地区の又とない東長崎の丘に、卸業の集結によって将に名実ともに流通の基地と化し、発展の息吹きは日に日に逞しさを加え、昨年の水害後も懸命に得意先の援助と復興に努力を続けて参りました。

もとより記念誌編纂は初めての試みで、充分意をつくし得ない面も多々ありますが、組合員各位が、これによって組合創立の経過を知り先人の努力の足跡を偲び、将来への示唆と、今後の決意を新たにして弊卸センターに課せられた流通業務近代化の使命達成に益々精進されますことを期待するものであります。

本日ここに記念誌「10年の歩み」を発刊するに当たり本組合設立以来、寄せられた多数の関係先のご支援、並びに組合員各位のご協力に対し深く感謝の意を表し、また本誌の編纂に賜わった各位のご好意と記念誌委員会各位のご尽力に対して厚く御礼申し上げます。

祝 辞



長崎県知事

高 田 勇

協同組合長崎卸センターの創立10周年を心からお祝い申し上げます。

貴組合は、長崎市内及び県南地区の卸売業の方々が、立地環境の改善と集団の力による流通機能の充実や企業の近代化、合理化を図るために昭和47年6月に設立されました。

以来、経済環境の急激な変化に対処されつつ、積極的な事業活動を展開され、県民生活に欠くことのできない諸物資の円滑な供給に大変貢献されておられます。又、組合員も今や67名を超え、高度化事業に基づいた西日本でも有数の卸団地に成長されましたことは、誠に喜ばしいことであり、歴代の代表理事はじめ役員並びに組合員皆様方の御努力に対し深く敬意を表する次第でございます。

御高承のとおり、本県経済は、基幹産業である造船業の低迷、個人消費の伸び悩みに加えて7.23長崎大水害の後遺症もあり厳しい状況にあります。

このため県としても地域経済の活動が、力強く展開されるために「経済に活力を」主要テーマとして58年度における経済活性化推進事業としてふるさと産業の振興・先端技術の導入促進・新しい観光の構築・国際交流と貿易の振興の4つの柱を掲げ中小企業の振興、企業誘地とあわせ積極的に推進しているところでございます。このような経済社会環境にあって本県流通業界の中核となる貴組合の果たす役割は、今後ますます重要になってまいりますので、これまで以上に、貴組合が生産・販売・消費を結ぶパイプ役として円滑な流通機能を遺憾なく発揮されることを期待いたします。

終りに、協同組合長崎卸センターの今後ますますの御発展と組合員皆様の御健勝を心から祈念してお祝いのことばといたします。

祝 辞

長崎市長



本 島 等

協同組合長崎卸センターが、設立11周年にあたり、「協同組合長崎卸センター10年誌」を発刊される運びになりましたことは、誠に意義深く、心からお祝い申し上げます。

貴組合は、県南地域の中堅卸売業者67社が参加して卸売団地建設計画を立てられました。昭和47年6月協同組合を設立後、委員会をつくり精力的に取り組まれまして、長崎市の日見地区を適地として着工され、オイルショックや進入道のトンネル化など幾多の困難を克服され、昭和51年10月団地造成を完了されました。

店舗等集団化事業の一環として完成いたしました長崎卸センターは、県内では佐世保卸団地に次ぐもので、県南部の流通拠点として又、本市卸商業界の活路を拓くモデルケースとして理想的商業環境を創造しており、物流合理化の向上等本市経済発展のため、おおいなる貢献をいただいている所であります。

これもひとえに歴代代表理事様をはじめ、組合員皆様方のたゆまぬ努力と研鑽の賜物と深く敬意を表する次第であります。

ご承知のとおり、本市を取り巻く経済環境は、基幹産業である造船業の長期不況により依然として厳しいものがあり、卸商業界の分野におきましても、消費者ニーズの多様化への対応、流通システムの改善など多くの諸問題が山積しております。

しかし貴組合におかれましては、今日まで築かれた輝かしい歴史と伝統のもと、旺盛なるフロンティア精神をもってこれらの諸問題に対処され、組合発展並びに地域振興のため真価を遺憾なく発揮されますよう期待してやみません。

終わりに前田代表理事様をはじめ、関係者各位のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

祝 辞

長崎商工会議所会頭



清 島 省 三

創立10周年記念誌のご発刊を心からお祝い申し上げます。

未曾有の長崎大水害で昨年の10周年記念式典は中止された由であります。10年の歩みを綴った見事な記念誌の発刊は、後世に伝える何物にもまさる金字塔となることでしょう。

長崎卸センターが発足した昭和47年は、ちょうど高度成長の終期に当たっていました。翌48年、夢想だにもしなかった石油危機が発生し、以来、一転して混迷の時代を迎えることになったのですが、卸センターもその容赦ない風波に巻き込まれたのはけだし当然だったことでしょう。

しかしながら、創業期早々に襲ったこの試練を初代松島福男理事長を中心に組合員が心を合せて耐え忍んだ10年の歳月故に、今日の強靱（じん）な体質、基盤を築かれたわけであります。

ときには不運な時勢を嘆かれたこともあったかと存じますが、松島福男、成宮健一両氏の後を受けられた現理事長・前田圭一郎氏と役職員を中心に、組合加盟全社が経営・流通近代化を推進するという揺るぎない信念をこの10周年を期に更に一層強固なものにされたことと存じます。

今や世界は、21世紀へ大きな潮流が動き始めており、工業化社会から情報化社会へ転換し、さらに政治も経済も中央から地方へ、短期展望から戦略的な長期展望へ。技術主義と心の触れ合い（ハイテック・ハイタッチ）が両立しなければならない時代といわれております。

67社が手を携える長崎卸センターは、たとえそれぞれの業種は違っていても、諸会議を通じ、あるいは、運動場で、教養室で、食堂で生まれる情報交換と触れ合いは、大転換の時代を乗り越える大きな力となるものと確信いたします。この10周年を一里塚として長崎卸センターならびに組合員皆様のますますのご発展をお祈り致します。

祝 辞



長崎県中小企業団体中央会 会長

松 藤 涉

このたび、協合組合長崎卸センターでは、創立10周年を記念して、10周年記念誌を刊行されることとなり、祝辞を申し述べる機会を得ましたことは、誠に光栄に存ずる次第であります。

貴組合は、長崎市及び周辺地域の卸売業者の方々が、協同組合の力によって、経営の合理化、設備の近代化を図るため、昭和47年6月店舗等集団化事業を計画、以来今日迄約11年を経過されましたが、その間石油危機や世界的な不況と相まって我が国の産業経済界は未曾有の低成長期へと移行、県内企業も厳しい経営を迫られる中で、組合員が一致結束し、幾多の困難をのり越えて今日を迎えられました。特に昨年7月23日の長崎大水害では、大きな打撃を受けられたことと存じますが、卸売業者としていち早く被災地の復興にも取り組まれたところでございます。

ご承知のように、最近の中小企業をとりまく環境は誠に厳しいものがございます。特に最近の消費不振・購買力の低下は、卸売業にとっては、非常に大きな影響を受け、各地で倒産も発生する等、益々きびしさを加えており、貴業界のご苦労はなみなみならぬものと存じます。

従って、こうした状況であればある程、貴組合におかれましては、組合員のより一層の結束と相互信頼を深め、協同組合と云う組織力をフルに発揮して、難局に対処されることを心からお祈り申し上げます。

私共、中央会と致しましても、全力をあげてご支援・ご協力を申し上げたいと存じております。

最後に、貴組合の今後の御発展を祈念致しまして、お祝いの言葉と致します。

祝 辞



全国卸商業団地協同組合連合会 会長

瀬川 良雄

このたび、協同組合長崎卸センターが組合創立10周年を記念し、10年誌を刊行されるに当り、関係団体の一人として心からお祝い申し上げます。

顧みますと、貴長崎卸センターは市内に散在する中小卸売業の抱える交通難、店舗・倉庫の狭隘化等の諸問題を解消するとともに、合理化・近代化の推進により組合員企業の経営体質強化を図り、ひいては流通を通じて地域経済発展に寄与するため、昭和47年、集団化計画に着手されました。

爾来、今日までその間、建設途上におけるオイルショックによる資材の高騰、それに伴う組合員の減少、また、昭和57年7月には、長崎水害による死者3名（卸センター従業員）を含む甚大な被害等、幾多の困難を克服し、組合会館をはじめとする共同施設の設置はもとより、各種共同事業の推進により、名実共に県都長崎の一大流通拠点として今日の隆盛をみられましたことは誠に敬服に堪えません。

これはひとえに役員をはじめ組合員各社並びに事務局職員の皆様の強固な団結の賜物と確信致します。

昭和38年に店舗集団化制度が創設されてから本年で20年を経過し、その間、150を超える卸団地が造られ、それぞれ各地における流通経済発展に多大の貢献を果してまいりましたが、卸団地の運営も年を経るごとに種々問題が派生し、また、今日中小企業、とりわけ卸売業をとりまく経済環境は消費支出の伸び悩み、大型店の進出等、益々厳しいものがあり貴卸センターにおかれましては、この10年を一つの節として初心にかえり、益々団結を強められ、より一層の発展に努められんことを祈念し、私のお祝いの言葉と致します。

目次

INDEX

| | |
|----|--|
| 挨拶 | 協同組合長崎卸センター理事長 |
| 祝辞 | 長崎県知事 長崎市長 長崎商工会議所会頭 長崎県中小企業団体中央会会長 全国卸商業団地協同組合連合会会長 |

歴

| | |
|-----|----|
| 寄稿文 | 1 |
| 座談会 | 5 |
| 年表 | 18 |

編

| | |
|----------|----|
| 卸センター位置図 | 31 |
| 各社配置図 | 33 |
| 組合運営組織図 | 37 |
| 委員会編成表 | 38 |
| 歴代役員 | 39 |
| 役員 | 40 |

| | |
|----------------|----|
| 業種別部会 | 41 |
| 起工式・造成 | 43 |
| 建設段階 | 44 |
| 落成式 | 45 |
| 式典 | 46 |
| 施設 | 47 |
| 福利厚生 | 49 |
| 合宿研修 | 51 |
| 文化祭 | 52 |
| 長崎大水害 | 53 |
| 「長崎卸センター」と長崎街道 | 57 |

活

| | |
|----------|-----|
| 企業紹介名簿 | 67 |
| 団地未入居組合員 | 126 |
| あとがき | 127 |





歴

寄稿文



元理事長

松島 福男

長崎卸団地造り一筋に10年

流通機構の革命・改革に伴い、経営の合理化、近代化、大型化、体質改善を推進し、もろもろのメリットを追求し一層の発展飛躍を図る目的をもって協同組合長崎卸センターを設立したのが昭和47年、光陰矢の如し、早くも10年の年月が流れ長い道のりにも思えるし、又早いもんだとも思える。10年前発足時は多くの組合員と共に強力な結束団結、協調を旗印に、とにかく造りあげようを合言葉に取組んで今日に至ったのである。

そもそも此の卸団地造りの必要性胎動は、昭和40年頃に遡る。長崎には昭和25年から長崎卸商連盟が設立され、相互企業の発展、振興、情報交換、春秋2回開催の共同見本市、特売会、市外各地で催す移動見本市、商取引懇談会を続けていた。これが母体となりスタートした。昭和40年代になると池田内閣の所得倍増論、田中内閣の日本列島改造論とわが国の経済高度成長は世界第2位と言われる迄に膨れ上って来た。街には車が急

激にふえ、景気なる故郷、市民の所得も年々上昇し消費生活が愈々活発の度を増し我々の取扱う商品が良く売れた時代であった。ところが卸商社の立地条件はまことに狭隘そのもの、市街地のど真ん中に散在し売上高の増大に併せて店舗倉庫がせま過ぎる、店を拡げるには隣接に土地がない、あったとしても土一升、金一升と言う程高くて手が出せない、街は車の洪水で交通規制は厳しく、自社の前の道路は駐車禁止制限区域で商品の搬入搬出ままならず卸売業の機能を十二分に発揮出来ず、商取引上多大の障害を生じ、切端つまって一日も早く卸団地を造ろうの声急速に高まり、いやが上にもその機運が盛り上がり執行部理事会に於ては、一日も早くなんとかせにゃならんと言いつら5、6年の年月は過ぎ去った。5、6年の間、手つかずになった理由の第一は長崎は他都市と異なって、何万坪の土地がないと言う事が最たる原因であった。昭和45年頃になると、時の市長、諸谷義武氏の英

知創造のもと、東望の浜一帯約5万坪の埋立工事が始まり掛けたが、市の方針としては金はかけず、当時、市街地はビルラッシュの頃で、其の残土捨て場所として、埋立てる計画でその進捗状況まことに漫々であったが、これに目をつけたのが私たちで、埋立て完成のあかつきには卸団地建設用地に利用させて貰うべく第一号の陳情を行い市長さんから同意の確約を得たのであった。当時坪単価は3万5千円から4万円止りとの答えであり連盟会員一同喜んだものであった。

さあ、用地場所は90%程は決まった。早速卸団地造りの受け皿協同組合設立に動き出し関係役所の指導で発足の日が到来、創立総会を開催に及び理事長選任に当り、異例の無記名投票の結果、私に満票近い（私丈が他の人に投票）票が入り初代理事長の大役を引受ける事に相成り心身共に苦勞苦難の始まりで、先進理事長いわ

く初代理事長たる者、自分の企業を潰すか、寿命を縮め早死にするかの覚悟でやらにゃ成功せん、この馬鹿者と言わんばかりの励ましの言葉を今更乍らしみじみ思い起こしている。其ののちは高度化資金借入れの関係上県が窓口になり事業団及び県中小企業課、中小企業指導センターに日参し指導を受けたものであるが勿論、県知事以下関係上層部にはその成り行きを逐一報告せねばならず、当時の長崎県知事久保勘一氏に報告・対談の時前述の東望の浜（現在中央青果市場）用地は完全に潰されたのであった。

其の時久保知事いわく「松島君小さい事考えるな。東望の浜埋立地は狭過ぎる。」尤も長崎大学の専門教授に調査を依頼したところ金物と繊維の染柄に塩害ありと診断され不適地となり又もや用地選定、買収が元の白紙となった次第でそれからのちは10年史座談会に記された通り昼夜を分かたぬ辛勞苦勞の連続であった。



寄稿文



商工組合中央金庫徳山支店次長

野村 耕治

(協)長崎卸センター出向の思い出

「歳月は人を待たず」とは良く言ったもので私が団地を離れて4年の月日が流れ去りました。当時の出来事も大分薄れて参りましたが出向中の4年間(50年4月～54年1月)に組合員の皆様方から賜りました暖かいご厚情の数々は忘れることなく脳裏に深く刻み込んでいます。

団地も昨年6月に組合創立10周年を迎え、10周年記念行事を計画されていたながら、大水害に直面され中止せざるを得なかったと聞き残念でなりません。

このたび記念行事の一環として記念誌の発刊を企画され団地建設に参画した小生に寄稿方のご依頼を受けましたので拙文を提出させていただきます。

私が卸センター出向を命ぜられたのは、50年3月商工中金下関支店に在勤中で長崎を離れて丁度10年目で、長崎市内で卸団地の建設が計画され(略用地買収も終り造成工事に着手したばかりの時)団地の方から出来れば中金から出向

者を迎えたい旨長崎支店の方へ要望が出され、土地勘のある私に白羽の矢が立ち出向することとなった様です。

私自身団地建設に関するノウハウ等は持っていない一抹の不安もありましたが、生来の樂觀主義とズウズウしさで一度は他人の飯を喰って見るのも勉強になると思い赴任致しました。赴任から1年9ヵ月は組合の事務所も旧商工会議所の一角(冷暖房なし)、を借用し男性は私と松尾事務局長、七里、荒木、女性1名、計5名で夏は団扇片手に冬は石油ストーブで暖を取りながら事務を執ったものでした。

この間は造成工事を中心でしたが、予想外に土質が悪く山崩れのアクシデントに見舞われ団地進入路をトンネル工法に切替え、法面の補強工事も発生し工期も9ヵ月延長となり、組合員の建家建設が大幅に遅延する結果となりました。

造成工事と併行して組合員の建設診断が開始されたが、昭和48年の暮れに端を発した石油シ

ショックによる不況感が次第に浸透、加えて諸物価の高騰により計画段階での投資金額も大幅増となり、造成工事遅延も重なって組合員の脱退が相次ぎ発生し、地元紙を始め数種の新聞に卸団地完成を危惧する旨の記事が掲載され県当局や組合員各位にご心配をかけたのも今は懐かしい思い出となっています。

私の手許に残っている資料によるとピーク時の組合員は85名で51年7月末時点では50名と35名減となりこの間工事代金の支払、脱退組合員の積立金の返却と資金繰に苦慮したものでした。

多数の組合員が脱退する中で松島理事長を信じ団地建設を進められる残された組合員の為にも団地を完成させようという決意を新たにしたものでした。

当時の商工中金長崎支店大月支店長からも資金面は一切心配せず団地建設に専念して欲しい旨の申し出があり、安心して団地建設に専念出来た事は幸いでした。

特に大月支店長は「とにかく長崎市内に於いてこれだけの用地を確保する事は今後考えられない。先ず造成工事が終了しないことには団地に入居したいと思っている人も完成するかどうか判らない状況では組合員の増強を叫んでもしょうがない」という意見であった。

51年の夏には残された組合員の建設診断も終り造成工事と併行して組合会館、組合員の建家建設が着手されたが組合設立後4年目でこの間の組合役員の方々の労苦は並々ならぬものがあり、ホッと一息ついたものでした。51年の年の瀬も押し迫った12月に飯塚電産(株)社屋が第一号とし完成直ちに入居されたが団地内に街灯等も未整備で従業員の方々にはさぞご不便をお掛けした事と改めてお詫び致す次第です。年が明けると組合会館を初め次々と完成していく姿を

見た時の嬉しさは、今でも忘れる事が出来ません。

私が最も残念に思っている一つですが全用地を組合員用地として完成出来なかった事ですが当時の状況から組合員皆様方が生き残っていく為にもこれしか手段がなかった事を、ご理解賜りたいと存じます。

52年度、53年度は残された組合員の建家建設に加え、組合員の増強に走り廻りましたが、状況は不況感を増すばかりで増強活動も思う様に行かず、このままでは金利負担で組合員の共倒れも予想された為、残念であったが組合員用地の一部を公共用地への転用を計画し、県当局、事業団に申し入れた承を得、県警、電々公社、建設省、雇用促進事業団と次々と話しがまとまり資金繰面に於いては一応の目途がつきホットしたものでした。

私の出向も当初2年程度を予定していましたが建設途上と組合員の方々が苦勞して居られる中で団地を去る事は責任の回避にもなり又居心地も良い事もあって4年間もお世話になる結果となりました。松島理事長からも、もう1年という話しもありましたが、残された組合員建家建設も、略一段落し、資金繰面に於いても数年間は大丈夫という目途がつき団地を去る決心をした次第です。

団地4年間の思い出はまだ尽きませんが、最後に、今後は団地建設当時の苦しさや、団地建設の主旨をご存知ない若手経営者の方々が多くなってくると思います。どうか、団地の建設自体が集団化の目的でなく、全員の結束のもとに適切な組合が運営され、集積効果を高められ団地ぐるみの発展こそが本来の目的であることを再認識いただき組合員共々、繁栄されん事を祈念致しております。

座談会

長崎卸センター創成期を語る



昭和58年 3月26日(土) 於秀明館

- | | | | | | |
|------|-----------------|---------|------|----------|---------|
| (来賓) | 元卸センター理事長 | 松 島 福 男 | (組合) | 長崎卸センター | 成 宮 健 一 |
| | 商工中金徳山支店次長 | 野 村 耕 治 | | 理事(前理事長) | 中 村 房 一 |
| | (元卸センター常務) | | | 副理事長 | 脇 山 良 一 |
| | 長崎上滝建設(株)専務 | 志 岐 一 之 | | " " | 手 塚 三 郎 |
| | (株)熊谷組福岡支社 | 坂 本 明 三 | | 相談役(前理事) | 富 森 正 之 |
| | (元卸センター建設現場所長) | 川 崎 忠 治 | | " (前理事) | 岡 一 |
| | 長崎県交通局管理部長 | | | " 監 事 | |
| | (元長崎県中小企業課助成係長) | | | | |



| | | |
|----------|-------------|---------|
| (事務局) | 長崎卸センター常務理事 | 磯 辺 重 孝 |
| | 事務局長 | 松 尾 剛 助 |
| (記念誌委員会) | 理 事 | 中 尾 剛 |
| | " | 武 藤 嘉 光 |
| | " | 江 下 直 光 |
| (司 会) | 副理事長 | 安 倍 博 一 |

(敬称略, 順不同)

中尾：本日はお忙しいなかご出席いただきまして、誠に有難うございます。

昨年長崎卸センターの10周年を迎えましたが、それにあたりまして、10周年の式典を行い、色んな催しと共に10周年記念誌を作成しようという事になりました。私、その記念誌委員長を仰せつかりましたが、その計画の途中で'83. 7. 23長崎大水害があった訳でございます。



水害後、式典どころではないという事になりましたが、やはり将来の生きた資料として、記念誌だけは作っておこうという事で、記念誌委員だけが作業を続けている次第であります。

記念誌を作るにあたりまして、過去10年間の歩みを、創設当時をご存じの方々にお集り戴き座談会の内容を記念誌に掲載しようという事で、ご案内申し上げた訳でございます。

本日の座談会には熊谷組所長の坂本様には宮崎県から、初代常務理事の野村様には山口県からと、遠路お越し戴き、又県の川崎様、上滝建設の志岐様や卸センターからは特に創設当時をご存じの方にご出席戴きまして、座談会を開催したいと存じます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

始めにあたりまして現理事長の成宮様に一言お願い致します。



成宮：長崎卸センターもお蔭様で10周年を迎えました。本日の座談会は長崎卸センターの10年の歴史を確認しておくものであり、我々より後の世代の人々に、努力の賜で築いてきたという事を知って貰う為にも、本日の座談会に何卒御協力下さいませようお願い申し上げます。

創設のころ～その動きと用地選定



司会：本日は皆様に、10年を振り返って戴き、思い出話ご苦労話等を限られた時間内では言い尽せないとは思いますが、長崎卸センターの創設から完成、そして本日に至るまでの歩みをお話し戴き、それを収録しまして記念誌構成の一ページにしたいと思います。

扱て、昭和47年4月4日に長崎卸センターの創立総会が開催され、その時の創立同意者が70名という記録がありますが、創立総会に至るまでの動機、経過等を松島前理事長からお願い致します。

松島：卸団地商業制度が設けられたのが、昭和37年ですが、昭和40年頃の当時は池田内閣高度成長期の所得倍増、経済発展時代で長崎市内の卸売商の売上伸長率も50%、100%増が軒並みで何処でも店舗、倉庫の拡大、車利用の仕入客の駐車場確保に懸命でしたが、卸売商は一等地ばかりで、地代の高さに拡張も思うに任せず、これでは卸売商の使命達成が不可能だという事が問題化していたのです。

その頃、佐世保が卸団地を造るという噂が流れ、当時の長崎卸商百貨連盟24社が長崎にも卸団地を造ろうという動きが出まして、博多、佐世保に対抗して話し合いが持たれた訳でございます。その結果、準備に入る事になりましたが、用地確保が困難で、県・市・公社に知恵を借りた訳でございます。「世話は県でやるが、土地



は連盟で確保する」という条件で、いよいよ団地造りに踏切ったのが昭和44年頃だったと思います。

こういう事が卸センター創立の動機という訳でございます。

司会：長崎卸商百貨連盟が母体だったのですね。

富森：どうして、長崎卸商百貨連盟が母体となったかを若干補足しておきます。それまで連盟の合同売出しの場所が確保できず、個々の店で売出しを行っていたのですが、佐世保からの攻勢もあり、長崎卸商百貨連盟の団結、強化が大事だとの話合いの結果、松島さんを投票で会長に選出しスタートしたのでございます。

司会：昭和47年、創立総会が開催され同意者が70名だったそうですが、その辺の経緯を松島さんをお願い致します。

松島：連盟の24名以外に卸売業の名鑑から抜粋し、案内状を出したら70名の参加申込者がありまして、その後、86名まで増えました。諫早からも22名の参加申込みがあり、この時点では100名にはなると確信しておりました。

司会：松島さんが初代理事長として就任され、県南の総合卸センターという事が出発した訳で、創立総会で長崎、諫早、島原までも網羅した県南という商業ブロックを基礎としたものですね。



手塚：県側としては、なるべく諫早に近い場所へ造って欲しいという指導がありましたね。

川崎：確かに、県としても県北・県南にそれぞれ

れ一つずつ総合卸センターをつくるという考えがあったと思います。その場合、県南は諫早、又はその近くという考えがあったようです。

司会：こうして、いよいよ用地の選定の段階に入るのですが、その辺の事情を松島様お願い致します。

松島：土地探し、所謂場所の選定にかかる訳ですが、当初は東望の現在の青果市場がある35,000坪の埋立地をそっくり使わせて貰おうと考え、諸谷前市長へ陳情しておりました。ところが久保前知事が「とんでもない!!20万坪の団地を造らないと!!」という広大な団地造りを要望され、それには諫早をおいて他には無いということで土地探しをしたのですが、土地開発委員会に諮った結果、長崎から遠いという理由で否決され、その後、喜々津カントリークラブが候補にあがり根廻しをして交渉したのですが、結果的には先方に断われ、その後古賀の諫早農校東長崎分校の裏とか他に4、5か所候補にあがったのですが何れも5万坪留りで、どうにもならない時に、成宮さんの意見で、現在の場所が候補にあがり、現地調査をしましたところ、上滝建設の技術者の方も山奥ではあるが、開発に関しては問題ないという事で現地に決定した訳でございます。

司会：用地選定にあたっては、同年6月土地開発委員会が設けられ、会長に成宮さんを選出された訳ですが成宮さんのお話の前に川崎さん、県の方では、どのような指導があったのでございますか。



川崎：県としては、具体的には大学教授等にも依頼し、研究をした結果、将来高速道路のインターも出

来る国道34号線と長崎バイパスの接点である喜々津周辺が適当であろうということで助言を申し上げたと思います。

成宮：色々な条件で諫早が最適地という学者の意見もございましたが、諫早では長崎から遠すぎるというのが、最大の欠点で、日見峠を越えるのも大変なのに、長崎から出る、というのが商売上大きな問題だったようです。

それから現地調査を行った結果、周囲が岩石である事が判明し、それが好条件になったりして諫早に決まりかかったのを逆転したのでございます。中村副理事長には、当時色々とお骨折り戴いたものでございます。

司会：ハイ。用地の選定となって、組合に参加はしたものの諫早、県南と意見がずれてきたのですが、その辺の経緯は如何だったのでしょうか。

中村：お話しの通り、場所の選定で二転、三転して本当に苦労致しました。

長崎では長崎卸商百貨連盟が、諫早では商工会議所の卸売部会が中心となり、県南地区に卸団地を造ろうと努力した訳です。

因みに、当時の記録を見ますと、昭和46年4月に66社の参加希望者がいたのですが、翌47年には72社に増えたのですが29社が脱退、48年は85社の5社、49年は77社の9社、50年は52社の32社、51年5月には51社の8社脱退と毎年出入りが激しかったのです。

これも記録によりますと、参加者の理由は、坪4、5万円で出来れば安いものだと投機的な考えや、他社に習えと日和見的な理由等があったようです。脱退者は47年、48年のオイルショックで三菱造船が不況に陥り先行きが心配であるとか、土地造成コストが上昇するのではないかと、果して完成するのかな……との理由で退められたようですが兎に角、組合結成後変動

が激しゅうございました。

それに長崎・諫早からの参加希望者はどちらに造るにしても、電話が市外になる事、遠すぎるという事で敬遠していたのですが、成宮さんの強いアピールもあり、現在の田中町に決定した訳でございます。

用地買収の軌跡

司会：こうして土地選定は一応決ったのですが、その後はいよいよ土地買収に入る訳ですが、それからの事は松島前理事長にお伺い致しましょう。

松島：早速現地調査に掛りましたところ、土地全体に地主が240名と670の筆数がある上に、調整区域なるが故に一坪でも残すことなく、地主全員の賛同が必要というのが条件なので、交渉の前に原野・田畑・みかん・桃・くり等の益木の保証金額を上滝建設の志岐さん達と算出をしたものです。

佐世保が卸団地を造った時は、地主一軒一軒事前交渉をして廻るという方式で、それに費す時間が膨大であったと聞きましたので、私達は先ず地元の有力者を2か月掛りで口説きまして

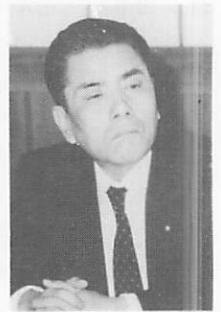


協力を願って、東長崎公民館で地主大会を開催するまでこぎつけまして、団地完成の晩には子弟を優先的に雇用する等の条件を出したりしまして、懸命に説得を致しました。

この間には、相続権を持った地主の子孫を探しに東京や埼玉県までも出向いた事もあり、完全買収までには結局5か月かかりました。

司会：買収に当っては上滝建設の松村営業部長も随分とお骨折りを戴いたそうですが、その辺を志岐さん如何だったのでしょうか。

志岐：松島さんがおっしゃったように、当時の松村営業部長と松島さんと一緒に、15名の世話人に協力要請や240名の地主から7名を選んで戴き毎晩説得に参りまして、賛同を得るのに大変苦勞を致しましたが、松島さんの苦勞がなお大変だったと思います。



土地買収を終えると事業の半分は終えたのも同じであると言いますが、買収を成し遂げられたのは取りもなおさず松島さんの苦勞の賜と思います。

司会：土地選定と取得が県の組合ヒアリングの基礎となっておりますね。昭和47年7月15日に県の中小企業課と指導センターから組合とのヒアリングが行なわれ、その中に「計画を示し土地取得を以って実施する姿勢を事業団に示すべき」という1項目があります。土地取得と総合企画が具体的に出来たら、予算化について検討しようという訳ですが、その点について当時の中小企業課の川崎さんをお願いしましょう。

川崎：私共は「場所が決まり土地取得が具体的に進んでいること」これを予算化の絶対的条件

としておりました。土地が決まっていなければ
実際計画は立てようがないわけですから……。
しかし確かに現在の場所に白羽の矢が立てられ
てからの取得は凄いスピードだったと記憶して
おります。

それに後の話ですが、筆数が多く氏名、面積
等と土地謄本との照合が大変なものでした。



司会：松尾事務局長も、あの
会議所の三角の事務所で
書類、資料調査に携わられ
て、その苦労は大変でござ
いましたでしょう。

松尾：私、5月に卸センタ
ーに勤めたのですが、今迄
とは全く異質な仕事の上に
狭い商工会議所での作業はそれは大変でした。
徹夜仕事もさることながら、夏は暑い、冬は寒
い、その上「窓を開ければ港が見える」どころ
か自動車の排気が入って来るとい状況でやり
ましたが、それよりも、川崎さんから「トラッ
ク一杯の書類を提出して貰いますヨ」と威され
ましてねエ、びっくりしましたよ。2年間もて
れば良いと言われながら慣れぬ作業を4年間も
よく頑張ったものだ、今更乍ら思います。

松島：確かに、私から色々言われ、県からも責
められて松尾さんは本当に大変だったですよ。

中村：話は溯りますが、因みに手元に経過報告
がありますので読んでみます。

買収に着手したのが昭和47年12月、着工が49
年7月で、従って買収から着工まで1年8か月
かかっています。240名の地主がいる15万坪の
土地買収費が11億9千万円、その後すぐオイル
ショックがあり、現場の企業体は油が無くて工
事が出来ないと言われたりで苦労しました。

司会：当時の議事録を見ますと、9月14日諫早
での理事役員会で「東長崎大曲地区に決定し、
候補用地に関わる調査等については、土地担当
委員長に成宮理事を指名した」とありますが、
当時の状況報告を伺いましょう。

成宮：宿町・田中町に決定した訳ですが、現地
は田畑が少なく、山林がほとんどだったので、
当初は地主は少ないだろうし、買収も簡単に済
むだろうと安易に考えていたのですが、土地の
筆数が多い為謄本が膨大で、それを取寄せる丈
の為に予算を組み直す程で、名義調査、地主親
族の権利の主張や、その他に山林の為実測とは
隔りがあったりで大変でした。

司会：買収には上滝建設の松村営業部長も大変
ご苦勞されたそうですが、経過を志岐さんにお
話し願いますでしょうか。

志岐：前にも述べましたように、山林と益木一
本一本にペンキを塗り、数量を台帳に記載して
買収の際の資料にしました。お蔭で結果的には
順調に買収が進展いたしました。

司会：土地買収の目途がついて、本格的造成に
至るまでの設計・見積りとなり、夢が見えてき
たという段階ですが、松島さんその後はどうだ
ったのですか。

松島：その前に、設計書を県に提出しなければ
ならないのですが、開発に関する知事の認可を
受ける場合の地区住民、漁協等の印鑑を貰うの
が大変でございまして開発許可に要する関係官
庁その他67か所を正に夜討ち朝駆けで一人一人
頭を下げてお願いして廻りました。

司会：昭和47年11月9日、指導センターの会議
室で用地買収状況に対する説明をされたので
すが、その時の確認者として本席の松島さん、中

村さん、成宮さん、手塚さん、富森さん、皆様出席されたんですね。

土地造成と建設から完成まで

司会：土地取得という大変な苦勞の後に土地造成となるのですが、その為の現地調査を行われた当時の環境は如何だったのでしょうか。

坂本：昭和49年3月に来崎し現地調査をしたのですが、私はそれまでは、ダム工事が多く、市街地は余り手掛けた事は無かったので、その隣接家屋の多さと高い裏山があるのを見まして、私達専門家としては条件は悪いと思いました。それよりも工事費が掛るなあ……と思ったのが第一印象でございました。



司会：ところでその前の業者の選定の経緯について松島さんをお願い致します。

松島：開発許可を受け、業者選定ですが、先ず参加組合員に業者の推せん依頼をしたのですが、地元業者を優先して欲しいという知事の強い要望もありその心積りでレイアウト、仕様書が出来、最終的には7業者に絞り公開入札したのですが、私達の思惑よりはるかに高い36億円という見積りが出まして驚きました。岩盤の多さ等の悪条件で高額となったのですが、その後5回見積り直しをしても最低34億円までしか下らないので、止むを得ず東京の前田設計さんと呼び寄せ、2週間検討した結果26億円で完成可能だという確約を得まして上滝組・熊谷組の両社に依頼しましたところ、「私達を倒産させるのですか」とか言われましたが最終的に「何

とかやりましょう」という返事を戴き26億円で発注する旨を理事会で発表し調印式となった訳であります。



司会：松島前理事長とはコンビで当時から現在まで副理事長で活躍されてる中村さん、当時の模様をお願い致します。

松島：中村副理事長には予算関係いわゆる金作りをお願いしたのです。

中村：団地と国道34号線を繋ぐ道が切通しの予定が設計ミスでトンネルに変更になったり、のり面の崩れが起きたりで当初予算より5億4千万円も追加があり、最終的には31億円になりました。

後日談ですが、専門家によると3千万円の設計料を「1億円ぐらい掛けてたらトラブルも無かったのでは……」という話もあり、反省した次第でした。

司会：高圧線・地層断層の問題等もあったようですが、担当だった川崎さんどうぞ。

川崎：商工会議所での会議でだったと思いますが、高圧線が団地計画地を横断していることが

わかり、高圧線の下は緑地帯になり団地が二分される。高圧線を移動したらどうか、という意見を申しましたところ、温厚な松尾事務局長から「そんなことができますか!!」と一喝されたのを憶えています。

司会：川崎さんには農地転用、ガス、上下水道問題等、色々ご指示を戴いていますね。

当時は成宮土地委員長も土地問題で大活躍して戴いているようですが……。

成宮：高圧線が何故団地上を走っているようになったかというのは2500分の1の地図の出来上りが遅く、最初は小さい地図を引伸して検討していたので分らずに、出来上がった地図と合せてみたら高圧線が走っている事実が分って驚いたのも地図の間違いだったのです。それに伴って境界線の違いも出たりで慌てて熊本農政局へ走ったりもしました。

司会：当時、団地造成の総指揮官であられました坂本さんもお苦労されたと思いますが、如何だったのでしょうか。

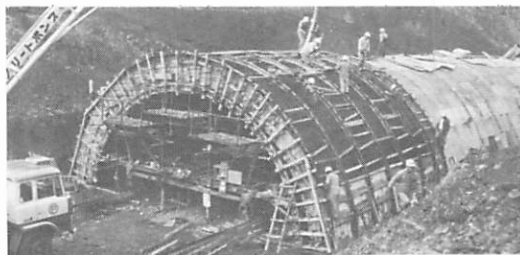
坂本：設計図で書いても現地での10万坪の造成棒は普通の工事では不可能で、一フロアでは6万坪しか出来なかったのです。決められた土地の広さで10万坪の造成を可能ならしめる為にはコンクリートで補強したりして工夫をしました。人家の傍でしかも40mのり高壁面がある為、盛土したその圧力沈下の施工問題、2年間という限られた期日で350万平方メートルを造成せねばならぬ対策、表面から流れて来る水は側溝で排水できますが、地下水処理では埋めてしまうと鉄砲水の危険性があるので困りましたが、それはヒューム管を埋め込み地下水を抜いてしまうという方法で成功しましたが、その他に膨大な量の土砂と大きさの分らない玉ねぎ岩石が出て、それを砕くハッパの穴の見当がつかず苦

勞しました。又、その石を動かすのに世界一大きいブルドーザーや飛行場を造った時のブルドーザーを持って来たりして3台で掻き起して排除したのです。

工事中に良く雨が降りましたが、造成工事には雨は禁物で泣かされましたが、その反面、当時の降っては晴れ、降っては晴れというのは盛土しては雨、盛土しては雨でしめ固めがうまくいって非常に助かったものでございます。

それとこの位の規模の土地買収には普通3年～5年掛るのが私達の観念ですが、それを2年間という短い期間で成されたそのスピードに驚いたと共に周囲の漁民、地区住民に対する根廻しの良さにも非常に感心致しました。

司会：工事中、地域住民とのトラブルも若干あったのではないのですか……。



松島：設計のミスと地質調査が不十分で地滑りの為切通しの予定が急拠トンネル方式に変わったのですが、地層が砂と砂利の為、大変な難工事となりハッパをかける為付近住民のクレームが重なり、その補償等の理由で、予算をオーバーしたのです。

司会：造成期間中は予期せぬアクシデントも多々あったのですね。扱て、土地造成が終り、本格的建設、いわゆる「町づくり」に入るのですが、その前にどの会社がどこに建てるかという「はりつけ」の段階で苦労なさった当時の富森企画委員長にお聞きします。



富森：企画委員長の指名を受け、先進団地に視察に行ったりもしましたが、一番の難問だったのは、その「はりつけ」で何しろ参加企業にとっては一生の問題ですので、先ず団地の中心部を仮定して、その廻りに扱い品目毎にグループを作りその

又廻りに部会毎の区割りを抽選で決めたり、グループ、部会で話し合いをして貰ったりしたのですが、各企業の希望、要望を聞き入れてのベターな調整が兎に角、大変苦勞しましたよ。

司会：「はりつけ」については当初の予定と実際では若干違ったようですが……。

松島：本当は84社になった時点で、各企業に要望を聞き、坪数によって道路の問題もあり、位置付けをしていたのですが、不公平があってはいけなかったので富森企画委員長に一任したのです。富森さんの苦勞は相当なものだったと思います。

司会：「はりつけ」ではさしたるトラブルは無かったのですね。岡さん、その辺の思い出はありませんか。



岡：確かに富森さんの苦勞は並大抵ではなかったと思います。富森さんのやり方が良かったのです。苦情は確かにあったのですが、個人個人の要望だけでは成立しませんので団地全体の問題として色々な方法をとったのです。

司会：話が前後するのですが上・下水道の問題について一言。

成宮：専門家に頼んだり、市も随分ボーリングをしたのですがどこも水が出なくて弱ったのですが、現在の場所だけが出たのですね。しかし地主との交渉がもめまして大変でございました。

司会：それから建設診断に入るのですが、商工中金から初代常務理事として出向されました野村さんには中金と組合との架け橋となって戴きご苦勞をお掛けしたのですが、どうぞ宜しく……。



野村：昭和53年3月に団地の初期工事の頃、商工中金より出向、着任したのです。私は団地を手掛けたのは初めてだったのですが、当時の支店長は田山さんだったと思いますが商工中金は事業団との密接な繋りがある為、団地造りのノウハウは

有るという事でした。こちらに来てみて先ず驚いたのは登記簿上では30万平方メートル、実測で50万平方メートルというゴルフ場ですとハーフに該当する広大な土地を買収からおやりになったという事実で造成までは県や市がやって、「はりつけ」から組合員がやるというのが通常のパターンでして、小さな団地は別にしまして、恐らく全国で初めてではないかと思えます。その経緯を聞きますと安く上るからの理由でしたが、理事の方は一生懸命に取り組んでおられましたが、先程話に出ましたが投機的に参加された組合員はオイルショックで、ほとんど在庫をはたいて利益が上っている時に決算書を出されているので確かに、坪5・6万円の土地なら2・3年で返せるという考えで、参加されたようですが、私が参りまして建設診断が始まり、その時点での決算書を見ますと、80数社の半分は惨憺たるもので、団地に入っても苦勞するぞと松尾さんとも話したものでした。そして事業団の厳しいチェックで「はりつけ」が終

っていたにも拘らず30数社が次々に脱退されました。

しかし、その頃日本エンジニアリングから専門家の長谷川さんが来られ、県・市をまとめて下さったから今の団地は出来たと思います。

私の任期の2年間も過ぎたのですが団地は草ばかりで、建物は建たないでもう1年任期を延長して貰い先ず確認申請を行い、担保なしで県と商工中金から50億円を借入れて建築に着手した経緯がありました。そういう訳で資金の目途も立ったので私は退いて磯辺常務と交替したのですが、今考えますに今までやってこれたのは用地を確保していた為、転売も出来て、不況を乗り越えられたのだと思います。他所の団地は10年も経ちますとスレートが剥げたりしまして見にくい所もありますが、長崎卸センターは10年を経た今でも立派で素晴らしい団地だとしみじみ嬉しく思います。

司会：組合員の意識集約と金融面の事務処理とか企業診断の資料作成を野村さんとコンビでやって下さった松尾さん如何でしたか。

松尾：野村さんは大変頭脳明晰な方で指導も断定的で、事業計画も20数回一緒に作って参りましたが、野村さんはその間資金面に関しても熱心に努力されまして、私にとっては非常に勉強になりました。

司会：資金面担当の中村副理事長その辺の事情は非常に詳しいと思いますが……。

中村：登記は未だ出来てないのに商工中金から繋いで貰っても未だ足りなくて、とうとう親和・十八両銀行から、担保なしで金利共4億5千万円借入れしたのですが、100社参加の予定が現実には半数の51社となり資金繰りが大変でございまして松島さんが会員増強に奔走されましたが、当時はどうなるものかと心配したものです。

それと道路問題ですが、これははっきり申しまして市の協力はありませんでした。記録を見ますと、34号線と日見バイパスという事で東長崎一馬町間を総事業費400億円で25m幅で全長7.5kmを57年度中に大筋決定の報道がありました。馬町一壺茶屋間は52年度中に着工見込みの報道、中尾線も市が青果市場を造り道路整備をやり卸センターに協力するという諸谷前市長は宣言されました。中尾線の拡幅工事は53年度中に完成する卸団地より約2kmの拡幅は54年度完成の予定54年度内には全長7.3kmを6m幅で整備するという約束も未だに実行されてない。その事を信じ会員増強の宣伝にしたのですが、現実には何ら進んでいない。こういう事もありましたね。

川崎：高度化資金の問題ですが、当時オイルショックで県の予算が非常に窮屈になっており、卸団地をはじめとする高度化資金をどうするかが大問題になりました。

その中で恐らく全国ではじめての措置と思いますが、二年、三年、商工中金の資金で「つなぎ」をして、その後高度化資金に引き継ぐという措置をとり、急場を凌いだわけです。

司会：確かに当時、県と商工中金の協力で卸センターに対する異例の制度化がなされ予算がついた経緯がありました。

中村副理事長から話のあった道路問題もさることながら、決算書を集計され、事業団への説明説得を為された事務局も大変だったと思いますが、松尾さん如何でしたでしょうか。

松尾：事業団から朝電話が入り午後の飛行機で来て欲しいとの連絡があり、説明の為に向かうという事も2・3回あり肝を冷しました。事業計画の初期は非常に苦しみましたね。

司会：特に指導センターと県の中小企業課が一

体となって協力戴いた記憶がありますが、川崎さん当時の事をお話いただけますか。

川崎：そうですね。計画をもって事業団に説明に上京するわけでありますが、ヒアリングを受けている間に色々問題が出てきて、県庁に帰ってきては、土曜日、日曜日でも理事長や松尾さんにおいて願ひまして計画の修正、すぐ上京して説明をする、時には松尾さん一人で上京してもらおうということは何回かしたこともありました。

松島：本当に当時の悪条件の中で県中小企業課・商工中金の方々の激励は嬉しく関係各位には心より感謝致しております。

司会：議事録を見ますと、51年頃は業者への支払いもあり資金面では特に苦しかった時期で、月2・3回も中金で理事会を開き、いわば金庫の中で会を開いていたというのも「何とかしなけりゃ」という考えが実を結んだのだと思います。

資金は何とか回りの協力で出来た、建屋は個々に建ち始めたのですが「はりつけ」後の脱退者が出て会員増強のPRをされた訳ですが、脇山さんにその辺をお話し願ひませんか。



脇山：会員増強委員会を作り、各ブロック毎に勧誘を図ったのですが仲々実を結ばず、決定寸前にキャンセルされたりで、その頃アタックした企業は一社も参加されなかったと思います。

司会：しかし、当時の企業では事業団に診断を仰ぐには資格の無い企業ばかりだったのでしょう。

野村：泡沫企業で今考えるに、その様な会社が参加しなくて却って良かったのではないのでしょうか。



松島：指導センターには、参加希望者を厳しくチェックして戴きました。この点が良かったのだと思います。

司会：野村前常務の後を引継いで四年になられる磯辺常務に四年間に溯って今まで述べられた皆様の補足なり、今日までの経過と'83. 7. 23長崎大水害についてお話し戴きましょう。



磯辺：私が就任致しまして四年目になります。長崎卸センターに参りました時は、組合員は確か45・6名だったと思います。業種的「はりつけ」が当初行われた事や脱退者が出た事であちこちに空地があるという状況もあり、早急に組合員の増強をしなければならない。それまでにかなりキャンペーンをなさり、組合員の勧誘に努力された事も聞いておりましたが100名の目標がその半数では当然資金面の問題の関連も出て来ます。早急に手を打たねばならないといいながらも、48年のオイルショック、50年のドルショックと相次ぐ不況の到来で仲々移転に踏み切れないの

が大方の考えだと思います。今では当時の厳しい企業診断がなされたのが現在の不況に対し却って良かったのではないかと思います。私が参ってから数社脱退もありましたが、割合からいうと些細であります。これも組合員の方々の努力の賜だと思います。

空地进行埋める目標も遅々として捗りませんが、毎年数社ずつではあります、加入され、幸いあと数ブロックを残すのみとなり、何とか形を成してきました。組合内部の運営態勢を充実する為には各種委員会活動を充実させ固めて行こうと思っています。組合を見ますと大手企業あり、県外の出先会社ありますが、同じ団地内にいる訳ですから意識の改革に取り組んでまいりたいと考えております。水害の件に一言触れますが、まさかあの様な大災害になるとは思いもしませんでした。翌朝市内の状況を見るにつけ、のり面の高い団地の山の地滑りが心配でしたが、交通止めで如何ともしがたく状況が明るみになるに従い手を打てる事は打った訳ですが、回復にはかなりの時間がかかるという予想で経営の危機が心配でしたが、結果的に卸センター全体としては被害も思ったより軽くて済んだというのが実感でございました。

水源地だけは被害を受け、役員の皆様には實際足を運んで戴き心配をお掛け致しました。

最後に今後共組合員の方々の経営に良いお手伝いが出来ればと思っている次第でございます。



司会：水害については物流業者の命である道路確保に当時尽力された脇山さんをお願いします。

脇山：水害直後の長崎市内との連絡道路は長崎バイパスのみで、通行許可を得るのに大変だったのですが、県や警察が食糧品関係には緊急通行証の発行等早急な対応、配慮のお蔭で一応順調に業務は遂行出来ました。それと商工会議所のご好意により事務局の分室を会議所内に設置したのが非常に役立ちました。

司会：あれだけの雨量にも拘らず、卸センターの排水は抜群で、床下浸水も一か所もなく感謝している次第です。

総括～まとめ

司会：いろいろ苦労はしたのですが、或る意味では恵まれた形で推移したというのが実感ではないでしょうか。100社から40社弱まで落ち込んだのが、幸いな事に66社まで戻り、少しずつでも今後尚増えて行かろうという卸センター。企業経営者として、それなりの機能或いは母体を持たねば競争社会で生き延びて行けないのではないかと思います。

長崎卸センターは、素晴らしい設備と環境のもとで今後も地域流通のリーダーとしての自覚と責任を持って厳しい現実を乗り越えて行かねばならない訳ですが、最後に中村副理事長に将来の方向性を含め、総括して戴きましょう。



中村：中国自動車道は開通し、東北自動車道も近々開通するでしょう。それに比べ、

九州横断道の開通は昭和65年の予定で、新幹線に至っては目途も立たない状態で、長崎は人・物の流通が取残されてしまうのではないかという不安の中で尚且つ、頑張っ行ってかねばならない状態でございます。

長崎卸センターは創設以来の低成長時代の中で、苦勞しながらも、何とか今日までやって来た訳ですが、ここでもう一度、10年を振り返り、初心に戻り組合を結成した目的に鑑み、決意を新たに15年・20年を目指さねばならないと思います。その為には理事会、各委員会が機能と活動を図り、組合運営を確立せねばならないのが先決だと思います。又、会員増強を変らず続け、空地の補充に力を入れる事が残された課題であります。



これからは組合員としての連帯意識を高揚し、相互扶助の精神に基づいて自主的經營促進を図ること、それが個々の発展に、ひいては団地の經營基盤の確立に繋がるものと思います。皆んなで知恵を出し合い、協力し合い、弛まぬ努力をして行けばおのずと道は拓けるものと確信致しております。

今後共関係各位の御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。

司会：本日は限られた時間内に駆け足で10年を顧みて戴いた訳ですが、御出席の皆様には貴重なお話を賜り誠に有難うございました。本日の座談会を終了させて頂きます。



武 藤



江 下



年 表

〔昭和47年＝1972年〕

昭和47年のおもな出来事

- ※田中内閣の日本列島改造論で全国的に地価が暴騰し大手企業などの土地投機で土地成金が急増、土地は庶民にとって「高嶺の花」となった。
- (1月) ○グアム島のジャングルで28年間隠れていた横井庄一さんが発見され帰国第一声の「恥ずかしながら生きながらえて…」が流行語となった。
- (2月) ○連合赤軍5名が「あさま山荘」に逃げ込み、管理人の妻、牟田泰子さんを人質として籠城、クレーン車・催涙ガス・放水作戦で犯人逮捕、救出状況をテレビ中継で放映、話題を呼んだ。
- (5月) ○イスラエルのテルアビブ空港で日本人過激派ゲリラ岡本公三ら3名が小銃を乱射、26名死亡、72名が負傷、犯人の2名は射殺され、生き残った岡本はイスラエル軍事法廷で終身刑となった。
- (8月) ○西ドイツ、ミュンヘンオリンピックが開催され、日本は金メダル13個を獲得、男子体操4連勝、男子バレーボール初優勝、男子100m平泳ぎで田口選手が優勝するなどの活躍をした。
- (11月) ○日中国交回復を記念し、中国から二頭のパンダが贈られ、上野動物園にお目見え、一大パンダブームを巻き起した。
44. **発起人会発足** 長崎卸商百貨連盟を母体とした24社にて発起人会発足。
- 47.4.4 **創立総会** 創立総会が組合員70名にて開催される。
理事長松島福男、副理事長中村房一、頓田敏夫、選出される。
- 6.16 **臨時総会** 実行予算案、専門委員会制定案、規約案、自己資金積立計画案、夫々承認される。
- 27 **理事会** 候補地として古賀地区を検討する。
- 7.12 **理事会** 各種専門委員会委員割当、組合員現況訪問調査

組合員ヒヤリングの実施及び第1候補地として市内古賀地区118千坪、第2候補地として諫早市久山地区の調査等を審議する。

- 22 **理事会** 実施計画基本案の策定等審議する。
- 29 **組合ヒヤリング** 候補地として諫早久山地区に内定のヒヤリング開かれる。
- 8.5 **理事会** 新候補地について、現在地(田中町)が候補に上り審議される。
- 30 **組合ヒヤリング** 候補地の急変に伴いヒヤリング開かれる。
- 9.14 **理事会** 現在地に決定する。
- 18 **関係機関協議会** 県・市関係機関と現候補地について協議する。
- 11.21 **記者会見、新聞発表** 記者会見にて敷地決定を発表し、組合員募集の広告を新聞に掲載する。



〔昭和48年＝1973年〕

昭和48年のおもな出来事

※48年10月第4次中東戦争の勃発で、石油事情が一変、高度成長下の日本経済はオイルショックの逆噴射がかかって省エネ時代に突入し街のネオンは消え、テレビ放映時間が短縮された。

一方石油不足によるモノ不足という状況がクローズアップされ、庶民は買いだめパニックにおち入り、狂乱物価で生活は深刻な事態になった。

- (4月) ○祝日が休日と重なった場合その翌日を休日とする「振りかえ休日」が実施された。
- (7月) ○大手商社による買占め、売り惜しみが起因し、これを取り締る投機防止法が成立、合成洗剤、灯油など生活関連物資を中心に24品が対象となった。
- (11月) ○愛知県豊川信金小坂井支店で、一女学生の「信金が危ない」という軽口からデマに発展、7,000余人が20億円を引き出すという銀行取りつけパニックが発生した。
- 大阪千里ニュータウンのスーパーでトイレレットペーパー、紙おむつなどの紙製品が姿を消したことに端を発し、各都市のマーケットではトイレレットペーパー買いだめ騒ぎが起った。なかには3年分も買いだめする人もあり「現代版三白」といわれる紙・洗剤・砂糖の業者は笑いが止まらなかった。

- 48.1.18 **臨時総会** 48年度事業実施計画説明承認及び理事、監事補充選出される。
- 3.15 **理事会** 用地買収及び開発許可申請事務進捗状況等について審議し、直ちに用地買収を開始した。
- 4.10 **理事会** 退会者の出資金等返還事務等審議される。
- 5.17 **開発申請審査会** 県・市関係各機関により開かれる。
- 21 **通常総会** 47年度事業報告、48年度事業計画、予算案承認及び役員改選される。
- 9.18 **開発許可申請技術検討会** 県・市各機関により開発許可申請の内容検討をされる。
- 10.24 **開発許可** 土地計画法第29条により開発許可される。
- 11.24 **説明会** 県主催により高度化資金借入れ手続きについて説明会開催。

〔昭和49年=1974年〕

昭和49年のおもな出来事

- ※「消費は美德」といわれた使い捨て時代から、戦時中の様な「節約は美德」との言葉がカムバック、各地のデパートでは各種修理コーナーがお目見えするなどマイナス成長時代に入った。
- (2月) ○宇都宮、北九州、大阪の中高校生グループなど10代の若者が「騒ぎを起したかったから面白半分」といった理由で各都市に爆弾を仕掛ける事件が続発した。

- (3月) ○残置謀者としてルバング島に30年間潜伏中の小野田寛郎元少尉が救出された。前にグアム島で発見された横井さんと異なり陸軍中野学校出身のため上官の投降命令がないと絶対に姿を現わさないという精神に貫かれていて話題をまいた。
- (7月) ○五億円なら当選、四億円なら落選することから「五当四落」で参院選挙の金権候補者糸山英太郎議員は10億円の巨額の選挙費用を使って当選。一方では「金のかからない選挙」を標榜した市川房枝、青島幸男両議員なども当選した。
- (9月) ○ミスージャイアンツこと巨人軍長島茂雄選手が「わが巨人軍は不滅です」の名言を残して現役を引退した。
- (12月) ○ロッキード事件で田中内閣が総辞職し、椎名副総裁の老かいな裁定で弱少派閥の領袖、三木武夫氏が福田赴夫氏をおさえて首相に就任した。



- 49.1.26 **全員協議会** 事務進捗状況報告、用地買収、造成、資金計画等協議される。
- 3.29 **造成工事入札** 9業者により行われる。
- 4.5 **造成工事再入札** 10業者により行われる。
- 13 **理事会** 造成工事入札結果に対する対策検討及び業者決定法など審議。
- 5.24 **通常総会** 48年度事業報告、49年度事業計画、予算案承認され役員補欠選挙される。
- 7.2 **造成工事起工式**
- 8 **造成工事着工祝賀会** 組合員及び関係各位により着工祝賀会開催される。
- 10.22~26 **先進団地視察** 大阪繊維団地他視察する。

〔昭和50年＝1975年〕

昭和50年のおもな出来事

※戦後最大の不況時代となり大学卒予定者の就職内定取り消しや自宅待機通告が相次ぎ完全失業者が108万人となり8年ぶりに100万人を突破するなど不況が深刻化してきた。

- (3月) ○国鉄新幹線の岡山ー博多間が開通、東京ー博多間が七時間半たらずで行けることになった。
- (5月) ○日本女子登山隊(久野英子隊長)の田部井淳子副隊長が女子で初のエベレスト登頂に成功、ネパール国王から最高勲章を親授された。
- (6月) ○榎美沙子会長の「中ピ連」が結成され、経口避妊薬ピル解禁を通じて「女性解放運動」を進めようと従来の婦人運動からアイデアを生かした鋭い直接行動を特徴に「女性の敵、追求で存在をきわ立たせた。
- (7月) ○沖縄の本土復帰三大記念行事の一つとして「沖縄海洋博」が六か月間開催され、入場者のべ348万人を集めた。
- (10月) ○球団創立26年目の広島東洋カープがセ・リーグで初優勝、チームカラーの赤いヘルメットが過激派日本赤軍の赤ヘルメットとイメージがダブって「赤ヘル軍団」の異名となった。



- 50. 1. 22 全員協議会 事業経過報告等協議される。
- 2. 17 先進団地視察 有田陶磁器団地を視察する。
- 25 先進団地視察 鹿児島総合卸団地を視察する。
- 5. 17 通常総会 49年度事業報告、50年度事業計画、予算案承認及び役員改選される。
- 6. 23 設計業者選定 組合員建家設計業者として日本エンジニアリングに決定する。
- 7. 4 全員協議会 事業経過報告、組合員配置計画について協議される。

〔昭和51年＝1976年〕

昭和51年のおもな出来事

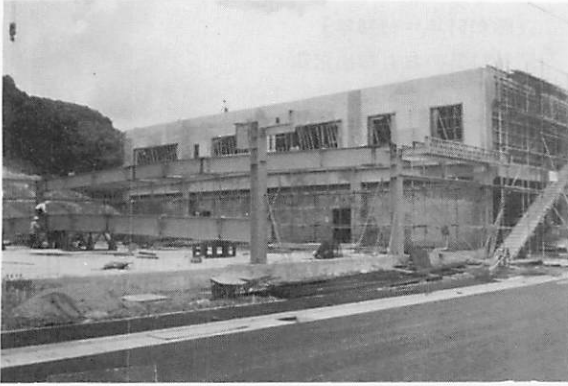
※51年の景気は相変わらず停滞気味で脱サラブームは去って「兼サラ」という言葉がささやかれる様になった。不況で昇給は望めず、サラリーマンは増収を計るため、現職を固執しながらサイドビジネスの新商売を種々考案、生活防衛の策とした。

- (1月) ○NHK記者山下頼充さんの妻、紀子さんが鹿児島市立病院で「五つ子」を出産し、全員順調に育成した。
- (7月) ○ロッキード事件で前総理田中角栄の逮捕に続き灰色高官の佐藤孝行・元運輸政務次官、橋本登美三郎・元運輸相なども逮捕され、稲葉修法相は「灰色高官は18名」と公表政治家、政府高官は恐怖動揺した。
- プロ野球巨人軍王貞治選手がプロ生活18年、2,270試合目に通算716号ホームランを放ち、ベーブルースの記録を抜き、翌52年には756号の世界記録を作った。
- (9月) ○ソ連の最新鋭戦闘機ミグ25に乗ってベレンコ中尉が函館空港に着陸、アメリカへの亡命を希望した。秘密性能の機体が自衛隊百里基地で分解検査されたことによって、日ソ間の国交問題が複雑化した。

- 51. 1. 20～28 建設診断 組合及び組合員の診断実施(県、事業団)。
- 2. 18 レストラン及び警備保障の業者選定
- 3. 23 臨時総会 組合員脱会が相次ぎ組合員増強及び運営計画再検討案等審議される。
- 4. 9 理事会 県、市への道路事情促進陳情について審議される。
- 4. 26 組合会館起工式 会館着工による地鎮祭行われる。



- 5. 21 通常総会 50年度事業報告、51年度事業計画、予算案承認及び役員補欠選挙。



- 8.23 臨時総会 建築規定、建設業者指名、設計監理報酬等審議承認される。
- 9. 第一污水处理施設完成
- 9.28 造成完了検査 県建築課により検査される。
- 10.15 落成式 団地造成、組合会館竣工落成式行われる。
- 25~27 建設診断 第二次建設本診断行われる。
- 12.11 懇親会 組合員懇親会開催される。

〔昭和52年=1977年〕

昭和52年のおもな出来事

- ※経済面では日経連桜田会長をして「円高ショックは昭和恐慌以上だ」といわしめたまでに円が高騰し倒産続出、更に深刻な不況に直面すると予想されたが、案に相違して輸出は伸び続けた。
- 一方、大阪を発祥の地にカラオケブームが起り、ディスコで遊ぶには年をとり過ぎ、クラブで遊ぶには金がない中年男の格好の気ばらしとなったが騒音公害にも拍車をかけた。
- (3月) ○宇宙開発事業団が打ち上げた「きく2号」がわが国初の静止衛星となった。
- (4月) ○全国柔道選手権に東海大二年の山下泰裕四段(19才)が初優勝史上最年少の十代チャンピオンとなった。
- (8月) ○ロッキード事件の初公判で検事側が明らかにした田中角栄被告の言葉、丸紅の五億円提供をとまなう請託を田中が「よっしゃよっしゃ」と引受けたということから流行語となった。
- (8月) ○昭和20年に昭和山を造って以来32年振りに有珠山が再び大噴火、地元の洞爺湖温泉は無人の街と化し火山灰で農産物は全滅した。
- (11月) ○福田首相が新しく総理大臣表彰制度として作った「広く国民に敬愛され社会に明るい希望を与えることに顕著な業績が

あったもの」を対象とした国民栄誉賞が受賞第1号としてホームラン世界記録756号樹立の巨人軍、王貞治選手におくられた。

- 52.3. 建設完了 第一次組合員31社店舗等建設完了。
- 5.23 通常総会 51年度事業報告、52年度事業計画、予算案承認及び役員改選。
- 6.29 研修会 新入社員講習会行われる。
- 7.2 入社式 新入社員合同入社式開催される。
- 3 体育大会 ソフトボール、卓球大会開催される。
- 52.7.6 来訪 市内高校教師が団地視察。(60名) れる(60名)。
- 21 見学 高校卒業予定者団地見学(120名)。
- 9.26 研修会 セールスマン研修会行われる。

〔昭和53年=1978年〕

昭和53年のおもな出来事

※長いトンネル不況に入った日本企業は高度成長時代の設備投資でふくれた肥満児のぜい肉を落す体質改善に減量経営を図り、ヒト(従業員)モノ(在庫)カネ(借金)べらしを三本の柱とするケチケチ経営を実施、売上げはふえないが利益だけは持ち直すという、減収増益型の企業がふえた。無担保で手軽に借りられる「サラ金」が大繁盛し、その便利さゆえに、借金を苦に自殺や一家心中が増加。「サラ金地獄」という流行語まで生まれた。

- (2月) ○ソ連、ヨーロッパなどで流行の新型ソ連かぜが広がり、全国の児童生徒の集団かぜは119万人にのぼり、臨時休校が続出した。
- (3月) ○過激派の管制塔破壊など反対運動でのびのびになっていた成田空港(新東京国際空港)が機動隊13,000人の警備に守られてようやく開港した。
- (6月) ○宮城沖大地震のため仙台市の電気・水道・ガスなど都市生活に欠かせないシステムが破壊され、市民は不便な生活を強いられた。専門家はこれを「ライフ・ラインの破壊」と呼んだ。
- (11月) ○アメリカから帰国した現巨人軍江川卓投手が、ドラフト制度の盲点をついた交渉でプロ野球界を混乱に落とし入れ、巨人・阪神が対立したが結局、巨人は小林繁投手を阪神にトレードし、江川投手の巨人入団が実現した。

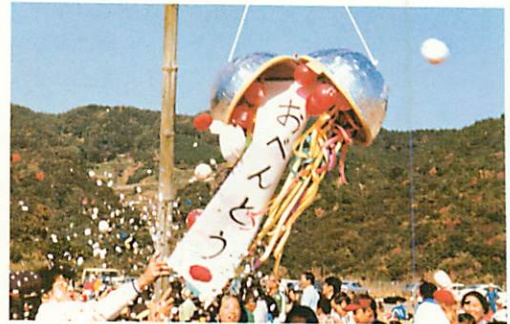
- 53. 1. 30 **検査** 第一次入居者建設完了検査。
- 2. 21～23 **建設診断** 第三次建設診断行われる。
- 3. **建設完了** 第二次組合員12社店舗等建設完了。
- 4. 12 **入社式** 新入社員合同入社式行われる。
- 5. 11～13 **健康診断** 団地従業員定期健康診断行われる。
- 22 **通常総会** 52年度事業報告、53年度事業計画、予算案承認される。
- 27 **長崎祭り参加** 長崎祭りに組合として初参加する。



- 28 **体育大会** 卓球大会開催される。
- 6. 8 **ハタ揚大会** NBC賛助により団地ハタ揚大会開かれる。
- 12～22 **見学** 川棚養護学校、蚊焼小学校、諫早養護学校等見学団相次ぐ。
- 28 **路線バス乗入れ** 県営バス団地乗入れ認可される。
- 7. 9 **体育大会** 団地ソフトボール大会開催される。
- 21 **見学** 来年春高校卒業予定者団地見学(150名)。
- 8. 25～28 **研修会** 販売力強化合宿研修会(JMC)開催される。



- 9. 15 **建設診断** 第四次建設診断実施。
- 9. 25～28 **会議** 卸団地トップセミナー理事長出席(中金本店)。
- 10. 11～12 **会議** 全国商団連トップセミナー武藤理事出席(東京)。
- 10. 26 **完了検査** 第二次入居者店舗完了検査される。
- 11. 5 **体育大会** 団地大運動会開催される。



- 10 **来訪** 徳島県労務改善集団来訪、経験交流行われる。
- 12. **団地測量完了** 団地有効面積実測(区分測量)完了する。

〔昭和54年=1979年〕

昭和54年のおもな出来事

※「早めしも芸のうち」というが、手軽に早く食べられる「ファーストフード」ハンバーガー・ラーメン・牛丼などの店が急増、日本の外食産業は10兆円産業にのしあがった。一方、夕食の材料を配る「食材宅配業」も増えるなど日本人の食生活が若年層(若者)を中心に大きく変った。また、「スペース・インベーダー」というテレビゲームが爆発的に大流行したが余りの過熱ぶりから、ゲーム代欲しさの万引をする小中学生が続出して衰退を早め秋頃には、線香花火のように消滅した。

(1月)○上越新幹線の工事にともない山岳トンネルでは世界最長の大清水トンネル(22.2km)が貫通した。

- (2月) ○中国の王侯貴族が利用した宿命鑑定法「算命星将」の一項目、天中殺の本が爆発的に売れ、著者が長嶋巨人軍監督の天中殺を指摘して話題を呼んだ。
- (3月) ○人気ジョッキー福永洋一騎手がレース中に落馬して負傷、意識不明となって騎手生活に終止符を打った。
- (6月) ○東京サミット出席のため米国のカーター大統領が夫妻で来日、皇居前でジョギングをしたり、赤坂のヤキトリ屋に飛び込んだりしてカータースマイルをふりまき、警備陣をあわてさせた。
- (7月) ○「石油5%節約」、「冷房は28℃に」、「ノータイ・ノー上着」という省エネ運動の中、サファリジャケット風の省エネグッズが流行し、大平首相も着用、エネルギー担当の江崎通産大臣は東京サミットもこれで押し通して話題を呼んだ。
- (10月) ○婦系図のお薦、明治一代女のお梅などで一世を風びした日本の代表的女優「水谷八重子」が東京順天堂病院で乳ガンのため死去した。

- 54. 1.13~16 **研修会** 第二回販売力強化合宿研修会開催される。
- 1.18 **来訪** 宮崎県労務改善集団来訪され経験交流行われる。
- 2.10~13 **研修会** 中堅幹部強化合宿研修会開かれる。
- 2. **常務理事更迭** 野村耕治常務理事は出向が解け商工中金北九州支店へ、新たに商工中金鳥取支店より磯辺重孝氏を迎える。
- 3.9 **来訪** 福江市商工会議所来訪される。
- 13 **来訪** 青森県八戸基地建設促進協議会来訪される。
- 3. **建設完了** 第三次組合員7社店舗等建設完了。
- 5.18 **ハタ揚大会** 団地内ハタ揚大会行われる。
- 5.27 **長崎まつり** 長崎まつりに団地より揃いの浴衣、ハッピー姿で踊りに大量参加する。好評であった。
- 5.28 **通常総会** 第7回通常総会開催。
- 6. **見学** (1日) 諫早養護学校
(8日) 三和町蚊焼小学校
(21日) 長崎女子商業高校
夫々に団地見学。
- 6.4 **中国来訪** 中国より訪日使節団当団地へ来訪される。



- 6.13~16 **研修会** 販売力強化合宿研修会が開催される。
- 6.22 **青年部結成** 卸団地内青年部として「新緑会」結成総会開かれる。
- 7. **建設診断** 第5次店舗等集団化建設診断実施。
- 7.15 **体育大会** 第三回ソフト、卓球大会開催される。



- 7.18 **消費税反対集会** 一般消費税反対集会に参加する。
- 23 **見学** 来年春市内高等学校卒業予定者団地見学する。
- 8.1 **消費税反対集会** 一般消費税反対長崎県中小企業団体連盟結成大会に参加する。
- 6 **体育大会** 第1回団地早朝ソフトボール大会開始される。
- 9.13~14 **香港見本市** 香港より業者来訪による見本市開催される。
- 13~18 **中国視察** 日中友好団の一員として、常務中国を視察する。
- 28 **講習会** 危険物取扱者講習会開かれる。
- 9.21 **視察** 経営指導員団地を視察。
- 10.19

- 10.1 見学 上長崎小学校団地を見学。
- 11~13 文化祭 第一回団地文化祭を開催する。
- 11.8 見学 西坂小学校団地を見学。
- 14 視察 宇和島商工会議所より団地視察に来られる。
- 12.21 交通安全表彰 東長崎警察署にて交通安全協会より表彰される。

- 10 入社式 団地内新入社員による合同入社式開催される。
- 5.14~15 検査 54年度進出企業中間検査が行われる。
- 18 運動会 団地総合運動会開催される。
- 23 通常総会 第8回通常総会開催される。
- 6.8 卓球大会 団地内卓球大会開催される。

〔昭和55年=1980年〕

昭和55年のおもな出来事

※賃金の伸びから物価上昇分を差し引いた「実質賃金」が労働省の昭和27年初調査以降、初めて前年比0.9%減少となった。国税庁発表の「55年分民間給与の実態」によると勤労者の平均年収295万円、伸び率5.7%は消費者物価指数の上昇率8%で実質所得はマイナスとなった。

- (5月) ○ソ連のアフガニスタン出兵に抗議のため J・O・Cでは、モスクワ五輪不参加を決めた。
- (6月) ○田中派との連合で成立し、角影内閣と呼ばれた大平首相が急死、鈴木内閣が誕生「直角内閣」といわれた。
- (9月) ○元日本共産党政治局員伊藤律氏が29年ぶりに中国より帰国ゾルゲ事件の真相を知る人として注目されたが、それについては一切言及しなかった。
- (11月) ○通算ホームラン868本の世界記録を持つ巨人軍の王貞治選手が現役引退、同軍助監督に就任した。
- 55.1.14 成人式 団地内従業員の合同成人式開催される。



- 9 ソフト大会 団地内ナイターソフトボール大会開始される。
- 14 協議会 組員全員協議会が嬉野で開催される。
- 7.3~5 診断 55年度進出企業建設本診断行われる。
- 8.1 来訪 宮崎卸商業センター(13名)より団地視察に来訪される。
- 19~22 健康診断 団地内健康診断実施。
- 9.19 完成 第2汚水処理場完成する。
- 9.26 理事会 組員増強対策について外審議される。
- 10.18 委員会 組員増強対策委員会開催される。
- 11.27 来訪 消費者団体(50名)より団地視察来訪される。
- 12.4 検査 55年度進出企業完了検査(4社)。
- 12 会議 組員年末意見交換会行われる。



- 2.8 視察 長崎商工会婦人部団地を視察。
- 3. 建設完了 組員7社店舗等建設完了する。
- 4.5 見学 五島奈留島商工会議所青年部(7名)より団地視察。

〔昭和56年=1981年〕

昭和56年のおもな出来事

※エレクトロニクスの進歩にともないラジカセなど種々の組合せ商品が開発登場し、「複合化時代」と言われた。又、著作権法違反の訴え裁判をおこすなど貸レコード店が全国的に急増した。

- (2月) ○昭和8年の開場以来50年余りの歴史を持ち「陸の竜宮」といわれた、レビュー、映画、演劇の殿堂有楽町の「日劇」が閉場した。
- (4月) ○映画俳優石原裕次郎が、「解離性動脈瘤」という病名で四谷の慶応病院に入院、入院生活130日、見舞客10,300人という大騒ぎとなった。

(5月) ○ポーランド自主管理労組「連帯」のワレサ委員長が来日、そのヒゲが若者たちの間に流行した。

(10月) ○ロッキード裁判の被告、榎本敏夫の前夫人、榎本三恵子さんが検察側証人として登場し、田中角栄の五億円受領を裏付ける衝撃的な新事実を暴露し、世間をアツと言わせた。

同夫人の「ハチは一度刺したら死ぬといいますが私も同じ気持ちです」と発言、「ハチの一刺し」が流行語となった。

- 56.1.6 交歓会 組合員新年交歓会行われる。
- 16 成人式 組合従業員合同成人式開催される。
- 2.3 即売会 組合員難物市開催される。
- 3.16 理事会 部会再編成等審議される。
- 3. 建設完了 組合員2社店舗等建設完了。
- 4.22 入社式 組合員新入社員合同入社式開催される。



- 5.12 健康診断 組合員従業員健康診断行われる。
- 23 通常総会 第9回通常総会開催される。
- 6.9~11 視察 韓国へ企業視察(馬山工業団地)及び商談を行う。
- 7.12 卓球大会 第4回卸団地卓球大会開催される。
- 7. 建設完了 第7次店舗等集団化建設完了。
- 8.25 検査 第6次建設完了検査。
- 9.24 来訪 高知県商工部(24名)より団地視察に来訪される。
- 10. 駐車場整備 共同駐車場整備完了。
- 11.7 来訪 (協)佐賀卸センター青研会(15名)より団地視察に来訪される。
- 16~17 懇談会 五島商工会との商取引懇談会に出席する。(青方にて)
- 12.8 来訪 参議員物価対策委員会(12名)より団地視察に来訪される。
- 19 会議 組合員年末意見交換会開かれる。

[昭和57年=1982年]

昭和57年のおもな出来事

※7月23日の夜、記録的な大雨が長崎地方を襲い、未曾有の「長崎大水害」を起した。死者、行方不明299名、道路の寸断、ガス、水道、電気の途絶で市民生活は大混乱し、以降水害の後遺症から長崎経済は深刻な水害不況となり「水害倒産」が続出した。「水害水害で明け暮れた一年だった」

- (1月) ○新日鉄釜石ラグビーチームが4年連続日本一の偉業を遂げた。
- (6月) ○東北新幹線が盛岡一大宮間で開通した。
- (9月) ○国家公務員の給与が人事院の勧告に対して、完全凍結され、これに呼応し民間給与も最低のペースアップにとどまり、庶民の財布のヒモはかたくなった。
- 57.1.7 交歓会 卸団地新年交歓会開かれる。
- 18 成人式 組合従業員合同成人式開催される。
- 3.4 会議 正副部会長会議開催される。
- 3.11 来訪 広島市役所流通団地関係者より団地視察に来訪される。
- 3.25 来訪 宇部市より団地視察に来訪される。
- 3. 建設完了 組合員6社店舗等建設完了。
- 4.12 入社式 新入社員合同入社式開催される。
- 5.11~15 健康診断 卸団地組合従業員健康診断行われる。
- 24 通常総会 第10回通常総会開催される。
- 6.7 委員会 10周年記念行事委員会開催される。
- 7.23 大水害 夜半より未曾有の大水害に見舞われる。
- 26 理事会 災害対策について協議する。
- 30 理事会 災害対策について審議する。



- 31 受賞 第8回県献血推進大会にて感謝状受賞する。
- 8.9 会議 全員協議会を開催する。

- 17 役員会 7. 23水害, 被災状況外審議する。
- 9.16 役員会 理事長選任, 災害融資, 等審議する。
- 20 役員会 理事長, 副理事長選任の件審議する。
- 21 来訪 山口県流通センター卸事業協準備会 (11名)より団地視察に来訪される。
- 11. 7 卓球大会 団地内卓球大会開かれる。
- 12. 6~7 診断 県より運営診断行われる。
- 18 役員会 各種委員会再編成の件等審議される
- 58. 1. 7 交歓会 団地新年交歓会開催される。



- 17 成人式 組合員従業員合同成人式を開催する。
- 2. 14~16 視察 先進団地第一班 (金沢・福井)
- 20~22 視察 先進団地第二班 (静岡・浜松)
夫々視察する。

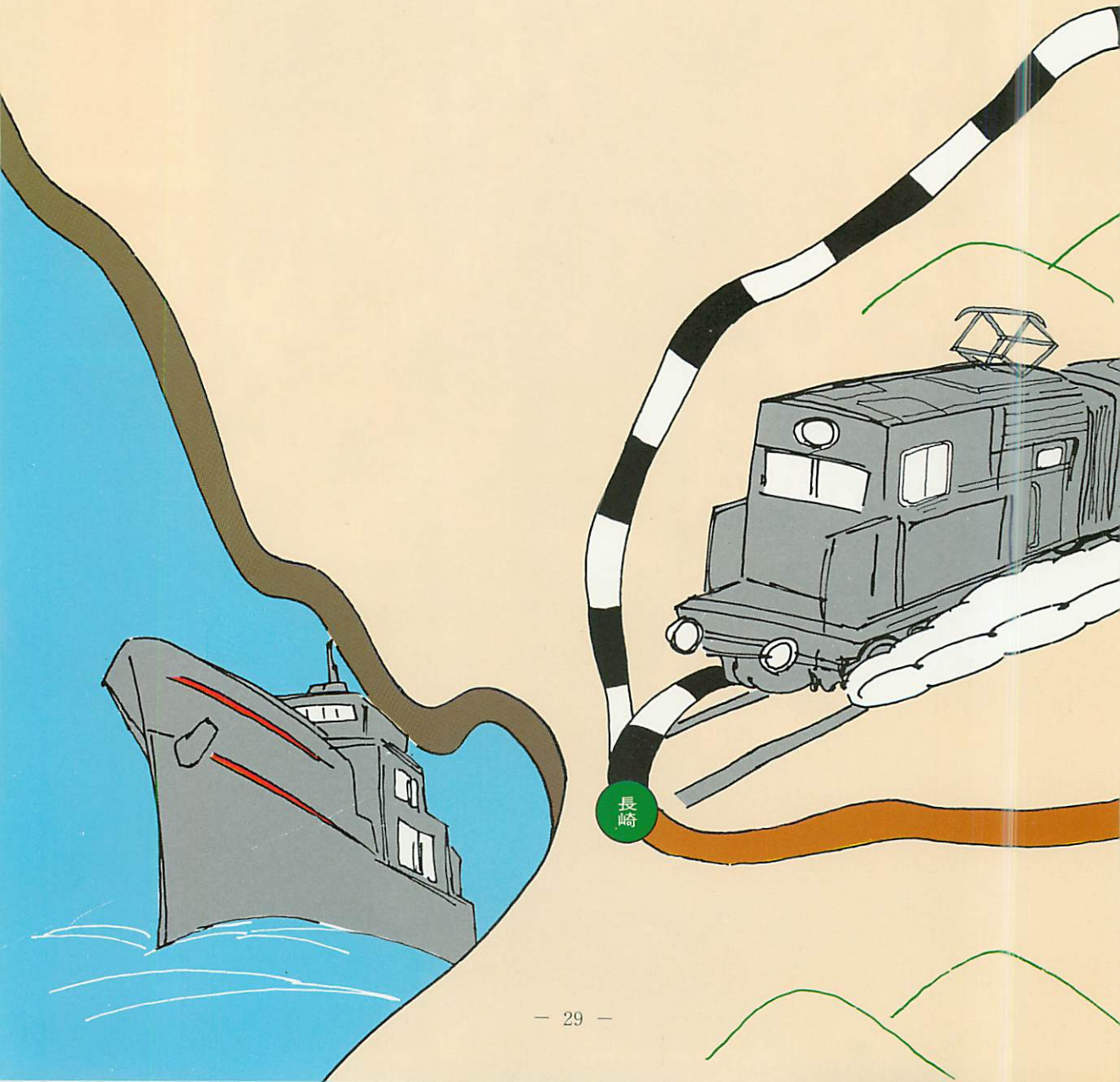






編

明日の流通界に翔く 長崎卸センター



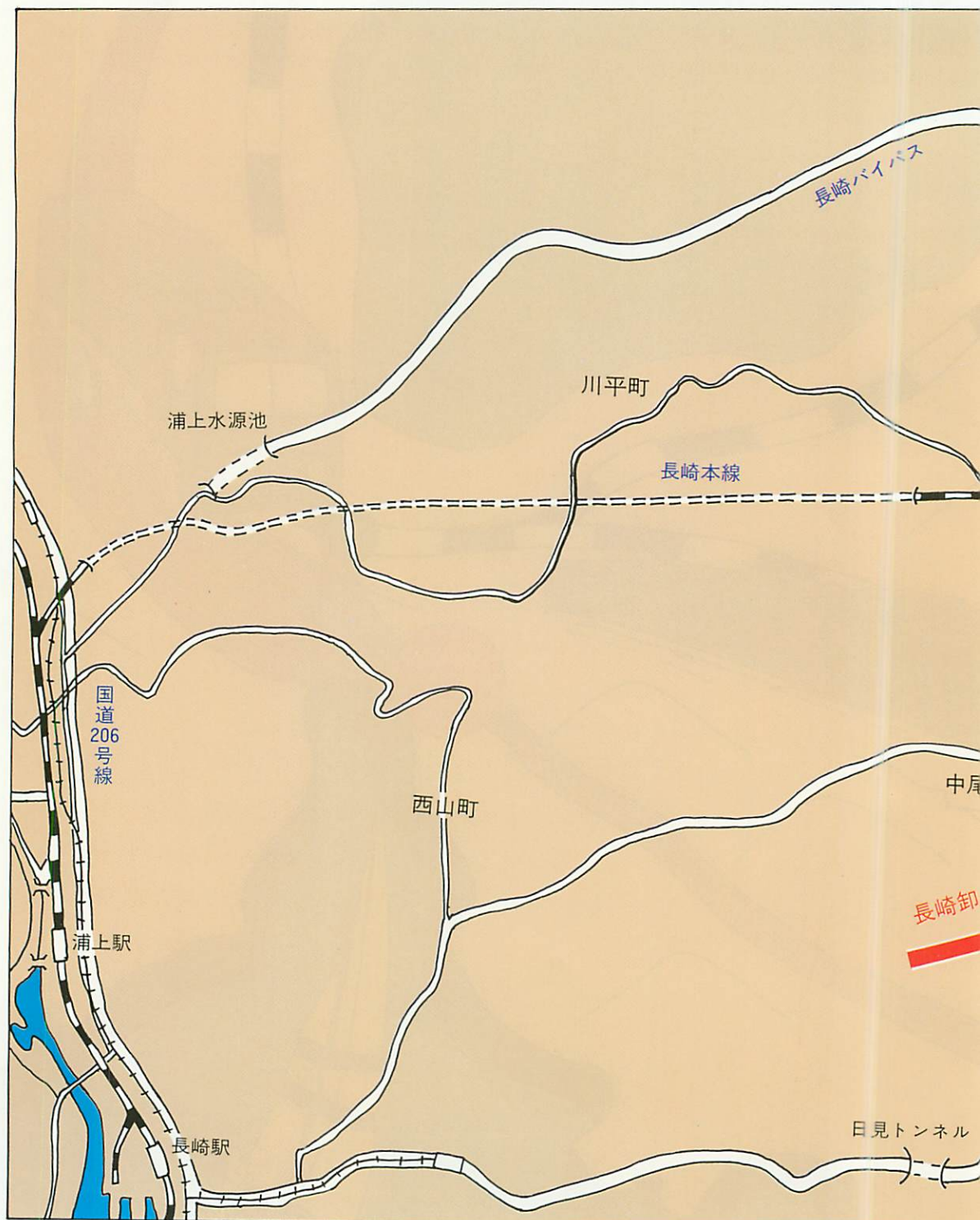
長崎空港

大村

諫早

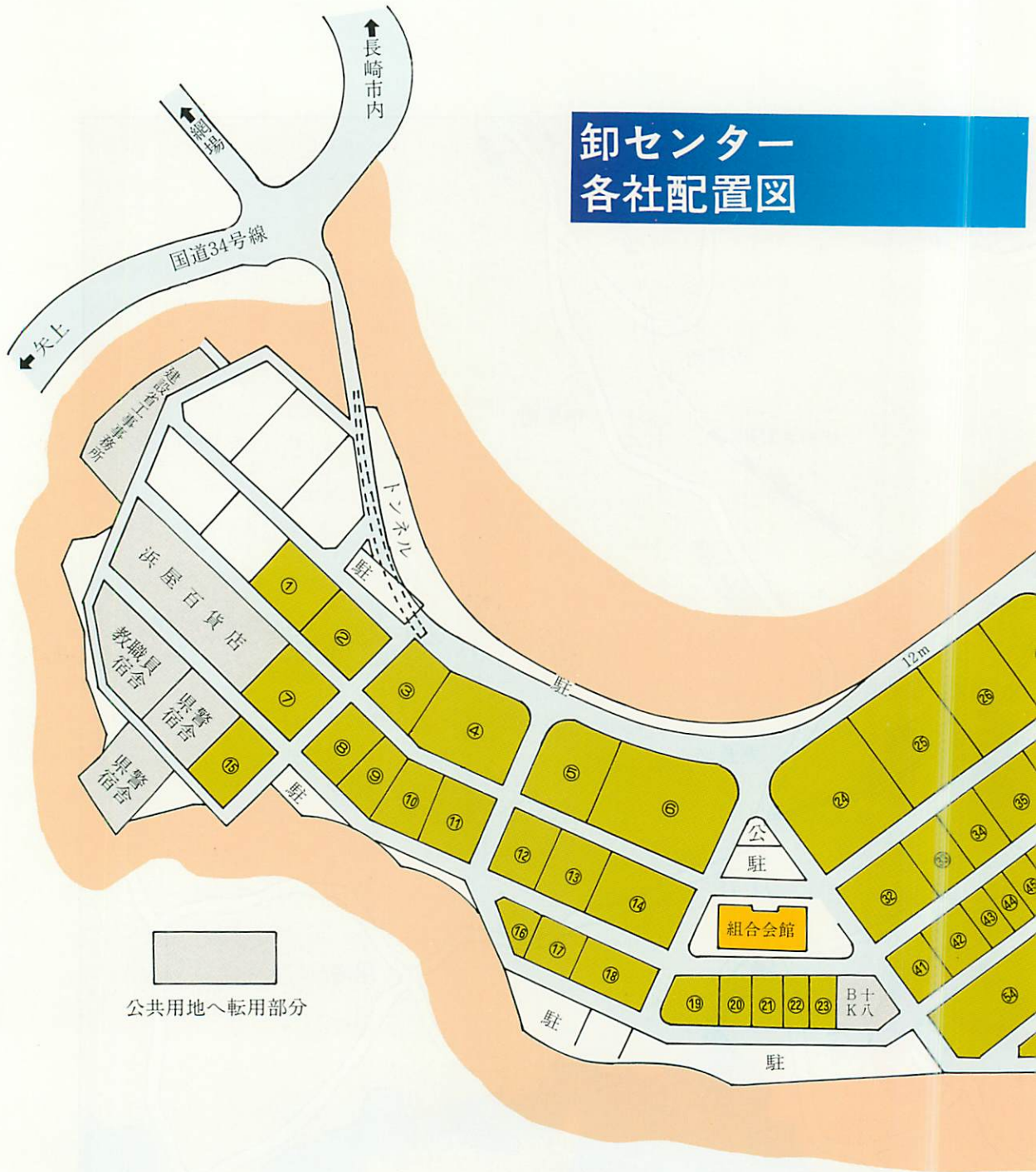
長崎
卸センター

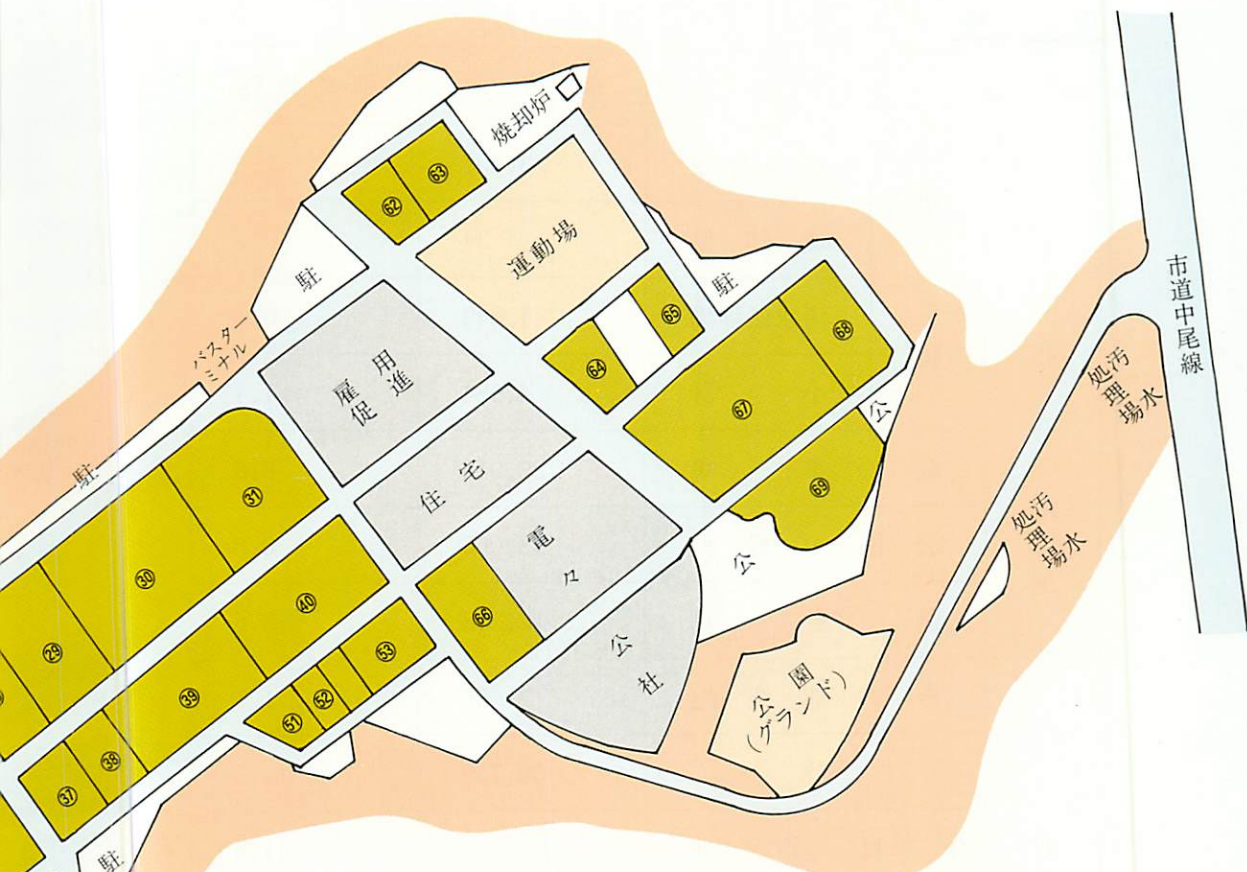
長崎卸センター位置図





卸センター 各社配置図





- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|------------|-------|---------|----------|---------|------------|--------------|------------|------------|---------|---------|-------|------------|------------------|---------------|--------------|---------------|-------|-------|-----------------|------------------|---------|----------|------------|---------|---------------|------------|---------|-------|----------------|-------|---------|---------|-------|--------------|---------|---------|-------------|-------|----------|----------|----------|----------|-------------------|---------|----------|----------|-----------------|----------|--------|---------|-----------|---------|------------|---------|------------|------------|-------|----------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------------|-------------|----------------|-----------|
| ① 出版輸送株 | ② 森岡商事株 | ③ 長崎県中央米穀株 | ④ 榊本屋 | ⑤ 長米商事株 | ⑥ 榊入来屋商店 | ⑦ 榊柴東製菓 | ⑧ 迅務株長崎営業所 | ⑨ 長崎三協サツシ販売株 | ⑩ 榊丸菱長崎営業所 | ⑪ 長崎アサヒ販売株 | ⑫ 榊中尾商店 | ⑬ 榊岡部商店 | ⑭ 榊丸本 | ⑮ 産洋自動車販売株 | ⑯ 三菱鉛筆九州販売株長崎営業所 | ⑰ 日本乾溜工業株長崎支店 | ⑱ 西彼酒類卸小売(協) | ⑲ フクニチ太洋出版販売株 | ⑳ 南緑屋 | ㉑ 丸汐株 | ㉒ 千代田ニチエー株長崎出張所 | ㉓ プリチストンタイヤ長崎販売株 | ㉔ 長崎乾物株 | ㉕ 榊長崎コクヨ | ㉖ 榊永池長崎営業所 | ㉗ 手塚商事株 | ㉘ 長崎三菱電機商品販売株 | ㉙ 村上ホンダ販売株 | ㉚ 藤村薬品株 | ㉛ 丸宮株 | ㉜ 榊福岡フジエイ長崎営業所 | ㉝ 西澤株 | ㉞ 長崎月星株 | ㉟ 南吉次商店 | ㊱ 前田株 | ㊲ 榊ゼネラル長崎営業所 | ㊳ 吉田商事株 | ㊴ 南木原商店 | ㊵ 花王製品長崎販売株 | ㊶ 榊三協 | ㊷ 南岸川満商店 | ㊸ 寿扇苑丸寿株 | ㊹ 榊京屋長崎店 | ㊺ 南ナガタ服装 | ㊻ 九州NEC商品販売株長崎営業所 | ㊼ 榊協米商会 | ㊽ △トウ電材株 | ㊾ 平薬品産業株 | ㊿ 榊米城カーセンター長崎支店 | ① 新建材商事株 | ② 南コブチ | ③ 藤村薬品株 | ④ 南家具のつる屋 | ⑤ 飯塚電産株 | ⑥ 長崎クラリオン株 | ⑦ 南三洋機器 | ⑧ 榊長崎バルタック | ⑨ 長崎クラリオン株 | ⑩ 服部株 | ⑪ サンデン販売株長崎営業所 | ⑫ 榊松尾文化瓦工業所 | ⑬ 南佐藤泰治商店 | ⑭ 山二塗料産業株 | ⑮ 南古瀬ガラス店 | ⑯ 九州ソニー販売株長崎営業所 | ⑰ (合)中島博材木店 | ⑱ 九州産交運輸株長崎営業所 | ⑲ 中島木材工業株 |
|---------|---------|------------|-------|---------|----------|---------|------------|--------------|------------|------------|---------|---------|-------|------------|------------------|---------------|--------------|---------------|-------|-------|-----------------|------------------|---------|----------|------------|---------|---------------|------------|---------|-------|----------------|-------|---------|---------|-------|--------------|---------|---------|-------------|-------|----------|----------|----------|----------|-------------------|---------|----------|----------|-----------------|----------|--------|---------|-----------|---------|------------|---------|------------|------------|-------|----------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------------|-------------|----------------|-----------|

長崎卸センター

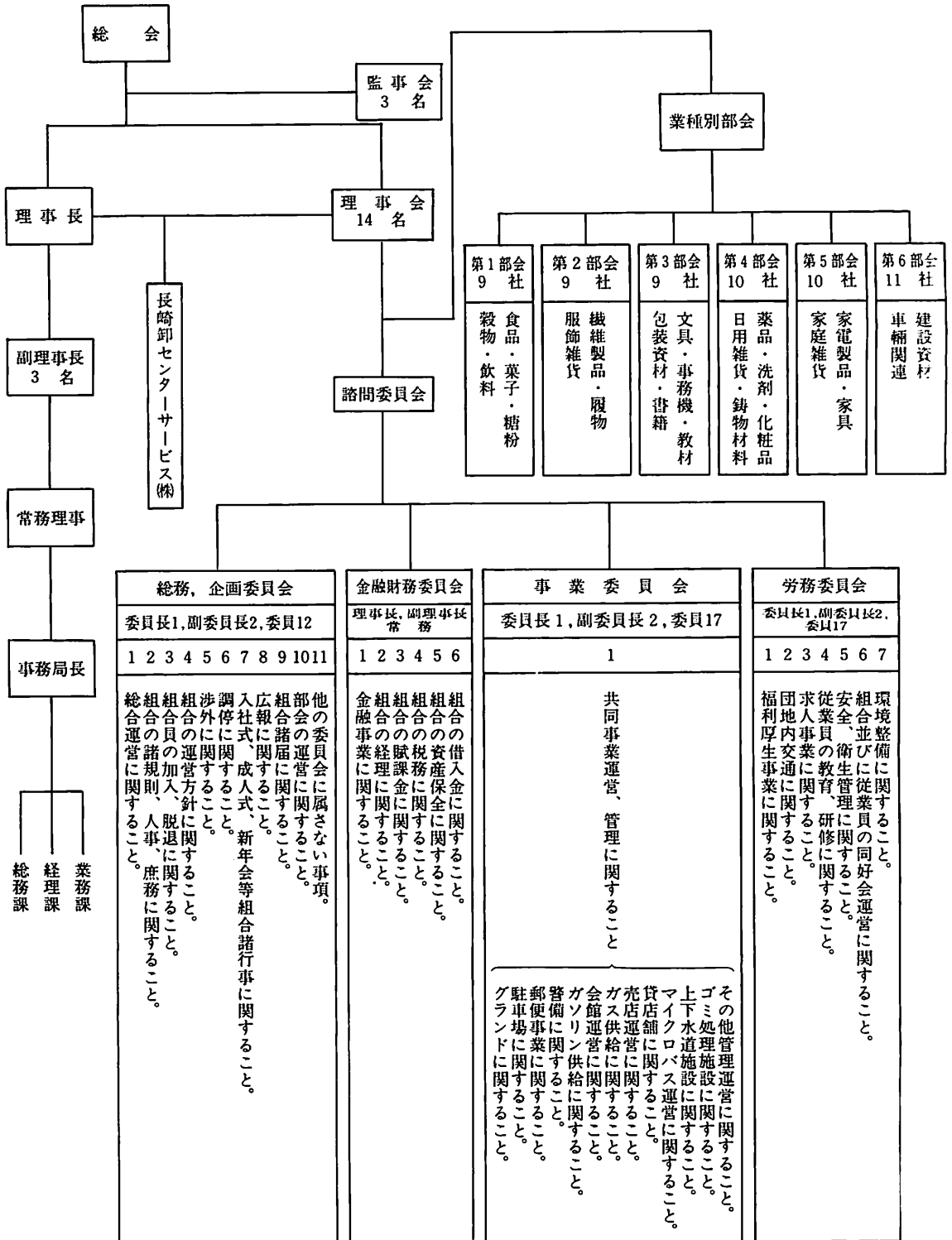
規 模

| 区 分 | | 面 積 m ² | 構 成 比 % | |
|------------------|-----------|--------------------|---------|-----|
| 組 合 用 地 | 建 物 | 組 合 会 館 | 3,601 | 1.0 |
| | | 焼 却 場 | 34 | 0 |
| | | 汚 水 処 理 場 | 1,349 | 0.4 |
| | | 小 計 | 4,984 | 1.4 |
| | 駐 車 場 | 22,916 | 6.6 | |
| | 公 園 ・ 緑 地 | 13,065 | 3.8 | |
| | 運 動 場 | 12,218 | 3.6 | |
| | そ の 他 空 地 | 3,556 | 1.1 | |
| | 計 | 56,739 | 16.5 | |
| 組 合 員 用 地 | | 142,059 | 41.5 | |
| 合 計 | | 198,798 | 58.0 | |
| 公 共 用 地 等 | | 50,953 | 14.9 | |
| 道 路 (市に移管) | | 89,410 | 26.1 | |
| そ の 他 | | 3,271 | 1.0 | |
| (有 効 面 積 計) | | 342,432 | 100.0 | |
| 法 面 | | 160,434 | | |
| 開 発 面 積 総 計 | | 502,866 | | |

投資額内訳

| 区 分 | 面積 m ² | 建設費 千円 | 備 考 | 左の資金調達計画 |
|-----------------|-------------------|-----------|-------|------------------|
| 用地の取得 | 502,866 | 1,190,306 | 完了 | 千円 |
| ” 造成 | ” | 3,160,145 | ” | 自己資金 2,179,175 |
| 組合会館 | 2,285 | 176,440 | ” | 高度化資金 5,315,750 |
| 組合員建家等 | 80,046 | 4,579,317 | 65社完了 | 中金協調融資 1,646,163 |
| 汚水処理施設 | | 112,500 | 完了 | その他 ” 483,591 |
| 同管路施設 | | 94,275 | ” | 計 9,624,679 |
| 上水道配管 | | 162,225 | ” | |
| 水源の開発 | | 6,630 | ” | |
| 焼却炉 | 34 | 4,850 | ” | |
| 電気外線設備 | | 10,000 | ” | |
| 運動場, 駐車場 整備等 | 48,199 | 107,991 | | |
| 設計監督料 | | 20,000 | ” | |
| 計 | | 9,624,679 | | |

組合運営組織図



委員会編成表

(氏名 順不同)

役員名簿

| 役職名 | 氏名 | 企業名 | 役職名 | 氏名 | 企業名 |
|------|-------|----------|-----|------|------------|
| 理事長 | 前田圭一郎 | 前田(株) | 理事 | 中尾伸夫 | (株)中尾商店 |
| 副理事長 | 中村房一 | 長崎月星(株) | " | 田中圭介 | 長米商事(株) |
| " | 脇山良一 | (株)入来屋商店 | " | 中尾剛 | (株)長崎コクヨ |
| " | 安倍博一 | 長崎乾物(株) | " | 平昇 | 平薬品産業(株) |
| 常務理事 | 磯辺重孝 | 事務局 | " | 牟田健一 | 産洋自動車販売(株) |
| 理事 | 成宮健一 | 丸宮(株) | 監事 | 岡一 | (株)吉次商店 |
| " | 西澤博造 | 西沢(株) | " | 木原憲悟 | (株)木原商店 |
| " | 藤村哲朗 | 藤村薬品(株) | " | 松本福富 | (株)松本屋 |
| " | 武藤嘉光 | ムトウ電材(株) | | | |

金融、財務委員会

| 役職名 | 氏名 | 企業名 |
|-----|-------|------|
| 委員長 | 前田圭一郎 | 前田 |
| 委員 | 中村房一 | 長崎月星 |
| " | 脇山良一 | 入来屋 |
| " | 安倍博一 | 長崎乾物 |
| " | 磯辺重孝 | 事務局 |

総務、企画委員会

| 役職名 | 氏名 | 企業名 |
|------|------|---------|
| 担当理事 | 中村房一 | 長崎月星 |
| 委員長 | 西澤博造 | 西澤 |
| 副委員長 | 成宮健一 | 丸宮 |
| " | 中尾剛 | 長崎コクヨ |
| 委員 | 松本福富 | 松本屋 |
| " | 樋口範明 | 千代田ニチエー |
| " | 鹿谷輝昭 | 西彼酒販 |
| " | 富森正之 | 三協 |
| " | 森邦治 | 福岡フジエイ |
| " | 江下直光 | フクニチ |
| " | 好永浩明 | 京屋 |
| " | 飯塚亨 | 飯塚電産 |
| " | 坂本幸雄 | 協栄商会 |
| " | 橋田栄松 | 三協サッシ |
| " | 村上幸三 | 村上ホンダ |
| " | 吉岡泰志 | 丸本 |

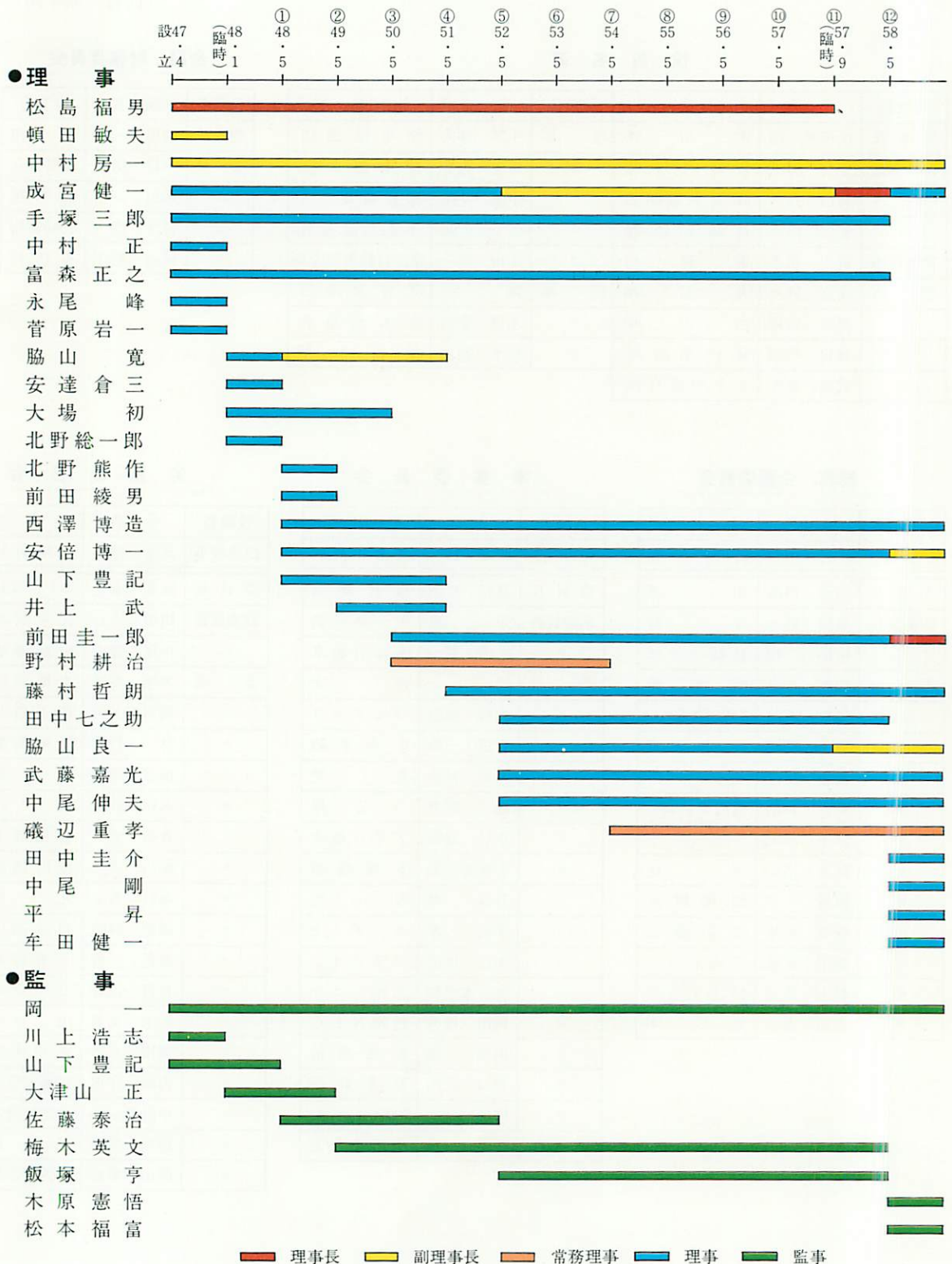
事業委員会

| 役職名 | 氏名 | 企業名 |
|------|-------|----------|
| 担当理事 | 脇山良一 | 入来屋商店 |
| 委員長 | 藤村哲朗 | 藤村薬品 |
| 副委員長 | 平昇 | 平薬品 |
| " | 牟田健一 | 産洋自動車 |
| 委員 | 岡一 | 吉次 |
| " | 西村龍也 | バルタック |
| " | 吉田一雄 | 中央米穀 |
| " | 高島邦彦 | 丸菱 |
| " | 鶴昭男 | つる屋 |
| " | 中村幾郎 | アサヒ販売 |
| " | 手塚喜三郎 | 手塚商事 |
| " | 谷口勲 | 永池 |
| " | 小淵孝 | コブチ |
| " | 中根伸治 | クラリオン |
| " | 佐々木豊和 | 九州ソニー |
| " | 岡田俊秀 | 九州NEC |
| " | 山田彊 | 佐藤泰治 |
| " | 坂口三郎 | 日本乾溜 |
| " | 宮原民生 | 栄城カーセンター |
| " | 松尾保 | 松尾文化瓦 |

労務委員会

| 役職名 | 氏名 | 企業名 |
|------|-------|-------|
| 担当理事 | 安倍博一 | 長崎乾物 |
| 委員長 | 武藤嘉光 | ムトウ電材 |
| 副委員長 | 田中圭介 | 長米商事 |
| " | 中尾伸夫 | 中尾商店 |
| 委員 | 木原憲悟 | 木原商店 |
| " | 岡田喜久男 | 花王製品 |
| " | 林哲朗 | 柴東製菓 |
| " | 渋谷幸彦 | 緑屋 |
| " | 八田義人 | 丸汐 |
| " | 吉田直人 | 吉田商事 |
| " | 岸川満弘 | 岸川商店 |
| " | 坂口秀夫 | 丸昇 |
| " | 岡部勝也 | 岡部商店 |
| " | 藤島博 | 三菱商販 |
| " | 草野淳介 | ゼネラル |
| " | 松永英男 | 山二塗料 |
| " | 篠田正春 | 九州産交 |
| " | 古瀬守男 | 古瀬ガラス |
| " | 中島章一郎 | 中島博材木 |
| " | 鈴木嘉隆 | 迅務 |
| " | 櫻山繁行 | 三菱鉛筆 |

◎歴代役員



役員



理事長 前田 圭一郎



副理事長 中村 房一



副理事長 脇山 良一



副理事長 安倍 博一



常務理事 磯辺 重孝



理事 成宮 健一



理事 西澤 博造



理事 藤村 哲朗



理事 武藤 嘉光



理事 中尾 伸夫



理事 田中 圭介



理事 中尾 剛



理事 平 昇



理事 牟田 健一



監事 岡 一



監事 木原 憲悟



監事 松本 福富

業種別部会

(五十音順)

◎部会長

○副部会長

第一部会

業種：食料品、糖粉、雑穀、油脂、酒類、菓子、飲料

部会員 ○㈱入来屋商店

西彼酒類卸小売㈱

㈱柴東製菓

長米商事㈱

◎長崎乾物㈱

長崎県中央米穀㈱

㈱松本屋

㈱丸菱

㈱緑屋

活動状況

現在部会員は9社で業種業態はまとまっています。

各社共取扱い商品に依り得意先の構成は多少は異なりますが、多くの面で共通の得意先である場合があります。故に、部会開催は親睦会を中心に情報の交換が企業運営、営業活動に役立つ事が多く、又、企業間の連携を密にしています。

団地内の各社の特長を尊重して、各社間に何らかの取引関係を持つと言ったことも部会の特長です。

この様な団地内、部会内の接触面を多くし、積極的に組合全体の活動と団結に協力する様に努めて居ます。

第二部会

業種：繊維、雑貨、靴、家具

部会員 ㈱岸川満商店

㈱京屋

㈱三協

寿扇苑丸寿㈱

長崎アザヒ販売㈱

○長崎月星㈱

西沢㈱

◎前田㈱

吉田商事㈱

活動状況

当部会は従来14社の大グループであったが、この度の部会再編成により9社の更に専門化した業種の部会になった。業種は繊維と身の廻りを中心に当卸センターの中では最もまとまりがあり、集団化のメリットを大いに発揮している部会である。

春秋二回の豪華景品付共同大売出しは既に12回定期的に開催している。

その他毎月2回各社の店舗で現物即売の共同売出しも定期的に継続している。

共同大売出しのための企画会議をはじめ反省会等部会活動は非常に活発であり会員相互の協業に対する連帯意識も極めて旺盛である。また新年には二部会全社トップから従業員まで組合会館大ホールに集まり新年合同朝礼を毎年開催している。

昼の部について夜の部もなかなか盛んであり新年会共同売出し反省会、忘年会等々ひざつき合わせでのコミュニケーションも活発に行っている。

第三部会

業種：文具、事務器、スチール家具、紙、書籍、

教材、包装資材

部会員 ㈱岡部商店

㈱コブチ

迅務㈱

㈱永池

○㈱中尾商店

◎㈱長崎コクヨ

フクニチ太洋出版販売㈱

㈱丸本

三菱鉛筆九州販売㈱

構成

第三部会は、他卸団地では殆ど見る事の出来ない教育産業を中心とした業種で部会が設けられている事である。従って教育関連商品は言うに及ばず、企業内、備品、消耗品、更にオフィスオートメーションは総べてこの部会で品揃えが出来る。

活動状況

企業の大小、本社、出先の種々あれど、お互いに協調と融和のうちに、積極的に事業発展、情報の交換に意を注いでいる。

2か月に1回の割合で昼食を共にしながら例会を持ち、年2回の懇親会を設けている。

又部会内だけのナイターソフトボール大会も行っている。毎月会費を徴収し、親睦等に使用し、益々部会活動を盛んにし、業界の中心になる様努力している。

第四部会

業種：薬品、化粧品、洗剤、塗料、鋳物材料、（化学品）

部会員 花王製品長崎販売(株)
 (有)木原商店
 (株)協栄商会
 平薬品産業(株)
 千代田ニチエー(株)
 (株)長崎パルタック
 ○藤村薬品(株)
 丸汐(株)
 ◎丸宮(株)
 山二塗料産業(株)

活動状況

1. 部会員十社で有るが、内容は化学品といえ、薬品、家庭雑貨、塗料、鋳物、化粧品、その他、と業種、業態も異なり、取り扱い商品も、関連有ることくして、関連なく、只、社員数、売上高、等にて、他部会に誇るのみ。
2. 年数回の部会開催により、部会を超越して組合の地域環境の美化に、職業柄他の部会に率先して、団地内清掃、除草など行ない、部会内の連携緊密化を計り、同時に、組合の活性化、質的向上、組合員各社員のモラル向上に役立つ事を信じ実行して居る。
3. 部会内各社員、余り知っていないので、新聞様の物を発行、各社の紹介を計り、部会内、親睦の一助にしている。

第五部会

業種：電気製品、家具、家庭雑貨

部会員 ○飯塚電産(株)
 (有)家具のつる屋
 九州NEC商品販売(株)
 九州ソニー販売(株)
 (株)セネラル
 手塚商事(株)
 長崎クラリオン(株)
 長崎三菱電機商品販売(株)
 (株)福岡フジエイ
 ◎(有)吉次商店

活動状況

現在部会員数10社の内5社は大手メーカーの出先又は販売会社であり企業形態、企業規模は千差万別という構成の為、部会活動も多少限定されるが年数回の部会開催は親睦を中心として、各種情報交換を通じて、各企業の集団化のメリットを研究し且つ組合内の横の繋りを緊密化している。今後更に部会再編成を機会に組合の活性化運動に呼応し従業員教育の研修、福利厚生面の充実等可能な限りの部会活動を進め乍ら、仲間意識を強め、組合全体の団結が強固となる様、推進して行きたい。

第六部会

業種：建設資材、車輛関連

部会員 (株)栄城カーセンター
 九州産交運輸(株)
 (有)古瀬ガラス店
 (有)佐藤泰治商店
 ○産洋自動車販売(株)
 長崎三協サッシ販売(株)
 (有)中島博材木店
 日本乾溜工業(株)
 (株)松尾文化瓦工業所
 ◎ムトウ電材(株)
 村上ホンダ販売(株)

活動状況

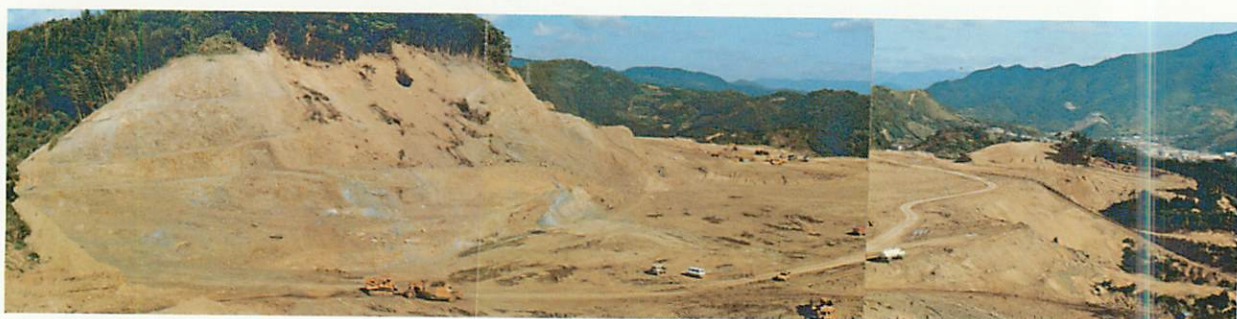
8月の部会再編成で一部メンバーの出入があったが大勢は変わらず、業種的には大別して上記二種類の部会と言える。

従来親睦を中心とした各種情報交換、部会員相互の横の連絡等の会合が開かれているが、今後更に掘り下げた情報の交換、共同宣伝等関連業種間の結束を計ると共に集団化事業組織活動のあり方等の勉強会も議題に上げ、組合事業推進の原動力となる様、引いては集団化のメリット追求のため尚一層積極的な部会活動を推進して行く事で部会の合意を見ている。

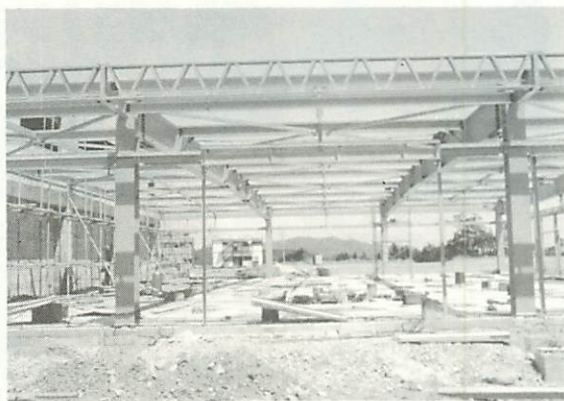
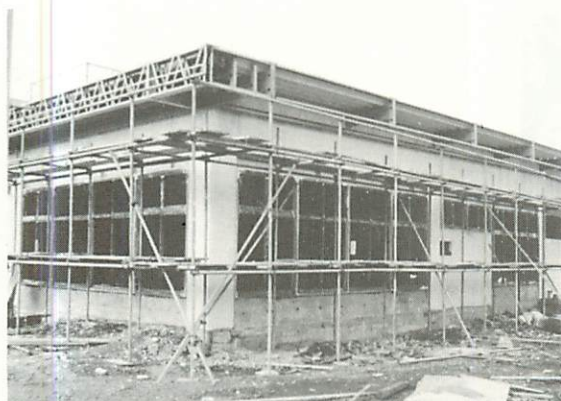
起 工 式



造 成



建設段階



落成式



式典



▲新年交歓会



▲成人式



▲総会



▲新入社員入社式

施設



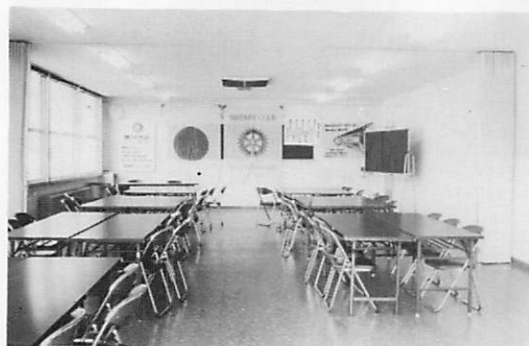
▲会館 全景



▲事務局



▲和室



▲2階会議室



▲2階役員室



▲理容室



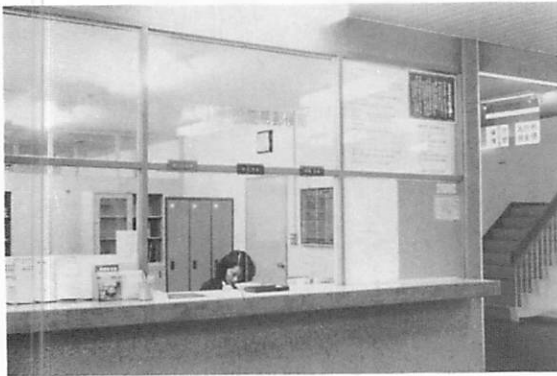
▲ロビー



▲十八銀行



▲レストラン 紅花



▲簡易郵便局



▲展示ホール



▲駐車場



▲グランド

福利厚生



▲ 運動会



▲ 運動会



▲ 運動会



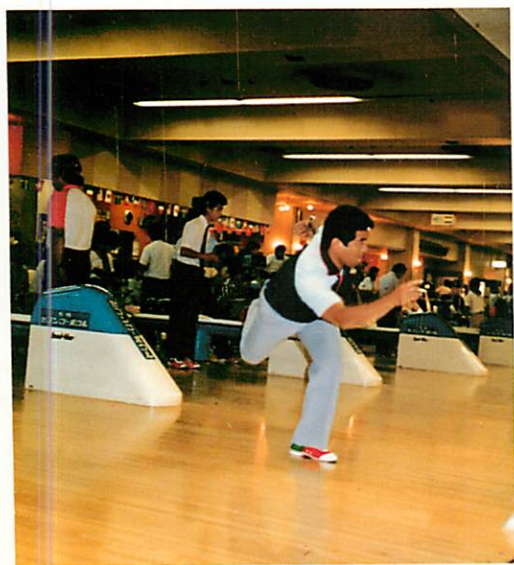
▲ 運動会



▲ ソフトボール大会



▲ 卓球大会



▲ ボーリング大会



▲ ハイキング



▲ 夏まつり



▲ 生花



▲ 詩吟

合宿研修会



文化祭



1982・7月23日 長崎大水害

7月23日夜、長崎市を中心に周辺地区を襲った滝のような集中豪雨は、山間部の各地で鉄砲水が噴出し、土石流と山津波を引き起こし、住家をひとのみにした。長崎市の中心街を流れる中島川は石橋群も流されるほどの激流が渦巻き、銅座川、浦上川上流のはんらんで市街地を泥の海に埋めた。

帰宅時のラッシュと重なって路上の車も走行中に次々と川にのまれ、バス、電車など交通機関の完全ストップに加え、電話のバンクと停電などで長崎市はパニック状態に陥った。

悪夢のような一夜が明けた長崎の街は、見るも無残な姿に一変していた。死者295人、行方不明者4人(11月1日現在)。782人の死者・行方不明者を出した32年の諫早大水害に次ぐ犠牲者となった。長崎市川平町筒水では死者33人、鳴滝町、本河内町奥山で各24人、芒塚町で17人、上戸石町で15人、宿町で11人、北高飯盛町補伽で15人など主な被災地の犠牲者。

被災地の多くは山あいの急傾斜地にへばりつくように建てられた住宅地で、三方山に囲まれたすりばち状の地勢と地価の高騰から、危険地にまで住まざるを得なかった長崎市の悲しい住宅事情を物語り、また山頂までの開発に問題を残した。

コンクリートで固められた道路は川となって音を立てながら低地へあふれさせた。川には雨水の全量に近いものが集中し、あふれた水はビルの地下に侵入し、電気・機械室などビル管理の中核機能をマヒさせた。車もあえなく押し流された。電話や交通をはじめとした都市の機能をマヒさせる都市水害は一つのパターンとなって今後も繰り返される恐れは強い。また長崎市と結ぶ幹線道路は各地で寸断され、孤立した集落が出たばかりでなく、長崎市そのものが袋小路に追い込まれた。災害の全ぼうをつかむのが遅れ、車のラッシュで救援、復旧作業さえ著しく困難にした。

みぞうの災害に打ちのめされた長崎には、全国から次々と温かい義援金と救援物資が贈られ、復旧作業のボランティア隊も繰り込んだ。市民は大いに勇気づけられ、たくましく立ち上がった。8月15日の精霊流し、10月7日から3日間の長崎くんちも行われ、立ち直った長崎市の姿が全国的に紹介された。しかし、被災地では崩れたままのがけや川が至るところに深い爪跡を残し、住民は台風や雨の降るたびに避難する不安な生活を強いられ、一家全滅や親子、姉弟の死は取り返しのつかない心の傷痕を残した。

長崎新聞社「水害写真集」より



濁流が首を立てて流れる国道34号線の矢上町商店街



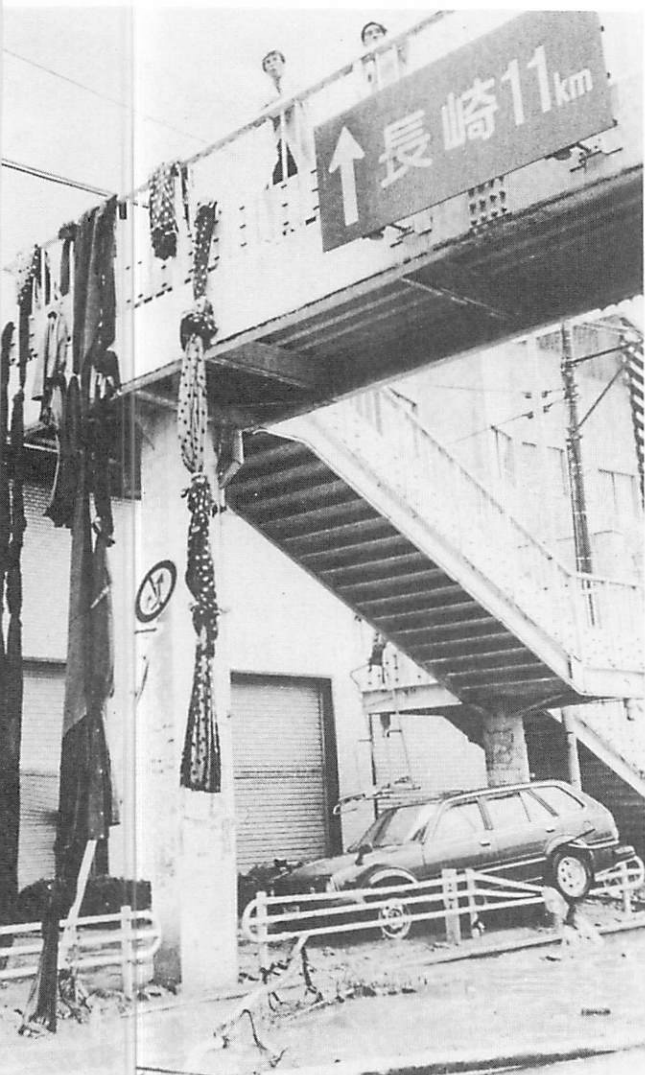
◀腰まで水につかりながらロープを伝って避難



▲濁流につかり始めた車(23日午後9時ごろ岩屋橋電停付近)

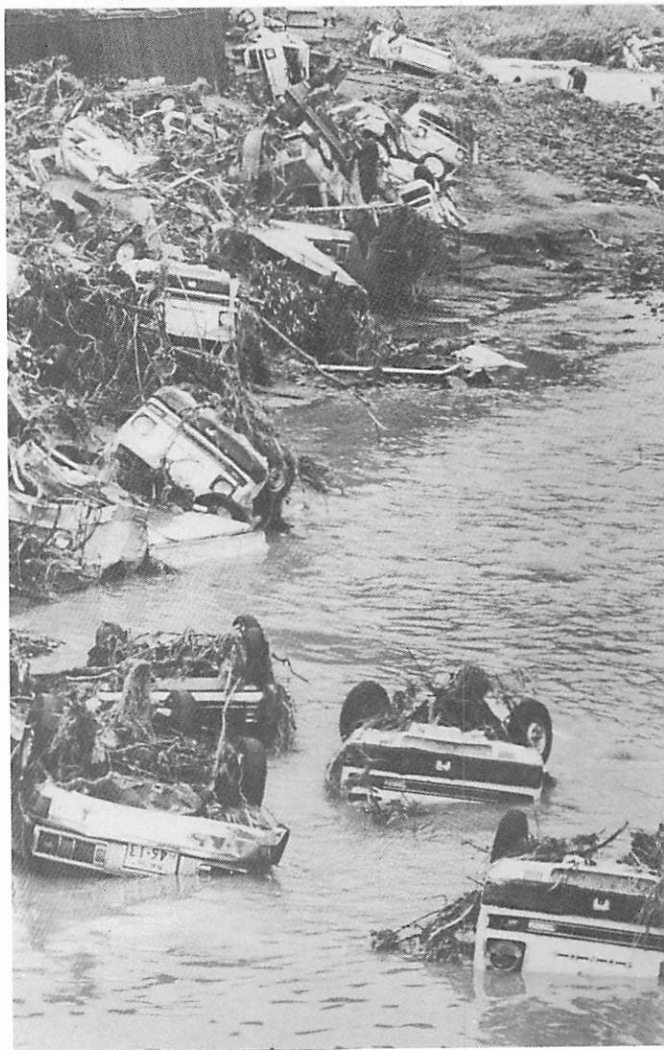


▲乗客をのせ立ち往生した電車(岩屋橋電停付近)



▲立ち往生したバス二台の乗客は窓ガラスを割り、横断歩道に下げられたカーテンを伝って必死の救出、脱出作戦も

▼八郎川には押し流された百台近くの車が無残に腹を見せた



『長崎卸センター』と長崎街道 ～物流・情報基地としての矢上宿を中心として～

ポルトガル交易の窓口が、平戸から、横瀬浦、福田浦を経て、長崎へ移ったのは、元亀二年（1572年）のことであった。長崎開港は、ポルトガルと平戸領主の松浦隆信との確執、横瀬浦、福田浦、長崎の領主大村純忠と大村家の内紛、それに松浦隆信がからみ、更に、当時の日本キリスト教宣教の中心であったイエズス会が係わると云う、いわば、極めて複雑な利害関係を背景に、大村藩統一を再びなしとげた大村純忠の手によってなされた。彼自身、永禄5年（1562年）キリスト教に帰依しており、この長崎開港は、イエズス会の要請という形によって行われた。彼は、長崎の町建（まちだて）を、重臣朝長対馬に命じた。「依テ元亀二年未三月、（西暦1572年）島原、大村、当地者共相謀テ、森崎ト一、堀ノ間ニ六丁ノ町立始ル」〔「長崎略記」、引用は、「長崎開港史」（古賀十二郎著）による。〕と古記録にもあり、こうして長崎の町づくりが始まっていた。これが、世界史にも記される長崎のはじまりであった。開港以前の長崎は、一寒村にすぎず、「肥前駅路」つまり、肥前の古い街道は、諫早から、島原方面へ向っており、長崎への駅路は開かれてはいなかった。

長崎開港とともに貿易が始まり、ポルトガル、スペイン、オランダ、中国の商船が入港し、慶長9年（1604年）までは、いわゆる「自由貿易」が行われていた。長崎の町そのものの運営は、高木新七郎、高木勘右衛門、後藤惣太郎、高島四郎兵衛、などの商人を頭に、白倉惣庵、吉岡九兵衛、馬場甚兵衛、須川主水、山本庄左衛門、沼喜田小庵と云った人々を町別当とする、いわば自治組織を中心に行われていた。文禄元年（1592年）からは、別当は、「町年寄」へ改められ、海外貿易の特権ももっていた。天正15年（1587年）までの間、九州各地の領主は、外国

貿易のこともあり、こぞって、イエズス会の宣教師を招き、優遇処置をとり、多くの領主がキリスト教へ帰依していった。大村純忠は、長崎、茂木の地上権を、天正8年（1580年）イエズス会へ寄進しており、天正12年（1584年）には、有馬鎮純が、その領地の内、浦上と淵を寄進している。この時期は、イエズス会の全盛期であり、長崎は、あたかもキリスト教都市の様相を呈していた。天正15年（1587年）、豊田秀吉が天下統一を計るや事情は一転し、領主のイエズス会寄進の事情を知って、禁教令を出すとともに、長崎は天領となった。慶長元年（1596年）サン・フェリペ号事件の発生とともに、秀吉のキリスト教弾圧は、はげしくなり、禁教令が、きびしく実施された。翌二年（1597年）には、世に云う二六聖人殉教事件が起こり、長崎の町には、キリシタン弾圧の嵐が吹きまくった。

慶長9年（1604年）、徳川家康が天下統一を計ると同時に、長崎貿易は、今迄の「自由貿易」から糸割符制へと移行した。これは、ポルトガル船が積んでくる中国産生糸（白糸）を幕府が糸割符仲間を通じて、独占的に買い込むと云うものであった。この糸割符制によって、ポルトガル商船の損失は大きかった。



現川焼

慶長10年(1605年)大領長崎に代官がおかれることになり、初代代官は、商人村山等安が任ぜられたが、等安がキリスト教であることが発覚、元和5年(1619年)斬罪され、引きついで、末次平蔵政直が、その任についた。平蔵が長崎代官に就任した時、すでに長崎の町は、内町、外町の区別ができており、寛文9年(1669年)には、日目村など7ヶ村が長崎の管轄となった。

こうした長崎の外国交易の発展の中で、長崎と江戸を結ぶ街道は次第に確立し、世に云う「長崎街道」は、慶長年間に、街道としての確立をみたといってよい。江戸からは、主要街道としての「東海道」から、十脇街道の一つとしての「山陽道」を経由し、小倉を起点とする「長崎街道」へと結ばれた。

小倉→黒崎→本屋瀬→飯塚→内野→山家→原田→田代→轟木→中原→神崎→佐賀→牛津→小田→成瀬→塩田→嬉野→彼杵→松原→大村→諫早→矢上→日見→長崎と云う路線である。



東目通り・日見峠を越えて長崎へ下る
(いまの盤茶屋付近・延宝版長崎土産より)

佐賀藩では、大村領の通過があるため、小田→六角宿→鹿島→矢答を経て多良峠から諫早領に入り、湯江から諫早へと結ぶ路線を利用した。これが「浜通り」と云われるルートである。

これに対して小田→成瀬→塩田→嬉野→彼杵→松原→大村→諫早のルート「塚(柄)通り」と称し、この「塚通り」「浜通り」も諫早、永昌において合流し、長崎へと結ばれた。

前記の如く、幕府が慶長9年(1604年)糸割符制を導入するや、糸荷(後には、輸入品を総称して「糸荷」と云った)は、その殆んどが大阪に運ばれ『陸路では、長崎から小倉までの間に、

宿駅毎に糸荷宿が設けられ、これを糸荷屋、または、長崎屋といった。矢上にも、この糸荷屋があり、矢上から出る飛脚を「いっとん(糸荷)飛脚」と訛って呼んでいた」〔長崎事典・歴史編より引用〕

「糸荷飛脚」とは、江戸ー長崎で、糸荷を運ぶ定期便のことである。こうした運送に当る飛脚を「糸荷宰領」と呼び、「九州から山陽道にかけ密接な連絡を公認されていた」〔長崎事典・歴史編〕すでに、慶長年間に矢上宿に、輸入品(糸荷)の流通基地(糸荷屋)があったことを歴史はしるしている。それから、約360年経た現在、同地に、「長崎卸センター」が設立され、10年を既に経た。歴史の偶然と云うべきであろうか。あるいは、地理的な必然性と見るべきであろうか。人間の歴史の面白さは、ここにある。

さて、寛永10年(1633年)2月28日、幕府は奉書船以外の海外渡航を禁止し、いわゆる「鎖国」の政策が断行された。「鎖国」は、5次に渡って布告が出され、寛永16年(1639年)には、完全なる鎖国体制が出来上った。ポルトガル交易、ポルトガル船の来航も禁止され、同18年(1641年)には、ポルトガル人のために築かれた出島へ、オランダ人が移り、オランダ交易、及び中国交易のみが認められることになった。

外国との交易は、長崎のみに限定されることになり、長崎が外国文化の唯一の窓口となった。

この鎖国以来、「長崎」の日本に於ける存在は、特異なものになり、外国文化文明に渴望する学者、医者、そして文人の「あこがれの地」となっていた。明暦元年(1655年)には、白糸割符法から、幕府は相対貿易法を定めた。これは、自由貿易と云ってよい。中国貿易は、この頃から盛んになり、実質的には、中国貿易が、交易の中心となった。元禄元年(1688年)には、唐人家敷をつくり、長崎在住の唐人をここに限定して収容した。同11年(1698年)には、長崎会所を設立、交易は、すべて、この会所を通じて行われた。

こうした長崎の特異な存在によって、長崎街道は、次第に整備されていった。長崎県史は次のように述べている。

『長崎街道の宿駅は、もとより五街道のごとき、道中奉行の管轄下にあるものと異なって、宿立人馬・助郷・人馬貸銭等についても、正規の規定がなく、必要に応じて宿駅又は近村の人馬を調達したものであった。しかし年々の長崎奉行の往来・オランダ商館長一行の参府を初め、朝鮮信使の通行などがあったから、休泊や運輸の施設もしだいに整った。ただ、公用旅行者の不法な行為や要求に対して、脇往還の宿駅などは、まことに微力であって、その横暴に苦しむことが多かった。ことに低廉な貸銭で使役される人馬の多くは農民で、しかも大部分は農繁期に徴用された。それらが宿村の疲弊の大きな原因であった。長崎奉行の初度の下向にあたっては、福岡藩または佐賀藩より乗船を出すので、佐賀藩が出すときには、付廻侍を伏見まで派遣して大阪から乗船して大里まで、二度目からは豊前の大里まで派遣して長崎まで行き、交代して帰府する奉行の出立時期を問い合せて、領内矢上宿まで引上げて、日取りが決まり次第また長崎へ赴いて勤務したのである。長崎奉行が瀬戸内海を通らず、陸路中国路を下る場合には、付廻を長州まで出す。それより佐賀領内に入る手前の田代宿まで使者を出すほか、領内の轟木・神崎・佐賀城下・牛津・塚崎・矢上の泊所には、親類・家老・着座などの重臣が挨拶に出る。長崎へ着くと祝儀の使者を派遣する。長崎奉行が帰府のときも同様で、佐賀藩から乗船を出す場合には、付廻侍は小倉まで行き、乗船を見届けて帰り、福岡藩より乗船を出す場合には田代まで行って、その宿泊を警備して帰る。幕府の支配勘定・督請役が通行のときは、田代から矢上までの間を、郡目附より警備する。長崎在勤の目付が下向の時には、付廻侍を大里まで出し、田代・轟木・神崎・牛津・塚崎・矢上の宿泊所へ使者を出す。その他幕府の役人の往来には、藩として細心の注意を払い、綿密な警衛にあたった。』

こうした、長崎街道の整備過程の中で矢上宿は、重要な役割をはたすことになった。矢上は、諫早領に入っており、とくに公的な役割を担っている。県史は、こう記している。



『多良・湯江・矢上の三宿には、^{いくつさべつどう}宿継別当がいた。人馬継立の事務を扱うところは宿継所であるが、その修理は郷内の負担である。人馬も郷内より調達するものであるが、矢上宿継所では札馬を雇い、佐賀藩士の用に宛てた分の賃銀は、1ヵ年入切にして郷内より出す。湯江・多良では、立馬を郷内より詰めさせ、一疋宛の駄賃をきめておき、1ヵ年入切に郷内へ割りあてる。

諫早では御蔵入から支出する。多良・湯江・矢上の宿継所の引合のために、1年に1度、宿継所当の1人が佐賀へ行く費用は郷内より調達する。3ヵ宿で用心のために備えておく薪・炬・沓・わらじ・葛葉・藁・ぬかの類も郷内の負担である。宿継所は、他街道の間屋とは異なって、公的施設の性格が強い。五街道の宿場なども、本来は公用旅行者の休泊や輸送のために設けられたものであるが、一般旅行者の利用が盛んになって、旅籠屋その他に営利を主とする傾向が加わって、かなり性格が変わってきた。それに対して、諫早領の宿では、公用旅行者が多く、私的の通行者が少なかったので、人馬供給も公用旅行者に対するものが主であった。

公用旅行者の宿泊施設として、湯江・諫早・矢上には上使屋が設けられていたのもその現われであって、その維持費は佐賀藩より支弁したが、不足は諫早領内で負担した。長崎奉行などは家老・用人以下足軽・仲間まで含めると200人もの数で、宿々で人足100人も雇う大行列であった。上使屋だけでは宿泊ができないので、旅籠屋はもとより百姓家まで使用した。

宿泊費や食費は旅行者と上使屋との交渉によって決められたが、長崎奉行の下役や、長崎在勤の支配勘定や普請役などの旅籠は矢上宿では請負制で、一人一泊いくらとされるようになった。宿々で輸送するものには多くの荷物もある。



人の背に負うものもあるが、荷物を主とするときには多く馬を用いる。

公用荷のときには、荷鞍の前に幅二寸・長さ一尺の板札を差し、それに差出人と受取人の名が記してある。これは、一般に会符といわれるものと似ているが、その馬を札馬又は札差馬という。また宿で札馬を扱う者を札馬さしという。

享保6年(1721年)正月の記録によると、矢上宿では、札馬さしの住居が損じたので新築をしたが、二間に八間の建物で、うち二間に二間の四坪の部屋は客を入れるので藩より建て、残りの六間(12坪)の分は総郷より建て、修葺は宿内の馬持どもがすることになっていた。

札馬は、初めは公用荷物を運ぶ馬に限られていたが、のちにはすべての荷駄をさすようになった。札馬は矢上宿で4頭であったといい、札馬を立てるのは一種の権利になり、それを札元といった。札元が都合によってその権制を他に預けることもあり、その者を札預りという。』

県史のこの記述から云っても、矢上宿が、人的・物的な交通の基点機能を担っていたことは、明確であろう。つまり、矢上の地は開港地長崎のいわば、物流センターの機能を一貫して任していたのである。この状況は明治初期までつづいた。このような役割を担った矢上の宿は、当時の人々の眼にどのように映ったのだろうか。

オランダ商館医・ケンペルは「江戸参府日記」に矢上宿についてこう記している。

『1692年(元禄5年)3月2日朝8時出発

10時にわれわれは、かごにのり、曲りくねった小通を通過して峠村をすぎ入江に近い日見村やあばという漁村を経て、そこから矢上村に着き、そこで昼食を取り、ここまで送って来てくれた残りの友人たちと別れた。午後3時頃、右や左に曲って流れる川に沿って進んだが古賀村の近くでは川は見えなくなり夕方7時諫早について……』

享和2年(1802年)の菱屋平七の「筑紫紀行」は、矢上宿の宿としてのにぎわいを伝えてくれる。

1802年(享和2年)5月2日 菱屋平七(尾張の商人)古賀を出て又10町行けば楠川あり、あるいて渡れば茶屋2・3軒あり、又10町行けば、又小川のある土橋より渡れば矢上に至る。



矢上宿

酒飯の用にとて吸物をあつらへたれば、八寸計の「あじ」をに物にして、平皿に盛りて出せり、4時に立町の出口に佐賀より付置る。番所ありて、往来の人の切手を改む、そこを過ぎて14町いけば領地境の印、南は佐賀領、北は御公領なり、2町で腹切坂の峠なり。」

文政元年(1818年)春、頼山陽は、博多を経て、佐賀・多久の詩人、草場佩川を訪ね、更に長崎を訪れた。草場は、当時、諫早藩好古館教授の牟田梅浜(矢上宿で本陣を経営していたと伝えられる)を紹介、長崎の案内は、牟田が引き受けている。この年の夏、山陽は長崎をたち矢上の牟田宅を訪れ、番所橋の近くの釜ヶ崎から単身船出し、千々石へ向い、同地の久須文仙を訪ねた。「雲耶山耶呉耶越…」で有名な詩は、この頃の作品である。山陽が、長崎をたったのは8月26日であった。日目峠をこえ、矢上宿に入るまでの光影をこう詠んでいる。

「髪側釵横夢一場、尤雲滯雨任他狂、眼腥蜀帳春如海、銀鼎燒餘眞臘香」文政9年(1826年)、シーボルトも、この長崎街道を経て江戸へ向った。彼は、科学の正確な眼で紀行文を綴っている。矢上の宿の状況をくわしく伝えている。

「引用文3」

『1826年2月15日(文政9年正月9日)、日本側の同行者はたくさんの従者を従えて出島に来た。

駕籠かき・馬丁は駄馬を曳いて朝早くすでに出島に来ていた。市内の友人・知人等はわれわれに別れを告げ、些細ながら心からの贈物〔昔からの習わしの土産〕をするために集まった。

許可を得たものはみな商館までやって来たが、一般の人々は、好奇心と親愛の情とから、出島の出入口のついている江戸町の方へわれさきにと争って集まっていた。ここから行列は出発したが、まず人足と馬とは前駆となって進み、われわれはみな立派な衣服を着て、オランダ人および日本の役人や侍たちを先立として、肅々として担がれて行く駕籠の後ろについて進んだ。

松の並木は険しい長崎峠の麓に沿って続く。

峠の頂上、新峠には一軒の旅館があるが、間もなくここに着いた。長崎近傍の山々は九州の

西南部一体のように火山型である。長崎峠の麓で、ビュルゲル氏 Burger は点斑片岩を見付けた。また同峠の頂上では、点斑様の構造を持つ玄武岩円頂上に角閃石の混っているのを見つけた。

この地方の樹木は小檜・檜・くぬぎ、杉・楓・黒木・うこぎ・やつで・えびつる・葛・山ぶどう・小苺・冬苺・梔苺・久柿・うつぎ・ねずみもち等であって、海拔三百メートルから三百五十メートルの高度の所に生じ、それより上は、銀松・花桐樹・わくらは・岩梨・どうだん・山つつじ等の樹木が生えている。峠のせまい道は、峠をすぎると下り坂と成り、たちまちひろい眺めがひらける。右に島原湾を望み、気持のよい海岸には、日見・網場などがあり、その奥に温泉嶽がある。左の方は豊かな丘陵にとりかこまれて大村湾が見える。前方には多良山嶽が聳え、オホイ山・カミキ山・国見山などが重なり合って、二重の山脈を成して肥前地方の西南部に連なっている。網場に向い合って牧島が見える。

この島は細長く卵形で、南から北へ約一海里も延びており、西南側には数個の入江がある。

私はのち1827年(文政10年)、長崎近くの三ツ山から、この島の位置を精密に測定することが出来たが、コンパスによる観測では、牧島の南端は南37度東であって、その北端は南43度東と測定された。静かな晴れたよい冬の日であった。美しい景色を十分に楽しもうとわれわれは長い道のりを歩いて行った。付添の二人の下役と23人の通詞とは、礼儀上われわれにつき合って歩いてついて来たが、駕籠で行きたがっていた。われわれは矢上で中食の予定と聞かされていたが、矢上が近くなると、彼等は丁重に駕籠に乗ってくれと頼んだ。そして「歩いて宿場に入るのはわれわれオランダ人の身分に相応しくない」と忠告した。村の手前で旅館の主人〔通詞の言葉ではホスペス Hospes と言った〕は、われわれを出迎え、何回もお辞儀をした。お辞儀する度毎に「へー」「へー」と何度もくり返し、また「チッ」と音をさせて息を吸いこむ。そして慌しく走って先に行き、適当な旅館がないというので、われわれを迎えるためにあらかじめ

準備しておいた一軒のお寺の門の所でまたわれわれを出迎えた。そこまで行くうちに、すでに街道は近頃修繕されたことが分ったが、村の中に入ると、道路はきれいに掃除してあり、寺の方には新しく砂を撒き、寺の門の両側には小さく盛砂をしてあった。われわれは寺の広い脇部屋に通されたが、ここは新しい畳を敷き、意外にもテーブル・椅子などおなじみの家具が、前もって使節の旅行の準備をする者に送り届けられ、全くヨーロッパ風に整えてあったのは、不快なことではなく、あたかもわが家にいるかのような感じがした。寺の住職が挨拶にやってきて、土地の習慣に従って小さな進物を持参した。それは見事な焼菓子で、杉の一種で作った菓子盆に載せて出された。

この寺の僧は一向宗の僧で、すべての僧侶のする通り頭の頂上を剃り落し、黒いゆっくりした袖の長い衣を着て、腰に紐のような帯をしていた。その宗派は浄土真宗〔浄土の新しい宗〕とも称え、日本で教義が最も明らかで、国民に最も喜ばれる宗門で、宗徒の最も多いものである。開祖は親鸞〔1174～1264〕という貴族出身の日本人で、前には天台宗を信仰していた人である。一向宗の僧侶だけは、山伏と同じく結婚・肉食を許される宗派である。

さてわが使節は、住持に対してその丁寧な接待の礼を述べ、日本の習慣に従って、些少の礼物を贈った。われわれは、通詞のうちの一人と一緒に昼食をすませ、諫早に向って旅行を続けたのであった。われわれ一行が矢上に入った時、村の住民たちが集まって、この江戸参府のオランダ人を見ようとして馳せ集り、その数は次第に増加したが、人々はただ左右に人垣を作って眺めているだけで、われわれは別に妨げられることもなく通ることが出来た。そしてただ人々が黙って驚きの色を示している様子とその謙讓な態度とに感嘆した。並木と道路とはよく手入れが行届いている。西に大村湾、東に諫早、南に船津の湾を控えた地峡を、稲田と丘陵とに沿って諫早に向っている。八時近くになって、提灯の明かりで諫早に到着し、前に記した宗旨と

同じ宗派（一向宗）の寺に入った。到着後間もなく、給人（検使）と大通詞が訪れて来て、第一日の旅行の無事を祝い、明日の旅程について説明した。』



古賀人形

シーボルトが、かごを降りて歩きながら風景を楽しんだと記している。まさに、その地点に、「長崎卸センター」が現在、位置している。150年の歴史の流れを忘れさせるようにシーボルトが感動した美しい風景は今も変わらない。

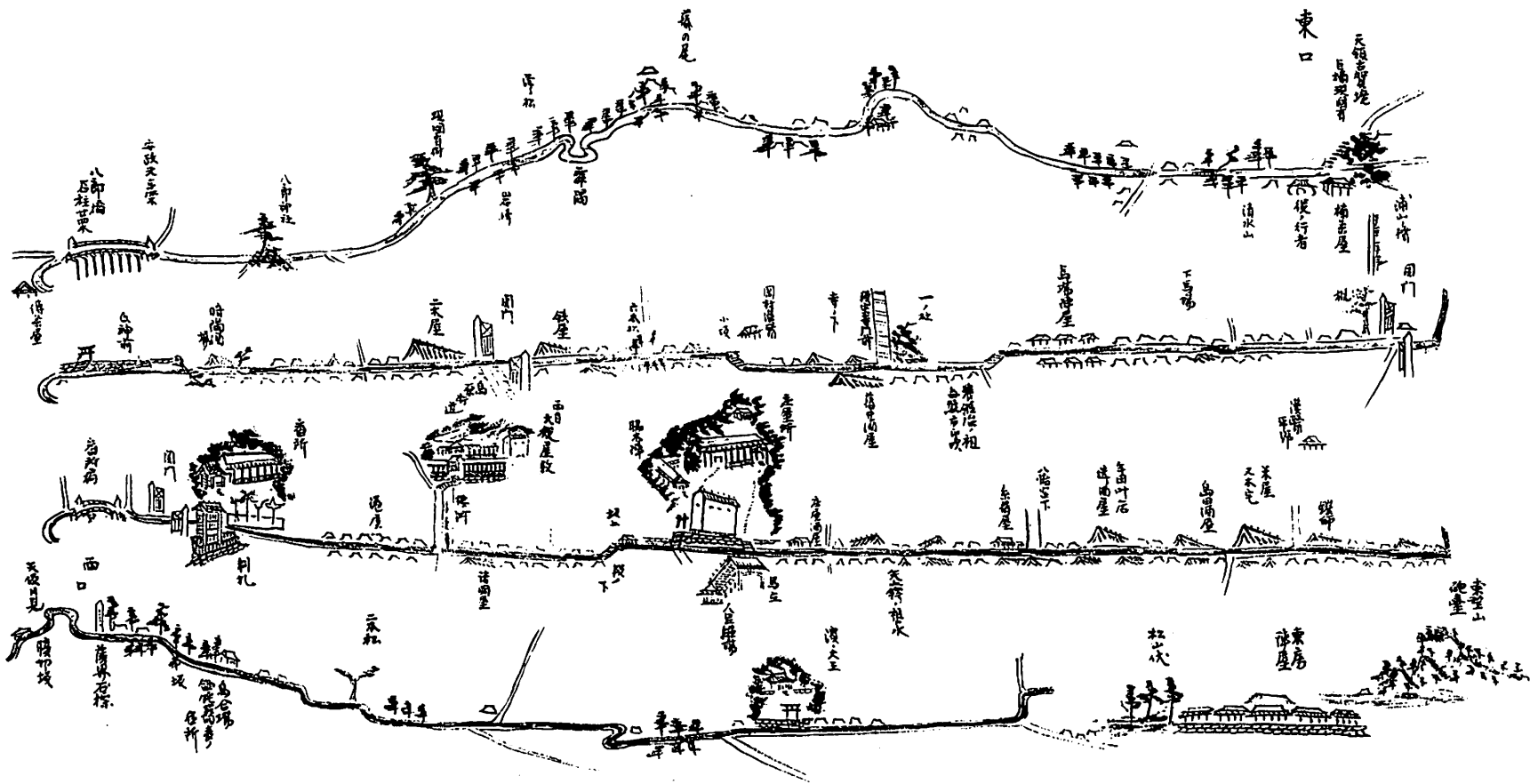
多くの日本を動かした入々が、いろんな時代に、いろいろな思いをもって、矢上を通過して長崎にゆき、長崎から、又、矢上宿を通過して帰っていった。長崎に入る旅人は、矢上宿で一泊し、飛脚に、長崎の宿を予約して、次の日、長崎へ向った。まさに、矢上は、長崎への物流・情報の基地であったと云える。長崎街道の役割が終って、100年以上たった現在、「長崎卸センター」の設立は、街道当時の物流・情報基地としての矢上宿の役割を、再び甦らせたと云うべきであろう。

矢上の地は、古いむかしから、物流・情報の基地たる運命を担っていたのであろうか。

長崎ウエスレヤン短大教授

森 泰 一 郎

矢上郷土絵図



東長崎商工会提供

(参考) 長崎談叢 より

ひらけゆく長崎街道筋

瀬戸崎 半吾

長崎のでいりには、東は日見峠をこゆる矢上街道と、西は時津街道をとおって、海路大村、彼杵に出るものがあった。慶長二年(1597)日本26聖人は、この海路をとおって、彼杵から時津に上陸して浦上に入っている。ずっとくだって、太田蜀山人が、文化の中ごろのはやりものをうたった狂歌「詩は五山、画は文晁に書は米庵、芸者おかつに料理八百せん」の中の市河米庵は、若くして父の江戸昌平齋の学長寛齋に先だって長崎にきたり、唐人などの間にも交友をひろめているが、文化元年(1804年)8月16日長崎をたつて帰るときには、時津から海をわたって大村にでている。すすき塚の「君が手もまじるなるべし——」の、向井去来の句は、東の日見峠をこえて、京都にかへる、旅路につくものの離別の感懐をうたったものである。長崎奉行や、出島和蘭甲比丹はじめ、諸藩の志士たち、地役人、いわゆる文人墨客といわれる人々、その他町人、すべて長崎にでいりするものは、この二つの街道を往来したものである。それは元亀開港いらい明治にまでおよんだ。

安政開港条約以降の長崎は、明治13、4年ごろとなると、往年の繁華から、ようやくとりのこされて、衰微の兆があらわれ、同17、8年ごろとなると、まったく、萎び沈滞の極に達した。この港勢挽回策として、かんがえられたのが、明治18年(1885年)の中島川河口の変流工事にとまなう港湾改良による海上交通と、陸上交通の整備である。陸上交通で重視されたのが、鉄道の敷設で、これを先決条件として、その解決をはかり、これによって、全九州を統一して、

海外貿易の商権を一手に長崎で掌握して、往年の繁華をとりもどそうと画策されたのが、長崎の交通の大きく発達した動機である。東の矢上街道の日見峠は、明治15年(1882年)四月に新道をつくったが、日見トンネルは、大正15年(1926年)4月、雲仙国際観光ルートの一環として開通し、観光都市長崎の一新正面をひらいた。長崎の将来をかけた、西の時津街道にかわる鉄道は、長崎長与間が明治30年(1897年)7月開通し、早岐大村間が翌31年1月、大村長与間が同年11月ひきつづいて開通し、同月27日諫早駅で盛大な開通式があげられた。

これによって長崎線の全線は開通したこととなって、長崎と門司は一線につながれ、山陽線、東海道線に連絡されたのである。





活

企業紹介名簿 (昭和58年7月1日現在)〔入居順〕

- 楠岸川満商店 ☎37-8115 紳士・婦人・子供アウトウエア
 - 榊三協 ☎37-8120 ギフト商品・各種カバン
 - 長崎月星榊 ☎37-8125 キャン・スシューズ・革靴
 - 吉田商事榊 ☎37-8001 履物類全般
 - 榊入来屋商店 ☎37-8251 食料品・冷凍食品・建材・肥料
 - 西彼酒類卸小売榊 ☎37-8150 酒類・飲料水・食料品
 - 長崎乾物榊 ☎37-8311 糖粉・雑穀・調味料・乾物・飲料
 - 長米商事榊 ☎37-8155 食料品・雑穀・飼料
 - 楠緑屋 ☎37-8160 菓子・製菓品全般
 - 榊柴東製菓 ☎37-8165 菓子・食品・飲料
 - 花王製品長崎販売榊 ☎37-8005 石鹼・洗剤・歯磨・殺虫剤
 - 藤村薬品榊 ☎37-8331 医薬品・衛生材料・健康食品
 - 榊長崎バルタック ☎37-8011 化粧品・石鹼・歯磨・日用雑貨
 - 山二塗料産業榊 ☎37-8020 塗料・機械全般
 - 長崎三菱電機商品販売榊 ☎37-8170 電気機械器具・家電・住宅機器
 - ムトウ電材榊 ☎37-8015 電設機材・空調機器・昇降機
 - 楠佐藤泰治商店 ☎37-8035 建築材料・住宅機器・健康器具
 - 迅務榊 ☎37-8181 単能事務機・OA機器・事務用品
 - 手塚商事榊 ☎37-8190 金物類・家庭用雑貨・荒物
 - 楠吉次商店 ☎37-8185 家具・日用荒物
 - 榊岡部商店 ☎37-8282 紙・文具・事務用品・OA機器
 - 榊中尾商店 ☎37-8088 文具・事務機器・教材・教科書
 - 榊丸本 ☎37-8205 包装資材・農水産資材
 - 楠木原商店 ☎37-8211 日用雑貨総合
 - 丸汐榊 ☎37-8045 日用品雑貨・洗剤歯磨・線香
 - 前田榊 ☎37-8222 婦人服・洋服・子供服・肌着
 - 西澤榊 ☎37-8301 呉服・綿布・寝具・婦人子供服
 - 飯塚電産榊 ☎37-8050 家庭電気一般・音響機器
 - 九州ソニー販売榊 ☎37-8300 電気製品全般
 - 長崎クラリオン榊 ☎37-8230 カーオーディオ・カーエアコン
 - 榊松本屋 ☎37-8055 一般家庭食料品
 - 長崎県中央米穀榊 ☎37-8235 穀物全般・砂糖・食油・飼料
 - 平薬品産業榊 ☎37-8061 試薬・工業薬品・公害分析機器
 - 楠古瀬ガラス店 ☎37-8065 板硝子・サッシ・鏡
 - 産洋自動車販売榊 ☎37-8255 自動車販売・リース・車検工場
 - 寿扇苑丸寿榊 ☎37-8260 帯・呉服・合繊・裏地
 - 榊永池 ☎37-8123 和洋紙・文具・事務機・紙製品
 - 榊ゼネラル ☎37-8245 テレビ・ビデオ・音響・家電
 - 榊丸菱 ☎37-8585 食品加工原材料全般
 - 榊京屋 ☎37-8107 洋装マネキン・店舗設計
 - 三菱鉛筆九州販売榊 ☎37-8017 鉛筆・筆記具
 - 榊栄城カーセンター ☎37-8271 自動車部品・用品
 - 榊松尾文化瓦工業所 ☎37-8200 各種瓦
 - 日本乾溜工業榊 ☎37-8555 産業安全衛生保護具
 - 千代田ニチエー榊 ☎37-8273 X線フィルム・放射線機器
 - 榊長崎コクヨ ☎37-8241 OA事務機・紙製品・文具・家具
 - 榊協栄商会 ☎37-8275 鋳物用副資材・化粧品
 - 九州産交運輸榊 ☎37-8525 自動車運送・倉庫
 - 九州NEC商品販売榊 ☎37-8521 家電製品・通信機・パソコン
 - 丸宮榊 ☎37-8000 石鹼・洗剤・日用雑貨
 - (株)中島博材木店 ☎37-8500 建築土木用木材・新建材・石材
 - 長崎アサヒ販売榊 ☎37-8411 ゴム履物類・衣料雑貨
 - フクニチ太洋出版販売榊 ☎37-8416 雑誌・書籍・カセット・フィルム
 - 村上ホンダ販売榊 ☎37-8421 オートバイ・発電機・自転車
 - 楠コブチ ☎37-8407 学校教材・教具・事務機・文具
 - 楠家具のつる屋 ☎37-8367 家具インテリア商品
 - 長崎三協サッシ販売榊 ☎37-8032 アルミ建具各種サッシ・住宅機器
 - 榊福岡フジエイ ☎37-8371 家庭用品・インテリア家具
- 〔未入居企業〕
- サンデン販売榊 ☎56-1034 家電製品
 - ブリジストンタイヤ長崎販売榊 ☎23-6171 タイヤ・チューブ
 - 出版輸送榊 ☎39-6280 運送業



有限会社 岸川満商店

〒851-01 長崎市田中町586-3
電話(0958)37-8115(代)

1. 和親, 協力
2. 誠実, 努力
3. 礼節, 謙讓

代表者 代表取締役社長 岸川満弘

創立 昭和24年4月。 会社設立 昭和49年1月。

資本金 2,500万円

従業員数 10名

営業品目

紳士・婦人・子供・(アウトウエア・肌着・布帛)

会社の基本方針

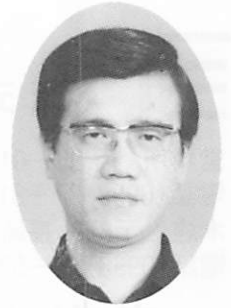
信用と誠実をモットーに、需要の動向・消費者の要求を的確に把握し、取引先のニーズに合った品揃えをすると共に、キメ細かなサービスを心がけ、良い販売計画を立て、共存共栄を計る為、全社員一丸となって販売努力している。

企業の特徴

我社は当初市内賑町で営業を行っていましたが、交通



代表取締役社長
岸川満弘



専務取締役
岸川新市

事情の不便さや、店舗が手狭になって来た為、東長崎の、卸センターに移転して6年になります。今年で創立35周年を迎える当社は、ハイセンスな婦人衣料を中心に、紳士、子供、肌着、布帛製品等衣料全般を取扱い、県内一円の販売ルートを持ち、幅広く営業を行っています。社業の発展と、社会への奉仕は、心身共に健全な従業員と、明るい職場づくりを心がけ、努力邁進しております。

沿革

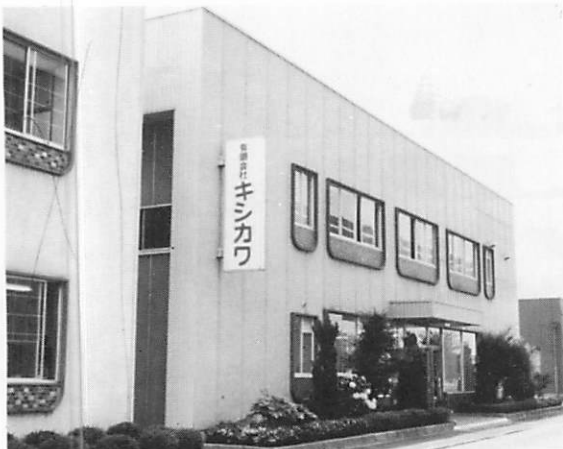
昭和24年4月 現社長創業

昭和49年1月 有限会社岸川満商店設立。

資本金 300万円

昭和51年11月 資本金 2,500万円に増資

昭和52年3月 長崎卸センターに移転、現在に至る。





株式会社 三 協

営業所 〒851-01 長崎市田中町1219

電話(0958)37-8120(代表)

本店 〒850 長崎市江戸町5番11号

電話(0958)26-5321(代表)

一意専心

代表者 代表取締役社長 富森正之

創立 昭和33年4月11日

資本金 1,500万円

従業員数 22名

営業品目

ギフト部 記念品, 贈答品各種

カバン部 ランドセル, 学生鞆, ポストンバック

ハンドバック他旅行用品各種

造船部 作業服, 手袋類, 安全保護具他

小売部 主にカバン部の小売

会社の基本方針

- ①規律と礼儀を重んじること。
- ①報告, 連絡, 相談(ほうれんそう)を確実に実行すること。
- ①よい商品を, 真心を添えて, お届けすること。



代表取締役社長
富森正之

企業の特徴

ギフト部…シャ・デイ(株)の代理店として, 九州随一の取扱量を誇り, 特に法人ギフトを中心に, 県内全域に販売しています。

カバン部…学校関係の通学カバン, スポーツバック, 補助バックを扱っており, 長崎県立長崎東高等学校をはじめ, 約50校の高校, 中学校より御指定を受けております。

沿革

昭和33年 長崎市江戸町に(有)三協カバン店設立

昭和48年 (株)三協設立(別会社)

昭和52年 長崎市田中町, 卸センター内に営業所開設

昭和54年 (株)三協を吸収合併する。

〃 (有)三協カバン店を(株)三協と組織変更し, 現在に至る。



長崎月星株式会社

〒851-01 長崎市田中町1219
電話(0958)37-8125(代表)

誠実・創造・根性

代表者 代表取締役社長 中村 房一

創立 昭和46年10月4日

資本金 1,000万円

従業員数 27名

営業品目

月星化成製品（キャンパスシューズ、革靴）

ヘップ、サンダル

ケミカルシューズ

その他各種靴関連商品

会社の経営理念

われわれは、顧客の要望に応え、社会に貢献するよきサービスに務めることにより適正な利潤の確保と会社の永遠の発展に努力すると共に、全社員の生活の安定向上をもたらすことを念願とする。



代表取締役社長 中村 房一

企業の特徴

月星化成株式会社のほか、全国一流メーカーの代理店として長崎市内及び周辺地区を販路とし、豊富な商品と情報の提供等卸機能の発揮につとめることにより、業界の円満な繁栄と、より豊かな地域社会の発展に寄与している。

沿革

- 昭和46年10月 中村合名会社の子会社として、資本金500万円にて会社設立
株式会社藤木屋本店営業の一切を継承
- 昭和49年5月 株式会社今里商店の営業の一切を継承
- 昭和51年8月 倍額増資 資本金1,000万円
長崎卸センターに新社屋建築着工
- 昭和52年3月 新社屋竣工 卸センターに移転



吉田商事株式会社

〒851-01 長崎市田中町1273
電話(0958)37-8001-3

「信用こそは無形の宝なり」との 精神に立脚した営業活動

代表者 代表取締役社長 吉田直人

創立 昭和21年3月

資本金 1,000万円

従業員数 44名(臨時を含む)

営業品目 履物類全般

会社の基本方針

取引先とは 常に一心同体 取引先の繁栄は とりもな
おさず自分の繁栄として 誠実をモットーにして居る。

企業の特徴

創業以来実に37年、一貫して履物の販売に意欲を燃やし



代表取締役社長
吉田直人

中央大手メーカーである アキレスを初め 広島化成
釣鐘工業 丸五ゴムなどと特約を結び これ等製品の持
つ特性を幅広く 活発に顧客に訴えている。

沿革

昭和21年3月 鼻緒販売よりスタート、ついで 関西を
地盤に、生活必需物資特に「はきもの類」を仕入れ市内
一円に卸す。

昭和28年法人に改める。

中央大手メーカーとも提携 事業の発展を図る。

昭和45年 佐世保に支店を置く。

昭和55年 株式会社に組織変更 現在地に店舗を移し今
日に至る。



株式会社 入来屋商店

〒851-01 長崎市田中町655-1
電話 (0958) 37-8251

代表者 代表取締役社長 脇山 崇

創 立 明治元年1月

資 本 金 1,200万円

従業員数 40名

営業品目

砂糖・麦粉・冷凍冷蔵食品・食料品・水産物・セメント・生コンクリート・スプリットブロック・ヒューム管・建材・肥料・飼料・ペットフード・農業資材

基本方針

入来屋の起源は古く、延享元年（西暦1744年）以前に遡り当時表物の売買をなし、安政年間には、武田薬品の前身、近江屋長兵衛（近長店）へ舶来薬種の売渡し等、砂糖、肥料、綿花の輸入と、海産物の輸出による貿易商を営み後、明治元年脇山啓次郎がこれを継承し、大正10年12月組織を合資会社となし脇山啓次郎が代表社員に就任。



取締役会長
脇山 良一



代表取締役社長
脇山 崇

当社の沿革

- 昭和15年以降 代表社員に脇山 寛就任。
- 昭和16年8月 合名会社に組織変更。
- 昭和31年1月 株式会社に組織変更。
- 昭和51年12月 代表取締役 脇山 寛死去により
- 昭和51年12月 代表取締役に脇山良一就任。
- 昭和57年3月 代表取締役社長に脇山 崇就任。

1. 創業の精神

誠実の心で優良商品の卸販売をなし、地域社会に貢献するをもって、会社の繁栄と従業員の幸福をもたらすものとする。

2. 標 語

誠実・勤勉・努力。

3. 社 是

誠心誠意勤勉努力し、伝統を重んじ、社業発展のために知能を磨き、健全なる精神を涵養する。



西彼酒類卸小売協同組合 東長崎支所

〒851-01 長崎市田中町655-2
電話(0958)37-8150
本所 長崎市大浦町3番19号
電話(0958)22-4171

代表者 理事長 梅木 英文

創 立 昭和26年9月1日

資 本 金 9,624万2千円

従業員数 71名

営業品目

酒類, 飲料水, 食料品卸売業

組合の基本方針

“組合員の繁栄なくして、組合の繁栄なし”をモットーに和衷協同の盟を实践し、消費者ニーズの変化に対応すべく、傘下組合員に情報を提供する等、メーカーと組合員とのパイプ役として、需要を創造し、組合、組合員、職員の物心両面の向上を目指し、地域社会にいささかな



理 事 長
梅 木 英 文

りとも貢献できる事を期している。

企業の特徴

創立以来32年に亘り、全酒類（輸入洋酒、ビール等を含む）食料品、清涼飲料水の卸売業者として、フルにその機能を発揮し、物流チャネルの改善に努め、業界のリーダー的存在となっている。

沿 革

昭和26年9月、西彼酒類卸小売協同組合として、出資金200万円、組合員171名で発足、昭和52年4月東長崎田中町卸センター内に東長崎支所を新設す。



長崎乾物株式会社

〒851-01 長崎市田中町1219

電話(0958)37-8311

誠実・努力・実行を基調として、
取引先に愛されることを目指す。

代表者 代表取締役社長 安倍博一

創立 昭和26年6月1日

資本金 1,000万円

従業員数 60名

営業品目 糖粉、雑穀、食油、油脂、調味料、乾物、種類、香辛料、嗜好品、瓶詰缶詰、飲料、即席食品、進物品、冷凍食品、業務用商品、他卸売業

会社の基本方針

1. お取引先との信頼関係を強化して、相互の繁栄を計る。
2. 地域流通業者としての自覚をもち、その責任に於いて業務の遂行をする。
3. 人材の育成とその活用を計り、企業力の向上に努める。
4. 日々前進し環境の変化に即応していく、積極的企業運営をすること。

企業の特徴

県南地域を主要テリトリーとして販売網をひろげている、総合食品問屋であります。お得意先は約800店に達し、小売店、量販店、百貨店また業務用筋にも巾の広い販売活動を行っています。

全体の7割が長崎市内のお得意先で占められ、その日、



取締役会長
島津一二



代表取締役社長
安倍博一

その時に求められるニーズに対応する積極的な機能を発揮する努力を続けています。

多品種少量の品揃えから、量販店、百貨店の受注にこたえる長崎乾物ならではの期待に応え、気力プラス体力、そして知力の勝負と心掛け、受身でなく商品構成や、売場の活性化、販売企画等、どしどしプレゼンテーションし、お得意先がアクションを起す“引金”の役になりたいと考えています。

沿革

昭和21年、現会長島津一二が創業した。

昭和26年6月、有限会社に組織した。ところ現在の築町中央市場内でした。

昭和33年、西浜町に移転した。

昭和45年6月、株式会社に組織した。ところ現在の西浜町電停前銅座町の一角でした。

昭和46年、現在湊公園前の新地町に移転した。

昭和52年5月、当卸センターに本社屋を移転しました。

資本金 10,000千円 役職社員 60名

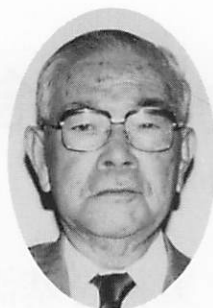
敷地 4,896㎡ 建築面積 4,789㎡ 鉄筋鉄骨一部二階建、F級冷凍庫(-25℃)収納能力300t、冷蔵庫(±5℃)収納能力80t、一般倉庫4,123㎡、その他、事務室、会議室、応接商談室、書庫、福祉厚生室、重中量ラック462枠、ベルトコンベア2基、ローラコンベア130m、他





長米商事株式会社

〒851-01 長崎市田中町592-2
電話(0958)37-8155



代表取締役会長
田中七之助



代表取締役社長
田中圭介

社訓

(使命) 1. 社業の重要性を自覚し、誠意と誇りを以って邁進しよう。(信用) 1. 信用を重んじ、堅実な商道に徹しよう。(責任) 1. 自己の職務は責任を以って正確に完遂しよう。(和) 1. 和を信条とし、明るい職場創りに努力しよう。(安全と健康) 1. お互いに健康を保ち、安全第一に留意しよう。

代表者 代表取締役社長 田中圭介

創立 昭和48年4月17日

資本金 2,500万円

従業員数 10名

営業品目 食料品、雑穀、飼料卸売業

会社の基本方針

企業の公的立場を自覚し、没我的原価意識の高揚と人材育成により、自信と誇りを以って取引先への不動の信頼を確立、着実な創造的思考とたゆみない献身的努力に徹し、共存の繁栄を樹立、感謝と思いやりの心で理解し合い全社員の活気ある近代生活への向上をはかる。

企業の概要

地域社会の多様化に即応する為、長崎米穀株式会社より従来の取引先を分離、米穀以外の食料品、雑穀、飼料取扱いの卸業として設立、以来10年に亘り親企業との連繋のもと業界の状況を的確に把握、経営の基本的理念に基き体質の改善強化と顧客ニーズへの対応策として55年7月には諫早市に営業所を開設、広域販路の組織拡大をはかり堅実な成長を遂げてまいりました。

大水害による業界の致命的打撃も卓越された企画力と行動力を以って、予想外の復興をなしユニークな発想のもと満足頂ける商品をモットーに新しいマーケティングの展開へ対処致しております。

沿革

昭和48年4月 現会長設立

昭和52年5月 現在地に移転

昭和55年7月 諫早営業所開設





有限会社 緑屋

〒851-01 長崎市田中町1201
電話(0958)37-8160~8162

誠実・忍耐・努力

代表者 取締役社長 渋谷 幸彦

創立 昭和34年10月1日

資本金 1,200万円

従業員数 20名

営業品目

菓子、有名メーカー菓子食品、主な取扱商品

森永製菓、明治製菓、グリコ、ロッチ、不二家、カバヤ、

カネボウ、サクマ、味覚糖、大塚他100社。

チョコレート製品、ガム、キャラメル、キャンデー、ピ

スケット、スナック、ドロップ、缶ジュース、その他、

菓子1,000種類、菓子卸商社。

会社の基本方針

信用を第一主義に取引先の繁栄と満足を自分の喜びとして



取締役社長
渋谷 幸彦



専務
陣野 義弘

愛と汗と真心の奉仕に徹し魅力有る商品開発に努め共存
共栄で業界の発展全社員と共に豊かな生活の向上を計る
覚悟です。

社訓

不言実行 誠実 家庭的な職場

沿革

昭和34年10月1日長崎市西山町2丁目にて有限会社緑屋
を設立 現社長創業

昭和37年8月1日上町1番16号に移転営業

昭和52年4月長崎卸団地に社屋新築移転し現在に至る



株式会社 柴東製菓

長崎支社

長崎市田中町598-1 電話(0958)37-8165

本社 〒857-11 佐世保市大塔町616 電話(0956)31-5420

真面目



代表取締役社長
柴藤 昭三



専務取締役
林 哲朗

代表者 取締役社長 柴藤 昭三
創立 昭和44年7月 創業昭和21年7月
資本金 2,000万円
従業員数 30名(全社 64名)
営業品目 各有名メーカー 菓子 食品 卸売販売
品目例 チョコレート類 スナック類 ガム類
キャンデー類 輸入商品 米菓類
キャラメル類 半生菓子類 豆菓子類
焼菓子類 飲料関係 等々
取扱品メーカー 130社

事業内容

創業以来、菓子、食品の元卸業に終始し、販売網は長崎県一円及び佐賀県の一部卸店、小売店、スーパー、コンビニエンス店等約1200店の得意先を有し菓子業界内に於けるシェアは県下一の機構を誇っております。

会社の沿革

昭和21年10月佐世保市万津町1番地に於て初代社長

柴藤卯助、有限会社柴藤商店を設立。

昭和24年3月 佐賀県武雄市駅通りに於て初代社長松尾国男(現会長)有限会社東洋製菓を設立

昭和26年4月 有限会社東洋製菓業務拡張の為佐世保市戸尾町に移転。

昭和29年1月 有限会社柴藤商店長崎市恵比須町に長崎支社出島を開設。初代支店長柴藤昭三(現社長)

昭和33年1月 有限会社柴藤商店長崎支社を恵比須町より長崎市出島町に移転。

昭和41年2月 有限会社東洋製菓佐世保市大塔町(現在地)に移転。

同時に株式会社組織に変更。

昭和44年7月 有限会社柴藤商店と株式会社東洋製菓合併。株式会社柴東製菓として発足現在に至る。

昭和52年4月 株式会社柴東製菓長崎支社を長崎市田中町長崎卸団地内に移転。





花王製品長崎販売株式会社

〒851-01 長崎市田中町2022
電話(0958)37-8005(代表)

経営理念

“地域社会へ清浄奉仕する”

代表者 代表取締役社長 成宮 健一

設立年 昭和43年2月9日

資本金 2,500万円

従業員数 (役員)10名 (従業員)44名

営業品目

ヘアケア製品・石けん・洗顔フォーム・ニベア製品・ハミガキ・ハブラシ・生理用品・衣料用洗剤・漂白剤・柔軟剤・糊剤・台所用洗剤・台所用漂白剤・クレンザー・殺虫剤・住居用洗剤

当社の使命

当社の最も大切な使命は、多様化する消費者ニーズを適確に把握し、それぞれの地域社会に密着したキメのこまかいマーケティングを展開することにあります。花王の家庭用品は日常生活に必要な不可欠なものばかりで、全国各地の販売店を通じて消費者の方々にこうした製品をお届けすることによって、“清潔で明るい暮らしに奉仕する”という企業理念の実現をめざしています。



代表取締役社長
成宮 健一



取締役常務
藤野 重雄

近代流通システム化の革新 (L・I・S)

※本社及び販社コンピューターをオンラインで結び、本社、販社の販売事務の合理化や販社から小売店への日々の売上情報を本社コンピューターで把握することで市場実態に即応した販売計画・生産計画・積送計画を可能化し、物的流通の最終段階の売上情報は市場の活きたマーケティング情報として、流通の革新的経営に邁進しています。

沿革

- 昭和43年4月 営業開始 資本金 1,000万円 (長崎市出島町7番18号)
- 昭和43年10月 諫早・島原地区 販路拡張 島原営業所開設 (増資200万円)
- 昭和45年12月 業績拡大につき本社移転 (長崎市梅ヶ崎町7番1号) 業界初のラック・パレット方式導入 (増資1,200万円)
- 昭和47年4月 長崎卸団地 建設計画スタート
- 昭和52年4月 本社移転 (長崎市田中町2022番地) (増資100万円) 総資本 2,500万円



藤村薬品株式会社

〒851-01 長崎市田中町2022
電話(0958)37-8331



代表取締役会長
森西政義



代表取締役社長
藤村哲朗

“健康に奉仕する”

代表者 会長 森西政義 社長 藤村哲朗
創業 明治20年6月
資本金 3,000万円
従業員数 285名
営業品目 医薬品、衛生材料、防疫薬剤、ワクチン類、
麻薬、乳製品、動物用薬品の卸売、健康食品、医療器械
及び関連商品の販売

沿革

明治20年6月 初代藤村萬作、長崎市大浦相生町に薬局
開設
大正10年6月 二代目藤村萬作、襲名し事業を継承
昭和4年6月 長崎市元船町に店舗新築移転
昭和21年7月 株式会社藤村商店設立
昭和33年7月 藤村薬品株式会社に商号変更
昭和40年1月 長崎市扇町に本社新築移転
昭和44年5月 藤村哲朗、取締役社長就任
昭和53年2月 長崎市田中町に本社新築移転
昭和56年6月 株式会社重松薬房と合併、森西政義、取
締役会長就任

当社は長崎・佐賀県下における医薬品の卸問屋として、
過去着実な進展をたどり、激動する流通革命にも順応し
つつ、旧来の問屋形態を脱皮し、近代的な機構のもとに
堅実な歩みを進めてまいりました。

当社は医薬品の流通商社として、お得意様、メーカー、
消費者の皆様の繁栄と幸福に奉仕することにより、自ら

も生きることを念願とする企業であります。

人間の生命、健康につながる医薬品産業の社会的使命
と特殊性を十分に認識し、地域社会の保健衛生の向上に
わずかなりとも貢献・奉仕することを社是としておりま
す。

毎日の業務の中から、社員相互の親睦を計り、そして
成長する為に日夜反省と創造、研鑽向上が当社の信条と
もなっております。

- ◎喜ばれ信頼される商品の供給
- ◎正しい人間の完成と常に正道に立った社業の運営
- ◎顧客とメーカーと本社との共存共栄
- ◎吾々の働きで吾々の生活を向上し、よりよい会社に
致しましょう。

……以上の「吾々の信条」を根本理念とし、“健康に奉仕
する藤村薬品”をモットーにしています。

事業所

本 社 長崎市田中町2022番地
佐世保支店 佐世保市卸本町8番1号
諫早支店 諫早市小船越町1076番地
五島支店 福江市中央町2番地10
佐賀営業所 佐賀市神野西1丁目1番15号
武雄営業所 武雄市武雄町竹下5672-7
大村営業所 大村市西大村本町343番地
浦上営業所 長崎市扇町12番23号





株式会社長崎パルタック

〒851-01 長崎市田中町1290
電話(0958)37-8011(代表)



取締役社長
成宮 健一

新しい流通，新しい発想に挑む 「誠実と信用」

代表者 取締役社長 成宮 健一

創立 昭和44年3月17日

資本金 1,500万円

従業員数 本社長崎 28名 佐世保支店 11名

営業品目

化粧品，石鹼，歯磨，日用雑貨，総合卸商社

企業の特徴

社名のパルタック(PALTAC)とはPioneers Alliance of Living necessities, Toiletries And Cosmetics(生活必需品トイレタリーと化粧品の開拓者連合)という英文の頭文字を組合わせた造語です。PALにはまた、「気の合った仲間」という意味もあり、流通を担う者の同志的連体感の希いがこめられています。

パルタックはメーカーとユーザーを結ぶパイプ役と、強力な営業網に裏付けされた、国内外の有力メーカーとの緊密な結束が、流通産業のリーダーとして国内50都市に展開するグループの輪を、更に拡大し卸業の地位の向上

を目指し、新しい流通，新しい発想に挑む総合商社への道を拓いて、美しく明るく健康な生活のために社会に貢献していきます。

沿革

昭和44年2月17日 夫々50年，100年の歴史を有する，地元長崎の(株)丸橋商店，成宮商店と大阪市の化粧品卸(株)大粧の3社による合弁会社(株)長崎大伸として設立し，大粧グループに参加する。

住所長崎市新地町6番1号 資本金500万円

昭和47年2月 長崎市宿町600番地に住所移転

昭和51年10月1日 大粧グループ全国社名を統一，社名パルタックに変更により，長崎パルタックに社名変更。

昭和52年4月 現在地長崎市田中町1290番地(卸センター内)に敷地面積1,717㎡，建築延面積869㎡，新築移転

昭和54年1月1日 パルタックグループの佐世保市(株)佐世保パルタックを吸収合併し，(株)長崎パルタック佐世保支店とする。





山二塗料産業株式会社

長崎店

〒851-01 長崎市田中町2142 電話(0958)37-8020
 本社 〒857-11 佐世保市卸本町9-1 電話(0956)31-8020

心

代表者 代表取締役 山下 茂 俊

創 立 昭和36年3月8日

資 本 金 600万円

従業員数 23名

営業品目

塗料, 塗装機器, 雑貨, 卸小売, 塗装工事請負

企業の特徴

当社は、山二精神十カ条のもと、少数精鋭をもって、九州一円、山口県、沖縄県にいたる広域販売網を有し、新規需要の開拓、メンテナンスの充実と、積極的な営業を展開し、企業の発展と繁栄を勝ち取り、業界のリーダーとしての責任と、地域発展の為、寄与する事をめざしています。

沿革

- 昭和36年3月 資本金100万円にて(株)佐世保山二塗料店として分離、設立
- 昭和40年8月 (株)山二塗料店と社名変更
- 昭和42年6月 諫早市に諫早店開設
- 昭和44年11月 長崎市に長崎店開設
- 昭和47年4月 本社、佐世保卸団地に移転、山二塗料産業(株)と社名変更、資本金、300万円に増資
- 昭和50年6月 資本金600万円に増資
- 昭和50年10月 鹿児島市に鹿児島営業所開設



代表取締役
山下 茂 俊



店 長
松 永 英 男

昭和52年3月 諫早店、長崎店を統合、長崎店として、長崎卸センターへ移転、現在に至る。

山二精神十カ条

吾々は、山二塗料産業株式会社の社員として、山二精神十カ条に、徹します。

- 一、吾々は、社長を主とし、親とし、師として、従う事を誓います。
- 一、吾々山二一家の兄弟姉妹は、一致団結して、愛情と仁義を重んじます。
- 一、吾々は、序列と、規則を重んじ、秩序ある親和を、計ります。
- 一、笑顔での礼節は、己の美德なり。
- 一、吾々は、智力と、活力と、創造力を培い、忍辱と、寛容の精神を養います。
- 一、吾々は、有言実行、責任完遂の精神で、社の発展と、信用を高める事に、務めます。
- 一、健康で、明るい幸福な家庭こそ、仕事の源である。
- 一、吾々は、三方徳の精神を発揮し、製・販・装の富貴の為に、励みます。
- 一、吾々は、報恩感謝の精神をもって、社会の発展に、奉仕します。
- 一、吾々は、先憂後楽の精神に徹し、贅沢を排し、自身に、厳しく、律します。



長崎三菱電機商品販売株式会社

〒851-01 長崎市田中町1235-2
電話(0958)37-8170

基本の実践と自己研鑽、 取引先に信頼される社員となれ。

代表者 代表取締役社長 藤島 博

創立 昭和45年6月1日

資本金 1,000万円

従業員数 41名

営業品目 三菱電機株式会社製の電気機械器具、特に家庭用電気品および住宅機器品。

趣味を豊かに……カラーテレビ、ビデオ、オーディオカーオーディオ、ゴルフ練習機、

食生活を豊かに……冷蔵庫、冷凍庫、オープンレンジ、ジュサーミキサー、コーヒーメーカー、電子ジャー炊飯器、ホットプレート、オーブントースター、ウォータークーラー、清潔に美しく……洗濯機、衣類乾燥機、ふとん乾燥機、掃除機、セントラルクリーナー、アイロン、シェーバー、

住まいを快適に……ルームエアコン（霧ヶ峰）、業務用パッケージエアコン、クリンヒーターエアコン、扇風機、ウインドファン、クリンヒーター、石油ファンヒーター、床暖房、家具調コタツ、電気毛布、セントラル給湯機、ソーラー給湯システム、電気温水器、石油瞬間湯沸器、一般用換気扇、用途別換気扇、空調換気扇、

暮らしを演出する……シャンデリア、蛍光灯じかけ器具和洋用ペンダント、スタンド、蛍光ランプ、水銀灯、白熱灯、工事用器具、防災用器具、



代表取締役社長
藤島 博

会社の基本方針

未来を開発する「三菱電機」の商品を、地域に密着した販売政策の推進により提供し、取引先の繁栄と、最終顧客の豊かなくらしに奉仕すること。

企業の特徴

未来を開発する三菱電機の販売会社として設立され、長崎県南部を中心に家庭用電気品および住宅機器品の卸販売を行っている。発足時は長崎市新地町において営業を開始したが、当卸センターの完成に伴い、昭和52年2月21日に移転し、現在に至っている。その間霧ヶ峰のエアコン、石油ファンヒーターをはじめたて形コンポ、ゴルフ練習機、算数、英語めきめきなど数々の新商品を顧客に提供し好評をえている。

沿革

昭和46年9月21日営業開始。

昭和52年2月21日長崎卸センターに移転。

昭和54年2月16日島原営業所開設。





ムトウ電材株式会社

〒851-01 長崎市田中町1235-2
電話(0958)37-8015



代表取締役 武藤 嘉光

1. 誠実, 熱意, 謙虚 2. 明朗, 活発, 創意工夫

代表者 代表取締役 武藤 嘉光

設立 昭和42年6月30日

資本金 1,000万円

従業員数 14名

営業品目

(1) 電設機材

電線及ケーブル, 電線管及附属品, 照明器具, クレーン用電路資材, 配線器具, 信号機器, 各種開閉器類, キュービクル高圧受電設備及各種分配電盤, 通信機器, 放送設備機器, 共聴機器, 防犯防災機器, 架線材料, 電球類, 各種電気計測器類, 各種省エネ便利工具, 作業用安全防具, 電動工具, 家庭電化品, 他電設機材全般

(2) 空調機器及住宅機器

冷暖房機器販売及据付, 換気扇, 電気温水器, 太陽熱温水器, ホームポンプ, 各種給湯機, セントラルクリナー他。

(3) 昇降機(エレベーター)

乗用エレベーター(三菱電機), 貨物, 料理用昇降機(ムトーリフト) 製作及び施行

(4) 自家用発電機 非常用発電機

会社の基本方針(朝の誓いの言葉)

一、顧客の繁栄と幸福を心から念じ誠実, 熱意, 謙虚を

モットーに今日一日を頑張ろう。

二、明朗, 活発, 創意工夫を常に心掛け, 自己研鑽に励み, 日々の仕事を通じ国家社会に貢献しよう。

企業の特徴

(1) 電材総合卸商社としての責務を自覚し, 常に新商品の開発に努め, 特に省エネ, 防災, 自動化等の商品は機種別担当者が更に専門的な販売技術の習得に努めている。

(2) 料理貨物等の昇降機は(ムトーリフト)の自社ブランドにて製作取付施行と保守業務を行い, 乗用エレベーターの販売と合わせて昇降機類の販売実績は年々大幅上昇しており空調設備, 自家用発電機, 住宅設備機器等を含めて総合的な電設機材センターとして, 幅広い商品群を備えている。

(3) 社員の平均年齢は25才と若さが溢れて, 又全員参加の企業経営を目指して勉強会を積み重ね, 透明で明るい職場づくりを常に心がけている。

沿革

昭和42年6月に会社設立し, 長崎電気工事業協同組合の購買事業部を継承業務開始。

昭和52年12月長崎卸センターに社屋落成, 本社機構と商品流通センターの業務開始。金屋町営業所と合わせて市場の拡大を計っている。





有限会社 佐藤泰治商店

(佐藤住宅建材センター)

〒851-01 長崎市田中町571-2
電話 (0958) 37-8035



代表取締役社長
佐藤 泰彦

代表者 代表取締役社長 佐藤 泰彦
創 業 昭和21年6月1日
資 本 金 1,500万円 会社設立 昭和26年3月1日
従業員数 43名
営業品目 一般建築材料及び住宅機器の販売
健康器具の販売
建築業, 分譲住宅販売
不動産の売買, 仲介及び賃貸
上記に附帯する業務

会社の特色

終戦直後、戦後復興にとって住宅建築は欠かせないもので、住宅建築の資材を販売することで、国の復興に、貢献しようと、現会長(佐藤泰治)が創業。以来住まい一筋37年間、信用を重んじ、優良な商品を提供して顧客の満足を自分の喜びとし、健全な社会生活の向上に寄与することをモットーに歩んできました。創業頭初は建築資材の販売でスタートしたが、その後、時代の要請に応じて、住宅機器の販売、建築業、増改築業と営業を拡大し、関連会社を設立し、現在佐藤建材グループとして5社がある。

沿 革

昭和21年6月 創業

昭和26年3月 (有)佐藤泰治商店に改組
34年5月 住吉支店開設
45年8月 佐賀営業所開設
46年2月 本社・新社屋を魚の町に完成
46年8月 住宅事業部開設
48年3月 住吉支店分離独立(有)佐藤寿商店
51年3月 住宅サービス部開設
52年5月 卸団地に流通センター開設
56年3月 卸団地に建築資材事業部を移転
56年3月 住宅サービス部独立(株)泰成住宅
56年5月 広告代理店(株)栄宣を設立
57年1月 福岡県中心の販売の(株)佐山設立
58年1月 健康器具製造の(株)栄健産業(株)設立

関連会社

(株)泰成住宅 長崎市西坂町1-4
(0958) 21-6044
(株)栄宣 長崎市魚の町7-3
(0958) 23-6294
(株)栄健産業(株) 西彼杵郡長与町嬉里郷726-3
(0958) 87-0270
(株)佐山 福岡市博多区元町1丁目3-25
(092) 573-1232



ZIM 迅務株式会社

長崎営業所

〒851-01 長崎市田中町 551-2

電話(0958)37-8181

本社 〒813 福岡市東区多ノ津 1-1

電話(092)622-3305

オフィスオートメーション時代を リードする

代表者 代表取締役社長 大庭 耕一郎

創立 昭和21年10月1日

資本金 4,500万円

従業員数 170名

営業品目

単能事務機・OA機器、事務用品、オフィス家具等の
総合卸販売

高級オフィスインテリアおよび店舗内装の設計施行

会社の基本方針

迅務はビジネス用品、ビジネスマシン、オフィス家具
の総合商社として、小売店を通じ西日本の流通機構の一
翼をになって社会に奉仕します。

会社の特色

迅務は創業後一貫してオフィス関連のビジネス用品、
事務機、オフィス家具の流通で九州経済の発展と共に歩
いてきたフレッシュな企業です。取扱品は創業当時のフ
ァイル、バインダーなどの事務用品に加え、最近ではオ
フィスコンピューター、ファクシミリなどのオフィスオ
ートメーション時代をささえる分野へ進出し、オフィス



代表取締役社長
大庭 耕一郎



所長
鈴木 嘉隆

家具分野も、快適で能率的なオフィス空間をシステム化
するオフィスづくりを目指しています。

このように迅務は常に新分野の開拓、新しい需要の
創造をモットーに進んでいます。

沿革

昭和21年10月 創業者大庭康資によって迅務株式会社を
設立

昭和28年10月 北九州に進出、小倉出張所を設立

昭和38年2月 徳山営業所を設置

昭和40年4月 熊本営業所、鹿児島営業所を設置

昭和42年4月 宮崎営業所を設置

昭和42年11月 北九州店新店舗・倉庫を建設

昭和43年4月 長崎営業所、大分営業所を設置

昭和49年7月 福岡流通センターに本社・倉庫建設、旧
本社屋をショールームとする。

昭和52年3月 長崎営業所、長崎卸センターに新社屋建
設。





手塚商事株式会社

〒851-01 長崎市田中町1235-2

電話(0958)37-8190

“正直は長久の基”

誠実を旨とし、明朗融和、
三者共栄の精神を涵養する。

代表者 代表取締役 手塚喜三郎

設立 昭和9年10月1日

資本金 1,500万円

従業員数 50名

営業品目

家庭金物、家庭荒物、電子ジャー、ポット、プラスチック
化成品、厨房用器具、燃焼器具、家庭電化品。

会社の基本方針

手塚商事株式会社は企業を通じ広く社会への奉仕を以て経営の基本方針とする。

即ち人生の基本は道徳にあるが如く、商業道徳をわきま
え、常に公明正大、相互信頼と共存共栄をモットーに、
明朗で活発な社風を以て会社の名誉の高揚に努め、社
会に奉仕し事業永遠の繁栄に努力する。

企業の特徴

創業以来50年……家庭用品総合商社として、国内一流
メーカーの商品を多種多様に取扱っており、常に消費者
のニーズに応えたハイセンスな商品をより豊富に取揃え



代表取締役会長
手塚三郎



代表取締役社長
手塚喜三郎

流通革命時代に対応し社会に貢献している。

沿革

- 昭和9年10月 手塚金物店より分家
長崎市銀屋町36番地に荒物商手塚三郎
商店を独立開業
- 昭和25年1月 有限会社手塚荒物店として法人組織に
変更 資本金100万円
- 昭和36年11月 資本金250万円に増資
- 昭和37年6月 資本金400万円に増資
- 昭和37年7月 長崎市銀屋町53番地、銀屋ビルに本社
を移転
- 昭和38年4月 手塚商事株式会社に改組
住居表示変更により長崎市古川町7番
7号となる。
- 昭和38年6月 資本金600万円に増資
- 昭和42年3月 資本金1,000万円に増資
- 昭和47年4月 資本金1,200万円に増資
- 昭和50年5月 資本金1,500万円に増資
- 昭和52年3月 長崎市田中町1235番地2卸団地内に本
社ビルを新築移転現在に至る。





有限会社吉次商店

〒851-01 長崎市田中町1235-2

電話(0958)37-8185

勉強，努力，忍耐

代表者 代表取締役 岡 一

設立 昭和31年9月1日（創業大正4年）

資本金 600万円

従業員数 14名

営業品目 家具，日用荒物，卸問屋

企業の目標（社訓）

1. 勉強

人間は一生勉強を忘れてはならない。世の中は「日進月歩」である。職場に於ても、家庭に於ても、社会に於ても、先ず勉強して自己の向上を計らねばならない

1. 努力

物事はすべて努力なしでは出来ぬ。努力してこそ其の輝やかなしい成果が到来するものである。黙々として、努力を積み重ねてゆくことに依って成功がくる。



代表取締役社長
岡 一

1. 忍耐

何事も忍耐が肝要である。耐え忍んで頑張ってゆくことに依り、悔のない毎日が暮して行けるし「日々是好日」である。

以上3つのことを忘れず頑張っていけば、吉次商店は御得意様と共に従業員も社会も栄えてゆくものと確信する。

沿革

大正4年 先代岡 留吉、吉次家具店を開業

昭和15年 上記、二代目 岡 一 引継ぐ

昭和20年 原爆により焼失

昭和21年 和雑貨卸商を始む

昭和29年 合名会社吉次商店と組織変更

昭和31年 有限会社吉次商店と組織変更

昭和52年 万屋町より田中町卸団地へ移転





株式会社 岡部商店

〒851-01 長崎市田中町593-2
電話(0958)37-8282

知徳兼備

代表者 代表取締役社長 岡部 勝也
設立 昭和37年 6月 1日(創業明治12年 5月)
資本金 1,400万円
従業員数 68名
営業品目 紙・文具・事務用品・OA機器

基本方針

- 1 文化発展の為・情報・手法・道具を迅速に提供して社会生活に寄与する。
- 1 寛容にして礼節を尊び、品位に満ちた社風を造り和親一致して社会に奉仕する。
- 1 絶えず知徳の向上に努力し創造力豊かな社風を育成する。

経営方針

オフィスの重要性は日々高まり、多様化しております。
 オフィスのレベルアップのため検討・創造・提案していくのが当社の使命です。
 ユーザーの希望に応じ人間性尊重の理想的なオフィス創りを目指します。
 OAも重要なテーマです、ユーザーの要望に的確に答えるべく専門的な人材の養成に努める。



代表取締役社長
岡部 勝也

沿革

明治12年 5月 紙商を創業
 昭和37年 6月 社名変更を行い「株式会社岡部商店」となる
 43年10月 築町1-5に「本社ビル」建設
 51年 6月 諫早市栗面町に関連会社「株式会社おかべ」を(新築)設立
 53年 6月 田中町長崎卸センターに「新社屋、倉庫を建設」営業を開始
 54年11月 創業100周年記念式典ならびに新社屋落成記念、祝宴を挙げる
 56年 8月 浦上営業所を新設
 57年 9月 大村営業所を新設
 // 島原営業所を新設

営業所

営業本部 長崎市築町1-5
 小売部 長崎市築町3-24
 浦上営業所 長崎市橋口町5-22
 大村営業所 大村市杭出津3丁目487
 島原営業所 島原市中堀町1095
 スチール家具部 長崎市橋口町5-22
 技術部 長崎市築町1-2

関連会社

(株)おかべ 諫早市栗面町209





株式会社 中尾商店

〒851-01 長崎市田中町560
電話(0958)37-8088(代)

誠心誠意社会に奉仕

代表者 代表取締役 中尾 伸夫
設立 昭和22年10月23日（創業大正15年12月）
資本金 1,250万円
従業員数 50名
営業品目 文具、事務機器、教材、カシオ製品、卸業
及び教科書取扱店

支店

- 銅座店（小売部）—長崎市銅座町6番25号
- 長崎デジタル（カシオ製品販売長崎県総代理店）
—長崎市田中町560番地

関連会社

- 株式会社長崎コクヨ（コクヨ製品販売長崎県総括店）
—長崎市田中町584番地

経営方針

1. 我が社は、文具、事務機器、デジタル等の販売に従事することを社会より付託された天職として、事務のコンサルタントを目指す。
2. 研究と前進のため、明日のビジネスに挑戦する。
3. 文具、事務機器、デジタル等の販売に於て、永久に地域一番店の座を堅持するため、何事も幹部社員が率先して全社協力体制をつくる。



代表取締役社長
中尾 伸夫



専務取締役
田添 秀雄

主要取扱商品

- サクラクレパス、三菱鉛筆、ジャポニカ学習帳
- コクヨ製品（事務用品、紙製品、スチール家具）
- カシオ製品（計算機、デジタル時計、楽器）
- クローバーギフト商品、ファンシー商品
- 教科書、教材、その他一流メーカー商品

沿革

- 大正15年12月 中尾貞治が銅座町に和洋紙、文具等の卸業、中尾貞治商店創業。
- 昭和22年10月 個人商店を法人組織に改組、株式会社中尾商店設立。
- 昭和36年2月 コクヨ部を分離し、株式会社長崎コクヨを設立。
- 昭和38年3月 中尾貞治他界、中尾ツル代表取締役に就任。
- 昭和43年6月 交通事情の変化に伴い卸部門を音無町に移転し、配送部を設置。
- 昭和50年10月 中尾ツル社長を辞任し会長に、中尾伸夫代表取締役社長にそれぞれ就任。
- 昭和52年5月 田中町の長崎卸団地内に新社屋を完成させ本社を移転す。





株式会社丸 本

〒851-01 長崎市田中町593-1 電話(0958)37-8205
本社 〒850 長崎市大井手町50 電話(0958)25-6121

手を愛す(健康・創意工夫・反省)
社を愛す(協力と融和・生産性の向上・幸福)
他人を愛す(感謝・販売の向上・共存共栄)

代表者 代表取締役 丸本 柳八
専務取締役 吉岡 泰志

創 立 昭和25年2月15日

資 本 金 6,000万円

従業員数 120名

営業品目

- イ. 包装用プラスチックフィルム ロ. 紙製品
- ハ. プラスチック成型品 ニ. テープ・バンド類
- ホ. 発泡スチロール製品 ヘ. 機械
- ト. 農水産用資材 チ. 肥料, 農薬等

製造加工品目

- イ. グラビア印刷・製袋加工
- ロ. 発泡スチロール製品製造
- ハ. ハウス用ビニール加工
- ニ. 果樹用棚他組立加工の請負

会社の案内

リングのサクッとした味は美しいつやのある赤い表皮に包まれております。

ミカンの水気をふくんだ半月の小袋はオレンジ色の厚い皮に包まれております。

新鮮さ、清潔さ、永続性を保つには、適した包装を必要とするのです。

販売競争の激化の今日、包装のはたす役割は、一本の大きな柱として、流通社会の機構を支えるに至り、当社は昭和25年創立以来、プラスチックの近代的包装資材を手



代表取締役
丸本 柳八



専務取締役
吉岡 泰志

がけて、34年間努力してまいりました。

当社の製品1つ1つにまごころをこめて作り出し皆様の大事な商品の、無言のセールスマンとして無言のコメントーターとしての役割をはたしております。

卸センターに昭和53年度より、当社の中核となるべく流通センターを設立し、長崎市はもとより、長崎、佐賀、熊本県下を商圏として活躍中であります。これからも充実した企業体となるべく社員一同、努力する覚悟であります。今後共宜しくお願ひします。

沿革

- 昭和25年2月 長崎市油屋町に包装用品卸、丸本商店として発足。
- 昭和33年12月 これを株式会社 丸本商店に改組。
- 昭和38年10月 西彼杵郡多良見町に敷地買収、喜々津工場を建設。
- 昭和41年6月 系列会社 福岡丸本(株)を設立。
- 昭和46年12月 粕屋郡志免町 福岡工場新築。
- 昭和51年3月 本社ビル新築。株式会社丸本に改正。
- 昭和53年1月 卸センター団地内に営業所新設。
- 昭和53年8月 発泡スチロール製造のため増設。
- 昭和56年1月 諫早中核団地に、4千坪の土地購入。
- 昭和57年7月 丸八物産(株)を吸収合併、島原工場とす。
- 昭和57年9月 諫早中核団地に長崎工場建設完成す。現福岡工場隣接地へ新工場建設完成。





有限会社木原商店

〒851-01 長崎市田中町2022

電話(0958)37-8211(代表)

お互の人格向上をはかり、
豊かな会社づくりに前進し、
職域を通じて社会に奉仕します。



代表取締役社長
木原 憲悟

代表者 代表取締役 木原 憲悟

設立 昭和37年 7月

資本金 1,000万円

従業員数 30名

営業品目 日用雑貨総合卸

沿革

明治15年 初代木原林作万屋町70番地酒類商創業

昭和5年 二代木原勝太郎継承

昭和6年 本石灰町へ移転食料品雑貨営業

昭和20年 戦時体制企業整備により廃業

昭和22年 現社長万屋町46番地にて日用品卸開業

昭和37年 有限会社木原商店設立万屋町73番地

昭和41年 住居表示変更浜町2番20号となる。

昭和44年 鉄筋ビル4階新社屋落成

昭和52年 現在地卸センター新社屋落成浜町より移転

昭和52年 浜町ビル改装営業所開設佐世保営業所開設

昭和56年 本社隣接地に第2倉庫落成

会社の基本方針

信用を旨とし、誠実を以て事に当り、堅実に進展します。

企業の特徴

創業100年を越える古い伝統をふまえて、新しい時流に即
応し、全国優良メーカーと直結して、日用雑貨の営業を
通じて地域社会に貢献しております。



丸 沢 株 式 会 社

〒851-01 長崎市田中町1201
電話(0958)37-8045(代)

偏見なく、出すぎず、おくれず、社会の秩序をみだすことなく。愛される、明るい店として謙譲の精神を貫き会社定款を生かす。

1. 奉仕を主とし利得を従としながら、商売の尊さを考える二十世紀の流通業者とならん。
2. 小欲を捨て真理を学び悟りに生きるべし。
3. あふない話に乗らず、賢者の道に従うため読書につとめよ。

代表者 代表取締役社長 八田 義人

創 立 昭和51年10月29日

資 本 金 100万円

従業員数 12名

営業品目

日用品雑貨、洗剤歯磨、線香、ローソク、殺虫・防虫剤、芳香防臭剤、白チリ、ロール紙、紙加工品、花火、プラスチック製品、その他家庭用品の総合卸

企業の特徴

創業以来20年間二次卸屋に徹し、小売店の仕入係とし



代表取締役社長
八田 義人

ての役割。即ち商品の品質、値段、仕入の時期、量等を吟味し、得意先に、メーカーに、一次問屋に、益すると共に、自社存続の意義を確認しつつ経営されている。

沿 革

昭和37年6月29日西浜町に現社長創業

昭和51年10月26日法人成

昭和52年3月20日長崎卸センターに社屋新築移転し、現在に至る。





前田株式会社

〒851-01 長崎市田中町1264

電話(0958)37-8222

最大の企業たらんより 最良の企業たれ

代表者 代表取締役社長 前田 圭一郎

創立 昭和2年3月

資本金 5,000万円

従業員数 43名 パート7名 役員8名 合計58名

営業品目

婦人服, 婦人洋品, 紳士洋品, 子供服, 子供洋品, ベビー洋品, 肌着, ナイティー, スポーツウエア, ワーキングウエア, 学生服, 体育衣料, ギフト用品

主な代理店

グンゼ製品長崎地区総代理店、富士ヨット学生服代理店、ムーンライトニットウエア代理店、コーカン製品代理店、スワンシャツ代理店、BVD代理店。

基本方針

企業活動は、まず人間として生きることである、という基本精神のもとに、“最大の企業”であることより“最良の企業”であることを目指し、生活者のより豊かな衣生活への貢献を果たしていきたいと考えています。

当社の特色

〔A〕グンゼ製品の総代理店をはじめ衣料業界の有名ブランドの代理店の権利を持っています。

〔B〕婦人洋品をはじめファッションに強い体質を持っています。



代表取締役社長
前田 圭一郎

〔C〕総合問屋でなく洋品関係の専門卸問屋です。

〔D〕地元長崎市内をはじめ都市部に販売のシェアを持ってしています。

沿革

昭和2年先代前田綾男が長崎市江戸町にて創業。

昭和7年銅座町1番地に合資会社前田商店設立。

昭和25年銅座町3番13号に移転。

昭和31年4月前田圭一郎入社する。

昭和31年資本金50万円に増資。

昭和37年資本金200万円に増資。

昭和39年隣接地100㎡買収、鉄骨3階建増築。

昭和40年資本金400万円に増資。

昭和42年資本金800万円に増資。

昭和43年隣接地400㎡買収、鉄筋3階建増築。

昭和44年資本金1,500万円に増資。

合資会社前田商店を前田株式会社に社名変更する。

昭和45年資本金2,000万円に増資。隣接地350㎡買収。

昭和47年鉄筋3階建を4階建に増築し創業45周年記念祝賀会を催す。

昭和52年長崎卸センターに新社屋建設、4月移転。

資本金5,000万円に増資する。



西澤株式会社

〒851-01 長崎市田中町 1219

電話(0958)37-8301

本社 〒850 長崎市古川町5-23

電話(0958)26-7111

顧客と共に「信頼と感謝の心のもと社会の公器として社業の発展と併せて社員の幸せを求めあすの繁栄に奉仕する」

代表者 代表取締役 西澤博造

創立 法人設立昭和25年5月1日 創業 安政元年

資本金 1,000万円

従業員数 43名

営業品目 繊維製品総合卸 { 綿布, 呉服, 寝具寝装,
婦人服, 子供ベビー用品,
ギフト各種

会社の基本方針

創業130年の「のれん」を継承し続けてゆく社風を社長以下社員全員のモットーとし、繊維衣料の販売を通じて各小売店様始めお得意先の繁栄と共に仕入先を大切に常に時代に即応した魅力ある商品の開発と流通に努め事業の発展を目指し併せて社会に貢献し又社員家族共に物心両面の豊かな生活の向上を期する。猶現在物流の大きな転換期を迎え、地方卸業として上記基本方針を基として社員全員の総力を結集し変化に対処し得る企業体質を確立し常に新しい先取型の事業方針を打出し仕入先、得意先のご協力の下に前進して行く決意方針である。



代表取締役
西澤博造



取締役専務
西澤秀隆

企業の特徴

創業以来地方問屋としての使命に徹し各部門にわたり新商品群のリスクを考慮し販売促進企画と商品の流通に常にお役に立つ態勢を備えている。

沿革

安政元年 初代西澤真藏近江より大阪に出て麻販売を開始する。

明治5年 販路を持下り商法により長崎鹿児島方面に求め長崎店を現在本社(古川町)に定め今日に至る。大阪店は大正9年迄存続する。

昭和18年 戦時企業統制令により長崎県繊維製品統制株式会社に統合、店舗も貸与する(同18年7月先代当主西澤伊三郎没)

昭和25年 統制解除により事業再開、株式会社を設立(5月1日) 現社長・専務により今日に至る。

昭和53年 田中町卸団地に営業所を開店一寝具、製品部(5月)を移し現在に至る。古川町本社には呉服服装並綿布部と本社経理部を置く。





飯塚電産(株)

〒851-01 長崎市田中町1292
電話(0958)37-8050

誠心誠意真心を持って お客に接する事

代表者 代表取締役 飯塚 亨

創立 昭和40年11月23日

資本金 1,100万円

従業員数 8名

営業品目 家庭電気一般

象印製品(ポット・炊飯ジャー)

パロマ, リンナイガス器具

音声機器(ステレオ・カラオケ)

健康器具, 理美容器具, 補聴器

アンテナ関係

夏冬季節商品 (扇風機・冷蔵庫・クーラー)
ストーブ・家具調コタツ
温風ファンヒーター
ふとん・T.V

照明器具

音楽テープ, ビデオテープ, TDK



代表取締役社長
飯塚 亨

会社の基本理念

我が社は地場の家電二次問屋の使命としてメーカー電気店一般ユーザーとの商品流通の円滑をはかり、より豊かな社会又より豊かな家庭生活の向上に寄与し、地域社会の繁栄発展にもつながる。我が社一同は常に得意先に感謝をし誠心誠意真心の気持で奉仕する。

企業の特徴

地場卸問屋の使命として豊富な商品構成と、商品の流通配送等特に取引先の満足を充すべく即納態勢をモットーに真心で奉仕する。

沿革

昭和40年11月 飯塚パーツ創業。

昭和44年1月 飯塚パーツ会社設立。

昭和51年2月 飯塚電産(株)に社名変更。



SONY 九州ソニー販売(株)長崎営業所

〒851-01 長崎市田中町2142 電話(0958)37-8300

本社 〒810 福岡市中央区天神3-16-9 電話(092)712-9321



所 長
佐々木豊和

代表者 代表取締役社長 矢後 昭芳

創立年 昭和37年12月12日

資本金 4,000万円

従業員数 133名(内長崎営業所20名)

営業品目

電気製品卸売業

当社は、日本が世界に誇るソニー製品の国内各地域における販売を担当している会社です。当社の主な仕事は一般電気店、デパートなど音響製品を扱う販売店に対し

て、ソニー製品を販売する、いわゆる卸活動です。

ただ売るだけでなく、ソニー製品を販売することがお店にとって有益であり、ソニーと共に発展することを目的としています。また、お客さまに対しては、ソニー製品の効用、機能、特徴などを正しく伝え、そこに新しい用途、新しい需要を生み出し、ソニー製品を本当に満足してご使用いただくとするものです。

“SONY”のブランドに誇りを持ち、より多くのお客さまにソニー製品、情報を提供していく努力を続けています。



Clarion 長崎クラリオン株式会社

〒851-01 長崎市田中町588-3
電話(0958)37-8230

知恵のある者は知恵を出せ
知恵のない者は汗を出せ、
汗も知恵もない者は静かに去れ。

代表者 代表取締役 中根 伸治

務の改善に努力します。

設立 昭和43年6月1日

資本金 6,500万円

従業員数 30名

営業品目 カーオーディオ・カーエアコン・ミュージックテープ・カラオケ特器・厨房機器・宣伝用拡声機器・バス機器・簡易無線

会社の基本方針

私たちは、産業人としての自覚を持ち、社業の発展を通じて、私たちの生活の向上を目指し、ひいては、地域社会に貢献することを至上の目的とするものであります。

1. 私たちは、経営方針を正しく理解し、誠意と勇気と責任を持って、職務の完遂に努力します。
1. 私たちは、お互いの人格と自主性を尊重し、和の心を持って、一致協力し、常に総力を結集し、社業の限りのない発展と、お互いの幸福を築くよう努力します。
1. 私たち、業務の遂行にあたって、建設的姿勢で、常に、合理化を追求し、新しい営業の開発と絶えざる業



代表取締役社長
中根 伸治

企業の特徴

クラリオンは、カーオーディオを中心とする自動車用機器、ホーム用音響機器、住設機器などの分野において、豊かな実績を築き上げてまいりました。その優れた、エレクトロニクス技術に対する、高い評価と、厚い信頼を支えとして、新たなる意欲のもとに、「豊かな生活」のための、各種機種の製品開発に取り組んできたクラリオン。この積極的な姿勢と、より拡充された販売、サービス網を背景に、飛躍を遂げるクラリオンは、生活に溶け込み、生活空間を、より快適なものにする、独創的な製品群で、幅広い年代に御支援をいただいております。

沿革

- 昭和43年6月 (有)長崎クラリオン設立
- 昭和52年2月 長崎市田中町卸団地に移転
- 昭和55年6月 株式に組織変更
- 昭和56年12月 島原(営)開設





株式会社 松本屋

〒851-01 長崎市田中町575
電話(0958)37-8055

- 1. 我々が一生を託しても悔いのない会社にする
- 1. お得意様に良い商品を廉価で提供できる会社にする
- 1. 社会全般から絶対に信頼出来る会社にする

代表者 代表取締役社長 松本 秋雄

創 立 創業昭和21年2月 設立昭和25年12月

資 本 金 3,000万円

従業員数 45名

営業品目 総合食料品・海産物・飼料・アイスクリーム
冷凍食品・チルド食品

会社の基本方針

我が社は食品を通じて社会に対して奉仕の精神で営業する。商品管理には常々留意し、製造メーカーの意を尊重し、最良の状態で消費者に提供する。

社内的には社員全員が和を持って横の結びを強固にして全社員がセールスになって営業成績の向上に努力する。企業は常に前進せねばならない。企業を嗣子孫々迄残す責任がある。

我が社は自他祝福を経営の理念とし、お得意先の繁栄を先ず第一とし、共に我が社も繁栄し、全社員及び家族の幸をはかる。



代表取締役会長
松本 福富



代表取締役社長
松本 秋雄

企業の特徴

食料品についてはドライ、冷凍、チルド、各食品約5,000種の品揃をし、商品管理、配送機能を完備し食品卸問屋としての使命を果たしている。社長以下全社員が団結している。

沿革

- 昭和21年2月 築町28番地に現会長創業
- 昭和25年12月 有限会社松本屋として法人組織に切替
- 昭和32年10月 西彼杵郡大瀬戸町に支店開設
- 昭和36年5月 長崎市元船町食品ビル内営業所開設
- 昭和38年10月 株式会社松本屋に組織変更する。
- 昭和40年1月 西彼杵郡三重村に食品工場を建設し豆腐、蒟蒻、筍等の製造を開始する。
- 昭和43年10月 業務の拡張に依り本社を築町より元船町食品ビルへ移転し営業所を本社に吸収する。
- 昭和52年3月 売上の増加に依り本社を田中町575卸センターに移転する。
- 昭和57年10月 食品工場を分離、三京フーズ株式会社を設立する。資本金500万円、社員18名。



中 FOOD 長崎県中央米穀株式会社 長崎営業所

〒851-01 長崎市田中町575
電話(0958)37-8235~8
本社 〒854 諫早市長野町1648
電話(09572) 2-4340

国民の主食をささえる社会的 使命と信用第一を期す



代表取締役社長
栗林英雄



所長
吉田一雄

代表者 代表取締役社長 栗林英雄

創立 昭和31年11月30日

資本金 2,000万円

従業員数 長崎営業所24名 (全社63名)

事業所 諫早(本社)長崎, 大村, 小浜, 口之津

営業品目

米穀全般。小麦粉。砂糖。押麦。雑穀。飲料水。麵類。食油。菓子材料。

企業の特徴

国民の主食である「米」を販売の基幹とし、他に砂糖、製粉、食油、雑穀、一般食品を取扱っております。米の販売は、政府指導の食糧管理法の下で消費者に満足していただけるものを、安定供給する責任を負っており、社会的にも信用第一の精神で豊かな食生活の向上に努める。

沿革

昭和31年11月30日 長崎県中央食糧(株)より業務継承に依り設立(諫早市永昌東町16)

昭和32年7月25日 諫早大水害被災

昭和33年12月30日 初代社長, 林保 死去 副社長, 栗林春男, 社長就任

昭和44年3月 資本金2,000万円に増資

昭和44年8月 精米機増設。本機60馬力となる。

昭和46年12月 社長, 栗林春男死去, 栗林英雄, 社長就任

昭和51年11月 大村営業所新築。

昭和52年4月 長崎営業所, 卸団地に新築移転。

昭和54年4月 本社新築移転(諫早市長野町1648) 精米機新設, 本機100馬力とし更に胚芽精米機, 色彩選別機等 増設, 現在に至る。



平薬品産業株式会社

〒851-01 長崎市田中町568-9
電話(0958)37-8061

一步前進

代表者 代表取締役 平 昇

設立 昭和40年12月27日 創業 昭和41年1月23日

資本金 1,000万円

従業員数 11名

営業品目

試験薬品 公害分析用特殊試薬 有機合成用試薬
分析化学用試薬 生化学用試薬 臨床試薬 輸入試薬
化学薬品 工業薬品 食品添加物 防疫薬品 農薬
計量器 硝子加工器 理化学機械 プラスチック製品
衛生材料 炉過機械

会社の基本方針

試行錯誤の許されない事業の自覚と実践
特に保健医療体制に迅速な対応と奉仕
公害分析機関。下水処理機関。等に応える対応

企業の特徴

特に人の命を預かる機関との取引が主体であるので、
社員一人一人の試行錯誤の許されないという自覚と実践



代表取締役社長
平 昇



常務取締役
永田 又一

を重んずる。

又、公害分析機関や、あらゆる研究機関に対して正確なデータの確立のため、品質重視と時間的解決に対して迅速な対応を社員一丸となって奉仕する。

沿革

- 昭和41年1月 現社長創業 資本金100万円
- 〃 〃 47年7月 長崎市岩川町5番19号へ移転。
資本金300万円とする。
- 〃 〃 48年6月 医療用器械、理化学用機械器具、公害分析機器等の販売を開始する。
- 〃 〃 52年3月 資本金1,000万円にする。
- 〃 〃 52年5月 本社を長崎卸センターに新設移転旧社屋は大学前営業所とする。
大学前営業所にて医療品小売部を開設。
- 〃 〃 54年4月 バイレックス製品及びコーニング製品の取扱いを開始する。



有限会社 古瀬ガラス店

〒851-01 長崎市田中町2176
電話 (0958) 37-8065

和合，礼節，進取

代表者 代表取締役社長 古瀬 守 男
設立 昭和46年7月1日 創業 昭和34年10月
資本金 1,000万円
従業員数 27名
営業品目 板硝子，鏡，卸工事
ビルサッシ，製作加工，販売，工事
住宅サッシ，販売

会社の基本方針

お互に人間として社会の恩恵に浴している。
相手に必要な物を提供し喜ばれ，職業を通じて社会に
奉仕し適正な利益を得る。

信頼される社会人，社員になれ。

その為には誠実であること。

信用を売って信用を得ることになる。

工事部門 ガラス工事及びビルサッシ工事

得意先 清水建設，三菱建設，小牧建設
大創建設，山口総合建設
川渕建設，栄喜建設，中島建設
高島建設，幸産業 他約10社
住宅サッシ 工務店関係約10社

卸部門はセントラル硝子株式会社の特約店として長
崎周辺地区，島原南高，諫早北高，大村東彼，等
販売得意先約80店。

工事部門は最近では

清水建設施工日本生命ビルの硝子工事



代表取締役社長
古瀬 守 男

小牧建設，施工諫早グリーンホテルの硝子工事
中島建設，施工南串山農協ビルの硝子工事
西田工務店施工小江原中学校の硝子及びサッシ工
事等を施工

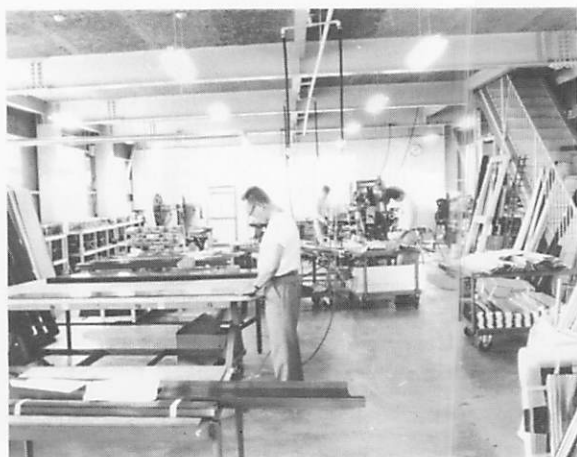
沿革

昭和34年10月 現社長 長崎市幸町にて創業
" 46年7月 " 有限会社古瀬ガラス店設立
" 52" 3 " 卸団地にガラスセンター建設
" 57" 3 " 卸団地にサッシセンター建設
" 57" 3 " 全面的に卸団地に移転し，幸町は連絡
事務所とする。

| | | | |
|-----|-----|-------------------------------------|-----|
| 仕入先 | 板硝子 | セントラル硝子株式会社 | 特約店 |
| | 鏡 | (株)福岡鏡センター | |
| | サッシ | Y K K 吉田工業株式会社 | 代理店 |
| | その他 | 文化シャッター株式会社 三和シャッター株式会社 他約10社 | |

販売

板硝子 卸売
長崎市内及び周辺地区
島原市内及び南高地区
諫早市内及び北高地区
大村市内及び東彼地区
その他
得意先約80店





産洋自動車販売株式会社

長崎支店

〒851-01 長崎市田中町599

電話(0958)37-8255

本社 〒857-11 佐世保市日宇町2815-1

電話(0956)31-5678

今日も地域社会の発展と安全を願う

代表者 代表取締役社長 車田 健一

創 立 昭和39年7月1日

資 本 金 2,000万円

従業員数 40名

営業品目 自動車リース。BMW長崎県総代理店。民間車検工場。各種自動車販売。

会社の基本方針

車を通じて地域社会の発展と安全を願い信用を第一としユーザーの繁栄を自らの喜びとしユーザーと共に適正利潤の追求をはかり車社会に貢献し社員と共に豊かな生活の向上を計る。

会社の特色

創立20年間に亘り豊かな車社会作りに努力を続けています。特に長崎支店は卸センター組合員の便利さとメリットを第一に設備した民間車検工場です。又各種自動車リース。軽自動車から各メーカー全車種の販売も行っています。車のことなら何日でも全て御相談をお受け致します。

10年紙編集に思う。長崎卸センター10周年に当り、これまで集団化事業に幾多の難問を解決し初期の目的を達せ



代表取締役社長
車田 健一



長崎支店長(取締役)
石丸 巖

られた事に心から敬意を表したい。この間予期せぬ出来事もあったが結果的には組織作りと集団化と云う大きな目的は達成出来たのである。扨てこれから長崎卸センター20周年に向け船出するのであるがこの内外経済情勢のきびしい中、又激変する80年であるが私共組合員一同はどのような組合に育て上げ、いかに組織の力に依りメリットを追求して行くかを、大きな第二の目標として上げねばならないと思う。先ず組合組織とはいったい何なのか、どのようにあるべきか、近代化による集団化事業は組織員にとってどんなメリットがあるのか、1人では出せない組織力の結集こそ長崎卸センターが大きく前進する道だと思ふ。こゝでお互に新たな進むべき道を定め一時的な利害にとらわれず大局を見つめ、これからの集団化共同事業を進めてきたいものである。又先進地を視察して色々な共同事業を見聞し我々も沢山の共同事業が自分達の手で着手出来る事を学んできたのである。しかし全てが我々のセンターに導入出来るとは思えない地域性、立地条件等色々な問題はあつたが、共同事業の基本性は同じだと思ふ先ず出来るものから手をつけこれを確実に共同事業意識を忘れることなく実行して行く事が大切であると思ふそして20周年に向つて長崎卸センターと各員の社業発展のため決意を新たに努力をおしまないものである。



寿扇苑 丸寿株式会社 長崎店

〒851-01 長崎市田中町1219

電話(0958)37-8260

本社 〒602 京都市上京区黒門通

元誓願寺下ル毘沙門町758

電話(075)451-1182



代表取締役
柳 寿三郎

代表者 代表取締役 柳 寿三郎

創立年 昭和51年4月1日(創業 昭和30年4月)

資本金 2,500万円

従業員数 15名

営業品目

袋帯, 呉服, 合織, 裏地 他

企業の特徴

当社は本店を京都に置き、呉服総合卸を業務としております。

仕入は本店にて行い、販売は、福岡、長崎、佐世保の各支店を通じて、北部九州を主地盤として営業をしてお

ります。

代表者は大阪船場を振り出しに斯業38年の経験を生かし、消費者に銘柄呉服の普及販売に努力しております。

沿革

昭和30年 佐世保にて創業

昭和31年 本店京都に移転

昭和41年 福岡支店設置

昭和51年 法人改組

昭和52年11月 長崎卸センター内に長崎支店設置

昭和53年3月 本店を住所変更(現在地)

昭和57年10月 佐世保支店設置





株式会社 永池 長崎営業所

〒851-01 長崎市田中町1235-2 電話(0958)37-8123(代表)

本社 〒840-01 佐賀市日の出1-16-30

電話(0952)31-1151

共存共栄と真心を以ての奉仕

代表者 代表取締役 永池公一

創立 明治7年4月

資本金 7,000万円

従業員数 長崎営業所 16名(全社82名)

営業品目

和洋紙・文具・紙製品・事務機・スチール家具・園芸
資材 総合卸商

会社の基本方針

堅実経営をモットーとして、さらに「伝統は革新の連続」の気概を以て、より良い商品の開発と流通に努め地域文化の発展に貢献する。

会社の沿革

明治7年4月 曾祖父永池幸兵衛 和紙・襖紙・文具
の卸小売開業

大正15年12月 祖父(初代)永池義一郎事業継承

昭和6年8月 父(二代目)永池義一郎事業継承



代表取締役社長
永池公一



本社営業部次長
長崎営業所所長
谷口 勲

昭和11年5月 合資会社永池本店設立事業継承

昭和41年4月 永池公一代表社員に就任

昭和43年10月 株式会社佐賀コクヨを設立しコクヨ製
品の佐賀県総括店の権利を譲渡

昭和49年3月 株式会社永池を設立し合資会社永池本
店より営業並び権利、義務一切を継承

昭和49年11月 長崎市千歳町3の1に長崎出張所を開
設。

昭和54年3月 長崎出張所を長崎営業所に名称変更。

昭和54年3月 長崎営業所を長崎市千歳町3の1より
長崎市田中町1235番2 長崎卸センター
内に新築移転

関連企業

株式会社 佐賀コクヨ

合資会社 永池本店



誠実

「誠実」は当社のモットーであり、全社員が常に行動の規範とするよう心掛けております。

代表者 取締役社長 金澤 一郎

創 立 昭和11年1月15日

資本金 27億2,400万円

従業員数 3,500人

営業品目

テレビ、ビデオ製品、音響、家電機器、事務機器、
 教育機器、医療機器、情報機器、通信機、電子部品

基本方針と企業の特徴

ゼネラルは昭和11年の創業以来、間もなく50年を迎えようとしております。その間、私たちは、一貫して、時代の流れの先を読み、社会の多方面にわたるニーズを的確にとらえた製品創りを通して、日本国内はもとより、世界各国の電化による生活向上に大きく寄与することができたと自負しております。そして今やゼネラルは国内外合わせて20社に及ぶ企業集団を形成するゼネラルグループの中核企業として総合電機メーカーに成長。進展いちじるしいエレクトロニクス業界の中にあつて、国際企業の一員として、内外の多様なニーズに応え、新しい分野に積極的取り組んでおります。ゼネラルの創る製品はすべて当社の理念である「誠実」の精神に裏打ちされていきます。つまり、使う側の立場に立って、創意と工夫を凝



代表取締役社長
金澤 一郎



所長
草野 淳介

らし、技術を集約して新しい効用と価値を持つ製品創りを行う。これが私たちの基本姿勢です。技術開発のテンポが加速度的に早まっている今日、ゼネラルは家庭用電気製品から産業用のエレクトロニクス機器まで、明日の私たちの生活を豊かにし、社会の発展に寄与する製品創りに邁進しております。

沿革

- 昭和11年 (株)八欧商店設立
- 17年 八欧電機(株)と改称 ラジオ・拡声装置・電気蓄音機等の製造
- 23年 八欧無線(株)と改称 無線通信機・電気計測器分野に進出
- 27年 東京大森工場建設 白黒テレビの製造
- 30年 川崎工場建設
- 35年 カラーテレビの製造開始
- 41年 株式会社ゼネラルと改称
- 45年 テレビ用ハイブリッドICの開発
- 51年 新聞編集業務CTS化に参入漢字情報処理システム開発





株式会社 丸菱

長崎営業所

〒851-01 長崎市田中町 596-2 電話(0958)37-8585
本社 〒860 熊本市新町 4丁目 1番 1号 電話(0963)56-1101

智・仁・勇

代表者 代表取締役社長 本田 宗弘

創 立 昭和27年 6月20日

資 本 金 2,700万円

従業員数 170名

営業品目

- 製菓製パン用設備機械器具
- 製菓製パン原材料及びパッケージ
- 外食業務用原材料
- 厨房設備, 設計施工, 器具全般
- 食品加工原材料全般

販売先

製菓, 製パン, 冷菓, 飲料水, 農水産加工, ホテル,
レストラン, 喫茶等食品産業全業界

経営理念

企業とは, 社会貢献度と収益度が正比例し, 一社業
発展という図式によってのみその存在価値が認められ
るものである。

この理念に立脚し、誠実と熱意、開発と行動を柱と



代表取締役社長
本田 宗弘



所 長
高 島 邦 彦

して、食生活に文化性を追求するという新しい認識を
もって業界に積極的に機能する。

会社の特色

顧客の繁栄に役立たせていただくことを最大の目的
とする。そのために

1. 常に時代先取りの精神で取組む。
2. ハイグレードの商品の提供に全力を上げる。
3. アフターサービスの万全を期する。

沿革

- 昭和27年 6月 有限会社丸菱商会設立
- 〃 33年12月 株式会社丸菱商会に改組
- 〃 36年 6月 福岡営業所開設
(以後、昭和48年4月までの間に宮崎、
鹿児島、長崎、大分、北九州の順で営
業所を開設し、全九州の経営規模に拡
張)
- 〃 47年 6月 株式会社丸菱と社名変更
- 〃 48年 4月 物流の合理化を図るため本社所在地の
熊本市に商品管理センターを設置。





株式会社京屋 長崎店

〒851-01 長崎市田中町586-5 電話(0958)37-8107(代)
本社 〒810 福岡市中央区薬院1丁目8-20
電話(092)761-7405

京屋は顧客と共に存在し、 社員とともに繁栄する

代表者 代表取締役社長 堀 程雄

創業 昭和3年3月1日

資本金 4,800万円

従業員数 435名

営業品目 商業施設の総合企画、店舗設計・施工、ショー
ーイング ディスプレイ、和装・洋装マネキンの製作・
販売・リース、ディスプレイ器具の製作・販売・リース、
美術造型物の企画・製作

会社の基本方針

「ショッピングの楽しさを創る」企業として、お客様の良きアシスタントとなるよう努力研鑽すると共に、「ソフトウェアを売る個性的な会社づくり」に総力を挙げ、国際的な店舗総合ディスプレイメーカーを目指して、情熱を燃やしている。

企業の特徴

株式会社京屋は昭和3年創業以来、マネキン人形の製作・販売主体に徹してきたが、ファッションの変化や得意先の要望と併行して、ディスプレイ器具の製作・販売リースから、店舗設計・施工、ショーイングディスプレイ、特殊美術造型物へと、営業品目を拡大してきた。

昭和35年に強化プラスチック製マネキンを、業界に先がけて開発し、丈夫で、リアルな表現が可能となり、活用範囲も多様化してきた。

百貨店、量販店、専門店の全国的店舗展開とも相まって、営業活動を積極的に進めてきた。

現在主要都市に29支店と11チェーン店を有し、全国規



代表取締役社長
堀 程雄



店 長
好永 浩明

模の販売活動とアフターサービス網を確立している。一方「ユーロショップ'81」という、西ドイツで開催された店舗機器国際見本市では、国内の同業社では初めて出展を認められ、リアルなマネキン人形が国際的にも高く評価された。現在欧米など9カ国に海外エージェントを設置して、販売活動や世界の情報収集の拠点となっている。お得意様の引立により、昭和58年は創業55周年の大きな節目を迎えたが、この記念すべき年に、当社代表取締役会長堀正夫は、地域の産業開発、経済発展に寄与した経営者として、九州・山口経済貢献者顕彰財団（瓦林潔理事長）より「第10回経営者賞」受賞の荣誉に輝いた。

沿革

- 昭和3年 京屋人形店として北九州市に創業
- 昭和5年 京屋人形店本社を大阪に設置
全国11都市に支店設立
- 昭和26年 本社を福岡市薬院に移転
- 昭和29年 有限会社京屋人形店に改組
- 昭和34年 株式会社京屋人形店に改組
- 昭和35年 大宮工場、福岡工場開設
- 昭和37年 株式会社京屋に社名変更
- 昭和47年 京屋本社ビル完成
- 昭和57年 東京・福岡2本社制となる
同年9月東京本社ビル完成
- 昭和58年 久留米店開設により全国29店舗となる





三菱鉛筆九州販売(株) 長崎営業所

〒851-01 長崎市田中町594-2 電話(0958)37-8017

本社 〒812 福岡市博多区博多駅前4丁目19-21

電話(092)431-2835

最高の品質こそ、 最大のサービス

代表者 営業所所長 榎山 繁行

創 立 昭和33年4月1日

資 本 金 2,000万円

従業員数 7名(九州販社80名)

営業品目

三菱鉛筆株式会社の総合筆記具の販売会社

学童文具 鉛筆・ボールペン・シャープ・サインペン

事務用品 セロテープ・テーブライター・消ゴム等

化成事業品 ガスライター・パンク修理剤

会社の基本方針・特色

社是の最高の品質こそ、最大のサービスをモットーにして品質本位の三菱鉛筆で取引先の信頼を深めて参っております。本社の三菱鉛筆(株)は、我が国最初の鉛筆の製造、販売を始めてから本年は創業97年を迎え、世界に技術の先端を示している東京証券上場の企業であります。



代表取締役社長
西田 稔



所 長
榎山 繁行

九州販売は、本社の直轄販売会社でありまして全国の販売ネットワークの一部であります。長崎営業所は長崎県下一円、有力文具店、卸問屋、デパート、スーパーへ、三菱鉛筆(株)製品の総合筆記具を販売しております。

すぐれた商品企画、販売、宣伝企画では、他社を引き離し筆記具のトップを歩んでおります。

三菱鉛筆(株)本社と販売会社が一体となって伝統を自覚し行動に誠意と責任をつくす様に努力しております。

沿 革

本社創業 明治20年

昭和33年4月 九州地区販売会社設立

昭和33年4月 三菱鉛筆九州販売(株)設立

福岡営業所、北九州営業所、佐賀営業所、熊本営業所、
鹿児島営業所、宮崎営業所、大分営業所、長崎営業所





株式会社栄城カーセンター 長崎営業所

〒851-01 長崎市田中町586-10

電話(0958)37-8271

本社 〒840-01 佐賀市兵庫町若宮435

電話(0952)26-1351

三意(熱意・誠意・創意)

代表者 取締役社長 秀島哲郎

役職名 取締役長崎支店長 宮原民生

創立 昭和43年2月3日

資本金 800万円

従業員数 20名(長崎支店7名)

営業品目

自動車部品用品卸

アポロサービス代理店

ライジングサン(シェル)指定店

佐賀県、長崎県経済連指定店

パイオニア代理店

バンザイ(機械工具)代理店

その他

会社の基本方針

三意(熱意、誠意、創意)の社是のもと誠心、誠意お



取締役社長
秀島哲郎



取締役長崎支店長
宮原民生

得意先の繁栄に奉仕し、その余慶によって会社の発展を図る。

会社の特色

当社は佐賀長崎両県に於いて若いスタッフが一体となり自動車部品、用品卸販売を通じ地域社会に貢献し、共に発展する企業をめざす。

沿革

昭和43年2月会社設立

昭和46年佐世保営業所開設

昭和49年長崎営業所開設

昭和54年佐世保長崎統合、長崎支店設立



松尾文化瓦工業所

〒851-01 長崎市田中町571-1
電話(0958)37-8200(代表)



代表取締役
松尾 保



専務取締役
吉田 博

人生汗に感ず。
忍耐とは希望を持つ技術である。
仕事は正確且つ丁寧に。

代表者 代表取締役 松尾 保

創 立 昭和49年1月設立 創業 昭和15年

資 本 金 1,200万円

従業員数 18名

営業品目 高圧厚形スレート瓦和型S型赤外線焼付瓦
粘土瓦。陶器瓦各種。クボタ洋瓦。クボタコロニアル。
モニエル瓦。シングル

会社の基本方針

屋根は建物の中でも一番厳しい自然条件にさらされています。特に雨の多い高温多湿の日本の気候は冬と夏の寒暖の差が激しいので屋根瓦の役目は大切なものです。特に優秀な日本工業規格製品のすぐれた耐久力をもった屋根材で一般社会へ貢献しようとするものである。

企業の特徴

創業以来45年にわたり人々の生活をより豊かに、より美しくするため、屋根葺上施工は労働大臣より認定された技能士又は、特殊瓦における各技能士資格を全社員が保持し、仕事は正確且つ丁寧にを、モットーとして大きな貢献を果してきている。

沿革

昭和15年10月創業

昭和34年2月工場移転

昭和49年1月株式会社松尾文化瓦工業所設立

昭和54年12月田中町卸センター本店移転





日本乾溜工業株式会社

長崎支店

〒851-01 長崎市田中町594-1

電話(0958)37-8555(代表)

本社 〒806 北九州市八幡西区築地町10-20

電話(093)621-0238

誠心誠意・奮励努力・協力一致

用意周到・熟慮断行

代表者 代表取締役社長 金井 忠廣

設立 昭和14年7月1日

資本金 1億円

従業員数 長崎支店(佐賀保・諫早
高田出張所を含む) 全社250名

営業品目

産業安全衛生保護具・道路交通安全施設資材・土木資材等の販売並びに工事等

会社の基本方針

全てに誠意を盡して信用を得ることに徹し、安全を通じて社会に貢献する。

企業の特徴

製法特許のゴム強化剤「不溶性硫黄」製造の工場部門と、産業安全、道路交通安全、構築物防災へと安全を総合的にとらえ、その関係販売商品の多様性と工事施行力を誇る商事部門を持ち、バイタリティーに富み、発展している会社である。

沿革

昭和14年7月 会社創立。本社を大阪市に置き工場を



代表取締役社長
金井 忠廣



支店長
阪口 三郎

八幡市築地町(現北九州市八幡西区)に建設。電極用ピッチコークスの製造に着手。

昭和31年9月 商事部(長崎営業所)を創設し、産業安全衛生保護具の販売開始。

昭和34年9月 ゴム強化剤(不溶性硫黄一製法特許)他新製品開発。自社工場にて製造開始

昭和39年9月 道路建設資材販売及び施工部門を併設

昭和41年9月 長崎, 八幡, 福岡, 大阪, 熊本, 鹿児島各営業所を支店に昇格。宮崎支店開設

昭和41年11月 本社を大阪より北九州市に移転

昭和42年2月 建設業者として建設大臣許可承認

昭和43年6月 佐賀, 大分, 木更津に支店開設

昭和44年7月 関連会社日本標識工業株式会社創設

昭和55年2月 長崎市田中町長崎卸センター団地内に長崎支店新築移転

昭和56年4月 過去数回の増資を重ねて、資本金を1億円に増資

昭和58年1月 本社, 北九州支店, 新社屋落成移転
現在……北九州, 福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 鹿児島, 宮崎, 大分, 大阪, 木更津各支店, 久留米営業所, 他16の出張所にて営業活動を行なっている。





千代田ニチエー株式会社 長崎出張所

〒851-01 長崎市田中町591-2 電話(0958)37-8273(代)

本社 〒103 東京都中央区八重洲1-5-3

電話(03)271-3341

健康と明日の医療を考える千代田ニチエーは

人々の暮らしに大きく貢献します。

代表者 代表取締役社長 小野 鎮馬

創立 昭和21年7月21日

資本金 6,250万円

従業員数 450名(男子330名, 女子120名)

営業品目 X線フィルム, 放射線機器, 医療用機器

会社の基本方針

「医学者には人体内部を示し, 技術家には工業材料の質を教え, 科学者には原子の内部構造を知らしめる」ミュンヘンにあるドイツ国立博物館におけるレントゲン記念碑には真理を伝える不滅の文字が刻まれています。ウィルヘルム・コンラッド・レントゲンによる放射線の発見(1895)は, 近代医学を可能にした医学史上の発明, 発見の中で最も偉大な業績の一つに数えられます。

今日, X線が私達にレントゲンという名で親しくなっているのは, レントゲンの業績を讃える為の命名ですが, それ以上にどんな健康体の人でも, X線撮影を経験しないことはないほど, 私達の健康管理に大いに貢献してきたからにはほかなりません。

私ども千代田ニチエーは, 私たちの健康に大切な役割を果たしているこの放射線医療機器の研究開発と円滑な流通化に永年ひたむきな努力をかたむけてまいりました。

また, 当社は富士写真フィルム(株)健康情報部門の全国的に最大の規模と実績を持つ特約店でもあります。

私どもは, 私たちにかげがえのない健康のために, 奉



代表取締役社長
小野 鎮馬



所長
樋口 範明

仕でことに少なからぬ誇りと榮譽を感じています。

企業の特徴及び沿革

当社は昭和21年荒廃した日本の医療業界の中で, 放射線による情報診断の重要性を痛感した現社長により将来の要望に応えるべく創立されました。その後日本の経済情勢の目覚ましい復興と放射線医学の進歩と共に, 会社の規模と実績は飛躍的な伸びを見せるに至りました。創業以来36年, 全国に40点の事業所を設けユーザへのサービスに努め, 最近の売上高は300億円になろうとしています。ダイヤモンド社法人所得ランキングでも上位にランクされ, 卸売業では40位の中に含まれました。また国際的視野にたち, 特色ある企業へと広く海外の放射線学会にも積極的に参加したり, 海外研修等を行行情報を収集して商品開発の源としたり, 優秀な商品の輸入販売にも努めています。

関連企業

千代田保安用品株式会社(放射線物質取扱施設の設計, 施工, 保守, 管理)

千代田観光開発株式会社(常陽, 札幌台両カントリークラブゴルフ場)

このほか関連企業数社があり千代田グループとして広く社会に貢献しています。



K 株式会社 長崎コクヨ

〒851-01 長崎市田中町584
電話(0958)37-8241(代表)
ファクシミリ37-8267

誠心誠意 不言実行

代表者 代表取締役社長 中尾 剛
創立 昭和36年2月1日
資本金 2,500万円
従業員数 48名
営業品目 コクヨ製品
情報用品 オフコン、パソコン、ワードプロセッサ、
ファクシミリ、複写機、コンピューターサブライズ、
製図機、製図用品、連続伝票、感光紙、複写紙、
施設用品 間仕切、工事黒板、書架、ラック、店舗什器
特殊家具 病院用家具、学校用家具、図書館用家具、劇
場用イス、議場用家具、金融機関用家具、屋外観覧席
家具 デスク、テーブル、イス、保管庫、耐火製品外、
紙製品 事務用紙製品、学用紙製品、日用紙製品、
文具 卓上用品、金属文具、接着用品、額縁、乾電池外
ファンシー文具、キャラクター商品、
店舗改装、各種レイアウト

会社の基本方針

経営の信条

「人は無一物でこの世に生を享け、父母の恵み、恩師の導き、社会のお陰によって心身ともに成長し、やがて社会に出て一つの仕事を与えられる。それは天より授けられた天職である。天職には貴賤の別なく、人が生ある限り自らの全力を盡して全うせねばならぬ。天職を全うするには人の信を得る事が最も大切である。人に信を得る



代表取締役社長
中尾 剛



専務取締役
田添 秀雄

最善の道は、自ら誠を以て実行する事である。

真心を以て買い、造り、そして売れば、人おのずから信用し、人に信用を受ければ天職はおのずから全うし得る。

誠心誠意不言実行——之が私の経営の信条である。

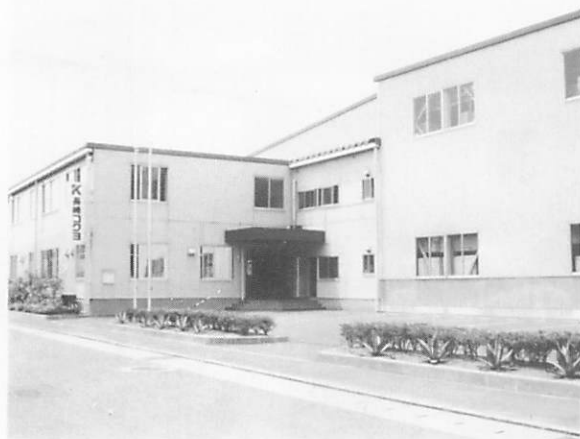
企業の特徴

長崎県下に於て、文具、紙製品、事務機器、スチール家具の総合トップメーカーであるコクヨ(株)の製品を、専門に普及販売する県下でもトップクラスの卸販売会社です。従って弊社より代理店、小売販売店と協力して迅速に適切に県下津々浦々の消費者にお届けしております。

一方ユーザーの声を販売店、弊社を通し企画、製造にフィードバックし開発の一翼を担っています。

沿革

- 昭和35年9月 (株)中尾商店よりコクヨ部門を分離し、コクヨ製品長崎販売所を設立
- 昭和36年2月 (株)長崎コクヨを設立
- 昭和38年3月 初代社長中尾貞治死去、中尾ツル取締役社長に就任
- 昭和45年4月 本社を長崎市弥生町に新築移転
- 昭和49年1月 中尾剛取締役社長、中尾ツル取締役会長に就任
- 昭和51年12月 佐世保駐在所設置
- 昭和55年5月 本社を現在地に新築移転
- 昭和57年6月 会長中尾ツル死去





株式会社 協栄商会

〒851-01 長崎市田中町586-1
電話(0958)37-8275

行動、実践、努力、誠意
親切、調和、健康

代表者 代表取締役 坂本 幸雄

設立 昭和48年3月1日

資本金 払込資本金900万円

従業員数 5名

営業品目 鋳物用副資材販売 化粧品販売

会社の基本方針

1. 常に商品の知識を探究し御得意先の品質向上と生産増に協力する。
2. 新商品の研究と情報を取得し生産者に流す。
3. 常に経費の節減を計り安価な商品を提供する。
4. 常に相手の身になって物事を処理し愛情を以て接する。
5. 常に明るくお、らかな生き方の中に自己の確立と安らかな豊かな人生を作りたい。

企業の特徴

長崎県内の鋳物業界に微力を捧げたいとの気持から会社を設立し永い間の鋳物材料の取扱の知識と経験を生か



代表取締役社長
坂本 幸雄

し工場の要望に応じた即納態勢をとり誠心誠意をモットーに信用と愛される商社にしたいと努力して居ります。化粧品の販売は始めて未だ浅く多数のメーカーが乱立して居りますが純植物性自然化粧品と云ふ現在の世相にマッチした特性を生かし女性が美しくなるお手伝いを誠意と親切とを柱に活動して行きたいと念じています。

沿革

昭和48年3月 現社長設立

資本金 2,500,000円

昭和54年10月現在地社屋建設移転

昭和54年11月増資

資本金 5,000,000円

昭和56年10月増資

資本金 9,000,000円現在に至る。





九州産交運輸(株)長崎営業所

〒851-01 長崎市田中町574-2 電話(0958)37-8525
本社 〒860 熊本市辛島町4-20 電話(0963)25-5211



代表取締役社長
佐々木睦夫



所長
篠田正春

「和と協調」

- 代表者** 代表取締役社長 佐々木睦夫
創立年 昭和53年9月18日(九州産交より分離)
資本金 2億円
従業員数 2,005名(昭和58年3月31日現在)
営業品目
1. 貨物自動車運送事業
 2. 通運事業
 3. 倉庫業
 4. 自動車運送取扱事業
 5. 軽車両等運送事業
 6. 利用航空貨物運送事業
 7. 損害保険代理店業
 8. 土地建物の売買ならびに賃貸借
 9. 通関代弁業
 10. 旅行業
 11. 生命保険の募集に関する業務

企業の信条

- 事業を通じて社会に奉仕する。
- 人の和をもって事業を興す。
- 顧客の利便を図る。
- 従業員の生活安定向上を図る。
- 適正利潤を確保する。

営業の特色

日本全国を、自社路線と業務連絡運輸でネットし、本社が熊本市ながら、九州全域に絶対の強味を誇る総合物流企業。顧客第一主義に徹し、顧客のあらゆるニーズに対応すべく、きめ細かな輸送サービス体制をとっている。

特に小口雑貨の集配時間が指定できる「産交こだま便」や全国ネットのギフト宅配便、ふるさとと都市圏を結ぶ「ふるさと宅配便」、薬品低温輸送などは荷主から好評を得ている。また一方、百貨店、量販店、専門店向け輸送については、流通加工全般と代行納品を行う一切の物流業務を行えるよう体制を整えている。さらに全店オンラインシステムによる荷物追跡および輸送情報サービス、全集配車に無線完備などの体制をととのえ、あらゆる需要に対応した輸送供給体制をとっている。

社章について

産交30年のどっしりとした基盤の上に、強固な団結と天体の回転のように、とどまるところを知らぬ永遠の発展を象徴。社名の頭文字の「九」をアラビア数字で図案化し、総体の感じを車輪に見たてて交通事業を表現し、また動的な傾斜をつけて回転を思わせたのは交通事業を通じて生産的な産業の発展に貢献しようとする会社の意図を表わしたものである。



NEC 九州NEC 商品販売株式会社

〒851-01 長崎市田中町586-7 長崎営業所
電話(0958)37-8521

本社 〒814 福岡市早良区原4-23-10
電話(092)851-0001

躍進と繁栄

代表者 代表取締役 碓氷可貴司

創立 昭和36年11月30日

資本金 1,000万円

従業員数 110名

営業品目

NEC家電製品、通信機及びパソコン

会社の基本方針

NEC日本電気ホームエレクトロニクスの直系販売会社として、九州地区を担当しております。

家庭情報化時代に即応し、「C&C（コンピュータとコミュニケーション）ホームエレクトロニクス」戦略を積極的に展開しています。そして、当社は明日のクリエイティブ・ライフの向上をめざしております。

企業の特徴

創業以来20年、九州の地に着々と確固たる基盤を築いて参りました。



代表取締役社長
碓氷可貴司



所長
岡田俊秀

当社は少数精鋭主義をモットーに若い人たちにも権限と責任とを与え「躍進と繁栄」の旗じるしのもとに活躍を続けております。

沿革

- 昭和36年11月 熊本市に於いて設立
- 昭和47年6月 本社を福岡市に移転
- 昭和48年10月 クレジット会社を統合
- 昭和48年12月 本社社屋を現住所に移転現在に至る。

営業所 北九州営業所

久留米 "

佐賀 "

長崎 "

大分 "

熊本 "

天草出張所

を置く。



丸宮株式会社

〒851-01 長崎市田中町581-1
電話(0958)37-8000



代表取締役社長
成宮 健一

商いは未を楽しむ

代表者 代表取締役社長 成宮健一
創立 昭和44年3月(創業明治2年)
資本金 9,000万円
従業員数 65名
営業品目 歯磨, 洗剤, 日用雑貨, 線香, ローソク, ティッシュペーパー, 駆虫剤, 芳香剤

会社の基本方針

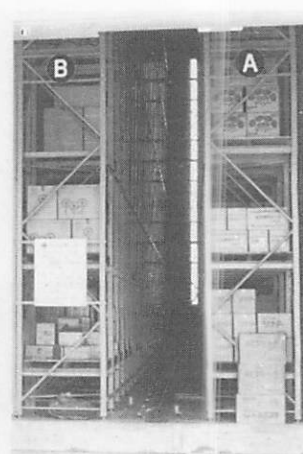
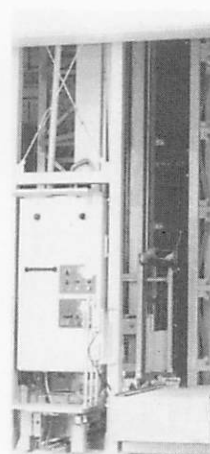
百年余の伝統と信用に基づき, 正直な商いにより地域社会に役立つ仕事をする。

企業の特徴

1. 百余年の伝統による信用
2. 永年の地域社会への継り 別家制度(のれん分け)
3. 中央商社との姻戚関係による繋り
4. 新しい物を早く取り入れ, 紹介, 利用
戦前 ガス燈 自転車 早朝野球 西洋化粧品 電話
戦後 ラック, パレット方式 大型倉庫の採用 電算機
5. 早い設備投資の利用, 資産の活用
6. 伝統ある人づくり, オーナーと社員の共同体
7. 仕入先メーカーとの独占的な深い結び付
8. 優良販売店との永い取引
9. 苦あれば楽あり, 商いは未を楽しむ
10. グループ 企業との連繋。

沿革

明治2年 古川町へ成宮支店として開業(初代)薬, 衣料品, 履物, 化粧品, 小間物, 等卸
明治33年 正月早朝こたつの火より火災となり, 築町43番地へ移転, 2代 長治郎
大正末年 薬, 履物を止める。
昭和14年 2代 長治郎死去に依り, 恒造継承。店を銅座町へ移し, 足袋部を独立(福助長崎販売所)
昭和17年 恒造死去に依り, 四代 健一継承。太平洋戦争に依り休業
昭和22年 健一 学卒と同時に歯磨 化粧品 小間物卸より始める。(銅座町)
昭和28年 本下町へ新築移転
昭和37年 出島町へ移転 翌年, 隣家の火で全焼再建築(其の間 袋町で営業)
昭和43年 花王製品長崎販売(株)を分離独立。
昭和44年 百年祭を行い, 丸橋商店と対等合併。丸宮(株)を設立 亦, (株)長崎バルタックを分離独立。
昭和47年 出島町より宿町600へ移転
昭和56年 田中町581-1 長崎卸センターへ移転。その間関連として 1. 佐世保バルタックを長崎へ合併 2. 九州明和(株)へ加盟 3. 福岡明和と共に佐賀明和設立 4. 西九州ヒルコ(株) (株)横屋商店を合併 (株)長崎装粧を設立。





合資会社 中島博材木店

〒851-01 長崎市田中町574-1
電話(0958)37-8500

不断の努力と研究による 業績の向上と社会への貢献

代表者 代表社員 中島 章一郎

創立年 昭和2年2月1日

資本金 9,200万円

従業員数 20名

営業品目 建築土木用木材・新建材・各種フローリング
の販売及び床工事・内装工事。

経営理念

わが社は常に「品質・価格・迅速」について充分なるサービスを行い地域社会に貢献し、会社の繁栄と社員の幸福を一致させることに努力する。

企業の特徴

50余年の実績と経営理念を基礎に長崎県内のみならず、九州一円にわたる確固たる基盤を通じて官公庁・民間工事等各分野のユーザーの需要に常に即応出来る体制にあること。

沿革

1. 昭和2年、前社長中島博により長崎市福富町に中島



代表取締役社長
中島章一郎



常務
吉川正行

材木店を創設。

2. 昭和10年、輸出木材部を開設、中国、朝鮮へ建築材の輸出業務開始。
3. 昭和18年、戦時体制下の木材統制により、企業は長崎県地方木材株式会社に吸収され、社長中島博は同社常務取締役事業部長に就任。
4. 昭和21年、終戦により木材統制解除と共に、長崎市松ヶ枝町に木材販売機構及び製材工場を再建。
5. 昭和25年、中島材木店を合資会社中島博材木店に改組社名変更、本社事務所を長崎市江戸町に移転。
6. 昭和47年、現社長中島章一郎社長に就任。
7. 昭和55年、現在地に新社屋建設移転。
8. 昭和56年、熊本営業所を開設、床工事部門を強化。

関連会社

中島木材工業株式会社
株式会社長崎木材センター
トーヨーハウジング株式会社
中島商事株式会社
長崎納材協同組合





長崎アサヒ販売株式会社

〒851-01 長崎市田中町596-1
電話(0958)37-8411



代表取締役社長
中村 幾郎

まごころを以て社会に奉仕

代表者 代表取締役 中村 幾郎

設立 昭和23年3月18日(創業)大正8年

資本金 2,000万円

従業員数 21名

営業品目 ゴム履物類と衣料雑貨卸売
アサヒ靴。AP革靴。安全靴。ケミカルシューズ。サンダルスリッパ類。学生衣料。作業服。軍手軍足。雨合羽。雨傘類。その他。

会社の基本方針

信用を第一義として、アサヒ靴を通じて愛と汗とまごころを以て地域社会に奉仕し、お取引先の繁栄と満足を与えるよう日夜努力精進する。

企業の特徴

我が社は個人創業以来六十四年に亘り途中戦時統制により一時中断したものの、昭和23年再び営業を開始、日本ゴム株式会社長崎総代理店として長崎県南に於ける消費者に、強くてはきよいアサヒ靴を供給し続け地域社会

に貢献している。

沿革

大正8年、個人商店旭屋商店を開業日本足袋庵の長崎代理店となり営業を始む。

昭和11年初代店主中村市造死去に伴い二代目中村正業務を引継ぐ。

昭和14年戦時統制により個人営業を中止、長崎県ゴム履物統制組合に統合される。

昭和23年3月17日ゴム履物統制解除目前に迫りたる為長崎県アサヒ販売株式会社を設立。長崎市築町43番地にて営業開始す。此の時は切符統制中であつた為長崎県一本の会社にしておいた。

昭和25年9月1日を以て長崎地区と佐世保及び諫早地区を分離会社名を長崎アサヒ販売株式会社として当社が長崎県南を担当した。

昭和50年6月築町より魚の町3-24へ店舗を移転す。

昭和57年2月10日魚の町より田中町596-1に店舗を移し今日に至る。

昭和58年7月5日資本金を2,000万円に増資す。





フクニチ太洋出版販売有限公司

〒851-01 長崎市田中町 591-5
電話(0958)37-8416

すべての業務を積極的にかつ責任
を持って先手先手と実施する。

代表者 代表取締役 江下直光

設立 昭和41年9月1日

資本金 1,500万円

従業員数 36名他パート社員12名

営業品目

一般雑誌・週刊誌・一般書籍・学参・各種百科事典、
全集物など、市販出版物の全商品、各種写真フィルム、
カセットテープ、ビデオテープ、各種乾電池、現像・
焼付などのD・P・E取扱業務

当社の基本方針

当社ではマスコミ・教育・地域文化の向上に関連する



代表取締役社長
江下直光



常務取締役
森崎和哉

商品の卸商社で、販路を長崎市を中心に諫早・大村・島
原・西彼・南高など県南地区に延べ1,000余点の卸先販売
店を保有し、この他フクニチスポーツ・九州スポーツの
各スポーツ紙も委託業務を実施している。

この他、福岡営業所、沖縄支店も設置、広く地域文化
の向上発展に貢献している。

沿革

1. 昭和36年9月1日個人開業
1. 昭和41年9月1日法人設立
1. 昭和57年1月本社を現住所に移転。





村上ホンダ販売株式会社

〒851-01 長崎市田中町581-3

電話(0958)37-8421(代表)

本社 〒850 長崎市八幡町3-19

電話(0958)26-3171

二輪車の販売を通じて、
地域経済の発展に寄与する。

代表者 代表取締役社長 村上幸三

設立 昭和39年5月8日 創業 昭和2年2月

資本金 3,200万円

従業員数 25名

営業品目

本田技研工業(株)長崎県総代理店

オートバイ、発電機、部品、用品、ライダーファッション

宮田工業(株)長崎県総代理店

ミヤタの自転車…各種

会社の基本方針

小売販売店を通じて、ユーザーニーズにいち早く応え、必要な商品を必要な時に必要な量を供給するディストリビューターとして、又社会情勢を先取りして、常にハード、ソフトの両面にわたり、社会に提案する商品及び企画の創造と開発に努め、社会が必要とし調和のとれた会社を目標とする。



代表取締役社長
村上幸三

企業の特徴

創業以来55年にわたり、国民生活に密着した輸送手段である自転車、オートバイの販売を通じて、地域社会に貢献してきた。

近年、需要の拡大にともない、商品の流通業務のみならず、安全運転及びモーターレクリエーションの普及活動、きめこまかなサービス並びにバイクファッションの開発、供給面も充実した、総合二輪ディーラーをめざす。

沿革

昭和2年2月 会長創業

昭和16年4月 長崎県自転車卸商業協同組合設立

昭和26年1月 合資会社 村上商会設立

昭和39年5月 村上ホンダ販売(株)設立

昭和57年3月 卸センター開設





有限会社 コブチ(エビス教材)

〒851-01 長崎市田中町583-4
電話(0958)37-8407(代表)



代表取締役社長
小淵 孝

熱意、誠意、創意をもって教育の 発展に貢献する

代表者 代表取締役社長 小淵 孝

創立 昭和50年11月11日

資本金 1,000万円

従業員数 13人

営業品目

教材、教具、視聴覚機器、事務機、文具、学校教材卸商

会社の基本方針

〔教育の発展と社会に奉仕する〕ことを目的に、よりよい商品を教育現場に供給し、より豊かな、より大きく成長する児童・生徒の喜びを知り、教育と社会の発展に貢献する。

会社の沿革

昭和50年11月 株式会社エビス堂、教材部を独立す。

昭和50年11月11日 有限会社コブチ〔エビス教材〕設立。
昭和57年2月 長崎市目覚町14-13より、長崎市田中町583番地4長崎卸センター内に新築移転

エビスグループ

| | |
|------------------|-----|
| 株式会社 エビス堂 | 長崎市 |
| 株式会社 エビス堂コピーセンター | 長崎市 |
| 有限会社 エビス電器 | 長崎市 |
| 有限会社 エビス文具 | 長崎市 |
| 有限会社 事務機の安福 | 福江市 |
| 有限会社 上五島 アンブク | 上五島 |
| 有限会社 エビス事務器 | 福岡市 |
| 有限会社 諫早エビス | 諫早市 |
| 有限会社 島原エビス | 島原市 |





(有)家具のつる屋

〒851-01 長崎市田中町587-1 電話(0958)37-8367

本社 〒850 長崎市浜町2-33 電話(0958)25-6418

「我が社は正しい商道を探究し、
社業を通じて万人の幸福を祈り、
社会奉仕に貢献する」

代表者 代表取締役社長 鶴 昭男

創立 昭和35年6月 創業 昭和21年2月

資本金 600万円

従業員数 80名

営業品目 家具インテリア商品の小売及卸売業・トータルインテリア設計施工・システムオーダーキッチン設計施工・店舗の企画デザイン設計施工・住宅新增改築工事

会社の基本方針

1. 「店は客のためにある」 2. 商人としての正しい道を探求しながら商売を通じて多くの人々の幸せを念じ乍ら社会のお役に立つこと。 3. 「正札販売」「品質保証」「価格保証」制度の実施によりよりよい品をより安くお客様を差別せず楽しく価値あるお買物をしていただくこと。

企業の特徴

1. 商業界セミナーで学んだ商い人としての奉仕の精神 2. ニッポンインテリアチェーン通称ニック全国80社のボランティアチェーンの組織力による商品の供給と全国有名メーカー商社により結成されている「つる屋全国協力会」による商品の供給。 3. より良い品をより安く、真心を添えてお届けします。



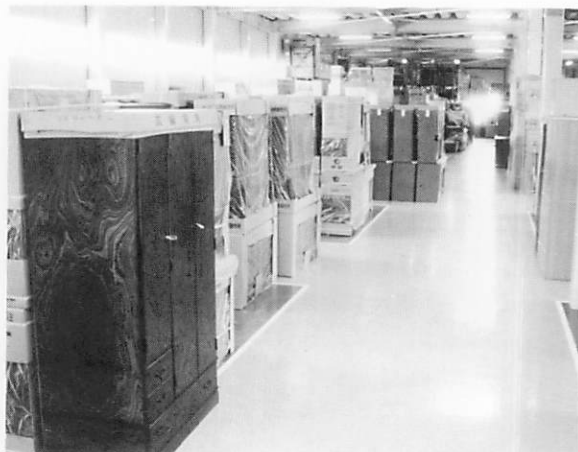
代表取締役社長
鶴 昭男

沿革

- 昭和21年2月 長崎市大井手町において創業、店舗9.9㎡
- 昭和30年5月 長崎市西浜町アーケード街に移転店舗面積345㎡
- 昭和35年6月 法人組織有限会社家具のつる屋に変更
- 昭和40年10月 長崎市中里町に総合センターを開設3287㎡
- 昭和43年5月 浜町大火により類焼店舗商品全焼
- 昭和44年4月 新店舗完成営業再開 店舗面積3300㎡
- 昭和55年4月 沖縄営業所設置（沖縄進出）
- 昭和57年4月 長崎卸団地内に「流通センター」完成
- 昭和57年7月 長崎大水害により浜町本店地階及び1階水没
- 昭和58年2月 長崎卸団地内「つる屋流通センター」隣接地に卸売部（ビックチェーン本部）開設。

標題

「店は客のためにある」という一途の信念を貫き、二度の大被災を機縁に商人であることの喜びを激しい感動の中で味いながら、明日も又社業を通じて社会奉仕に努力邁進いたします。



長崎三協サッシ販売株式会社

〒851-01 長崎市田中町596-3
電話(0958)37-8032

誠実 全力

- ①社業を通じて人格と技術の向上に努力しよう。
- ②社業を通じてお客様に喜ばれる様努めよう。
- ③向上は無限、進歩は一步ずつ、仕事に誇りを持とう。

代表者 代表取締役社長 西村金造

創立年 昭和48年7月1日

資本金 2,500万円

従業員数 13名

営業品目

アルミ建材一式

住宅用サッシ、ビル用サッシ

エクステリア製品(バルコニー、サンルーム)

住宅機器(流し台、日用品)

硝子工事

会社の基本方針

施主、施工業者の皆様にご満足いただけるように高品質を誇り「きびしく選べば 三協アルミ」の三協アルミ製品を、優れた技術と行き届いたサービスで提供する。

会社の特色

アルミ建材のトップメーカー、三協アルミニウム工業株式会社と山林経営と建築資材の総合商社、住友林業株式会社の出資のもとに、アルミサッシはもとより、次々と



代表取締役社長
西村金造



取締役営業部長
吉田耕人

開発される新しいアルミ建材を取扱い、創業以来、三協アルミの長崎地区のメインセンターとして、地元の優良建設業社、工務店の方々に御愛顧いただいております。以上の発展を期して、昭和56年12月に現在の卸センターに進出した。今後共、単なる資材提供だけでなく、多様化する顧客のニーズに応え、豊かな住環境を創造し、住宅及び住宅関連の品質の向上に貢献するセンター作りを目指している。

沿革

昭和47年7月 長崎製材協同組合、三協アルミニウム工業、住友林業等の出資により、アルミ建材の加工販売を目的として設立された。

(当初資本金 250万円)

(代表者 前田 勇)

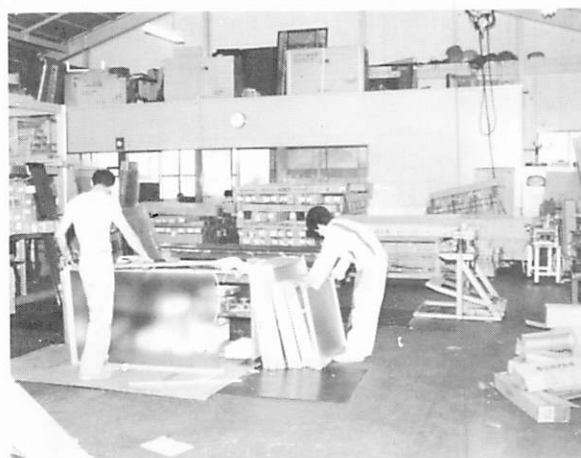
昭和49年6月 750万円に増資

昭和56年5月 代表者に西村金造が就任

2,000万円に増資

昭和56年12月 現在の卸センターに新社屋を建設し移転

昭和57年3月 2,500万円に増資



株式会社 福岡フジエイ

〒851-01 長崎市田中町585-5

電話(0958)37-8371

本社 〒814 福岡市城南区鳥飼6丁目18-26

電話(092)831-5431

1. いげたに藤の旗じるしあふれる力で盛り上げよう。

1. 奉仕と感謝で正しく強く。

1. 心は広く眼は高く頭は低くて仕事さばきは誠実に。

代表者 代表取締役社長 高橋文三

創立 昭和56年11月(創業 昭和20年11月)

資本金 3,000万円

従業員数 150名

営業品目 家庭用品, インテリア家具

家庭用品

リビング用品。食卓用品。レジャー用品。

台所用品。洗濯用品。清掃用品。

バストイレタリー用品。収納用品など全般。

家具

リビング家具。ダイニング家具。学習家具。

キッチン家具。収納家具。インテリア小物。

会社の経営理念

福岡フジエイは生活用品総合商社として、人間尊重を基盤とし、常に業界のトップをめざし、使う立場の心になって創意工夫し、感謝の精神をもって、商品を通じ文化に貢献し社会に奉仕する。

故に会社を永続させるために努力し利益を追求する。

会社概要

社名 株式会社 福岡フジエイ



代表取締役社長
高橋文三



所長
森邦治

本社 福岡市城南区鳥飼6-18-26

企業の特徴

家具からインテリア、家庭用品に至るまで、物と情報をトータルに提供する生活関連提案企業。

業界では群を抜いた商品開発力、販売企画力をもつ。消費パターンの変化に伴い時代にマッチした商品群を、より正確に、より速く提供し、生活者の精神的充実感、知的満足感を満たす豊かで個性的な生活へのトータルアドバイスを提供する企業。

沿革

昭和20年11月 伊藤正二商店として名古屋市で創業

昭和28年2月 福岡出張所開設

昭和44年10月 長崎営業所開設(西彼杵郡時津町)

昭和56年11月 株式会社 福岡フジエイ設立

昭和57年11月 長崎営業所 卸センターに移転



団地未入居組合員

サンデン販売(株) 長崎営業所

長崎市滑石町4-14 本社：東京都台東区東1-31-7
電話 (0958) 56-1034

代表者 天田 鷺之助 資本金 2億円
従業員数 800名 営業品目 家電製品

ブリヂストンタイヤ長崎販売(株)

長崎市八千代町2-33
電話 (0958) 23-6171

代表者 花岡 健太郎 資本金 9,000万円
従業員数 57名 営業品目 タイヤ、チューブ

出版輸送(株)

長崎市宿町311-2 本社：福岡市東区多ノ津1-15-2
電話 (0958) 39-6280

代表者 手 鳴 章 資本金 1,000万円
従業員数 100名 営業品目 運送業

<組合事務局>



城下久美子

松尾 剛助

荒木 敬純

磯辺 重孝

森 千代治

麻生理津子

あ と が き

創立10周年を記念してこの小著「十年の歩み」を刊行することが再確認されたのは長崎大水害後、人心落ちつかず、傷跡癒やされぬ時、理事長が交替され成宮新理事長による理事会に於て、10周年式典は中止するが記念誌は刊行する事が決定されてからでした。

それから約一年、一日も早く上梓をと念願しながら今日まで遅れたことを先ずもってお詫び申し上げる次第でございます。

記念誌委員会発足後、直ちに編集作業に入り10年前からの資料を整理し、関係写真を収集しましたが一昔前のこともあり仲々はかどらず、これまでの経緯を詳しく知っている方が少なく、又その方々も超繁忙の日常生活をされておられるという様な種々の問題をかかえながら進めて参りました。

編集目標として、できるだけ正確に客観的にかつ公平に、しかも読みやすく親しみやすく組合員の皆さんに気軽に、興味深く読んでいただけるようなユニークな記念誌を創ろうと計画し、各種原稿の依頼、座談会、資料による原稿作成と取組んだ次第ですが、十分な推敲の暇もなく読みづらい点のあることをお許し願います。

私共、記念誌委員とはいえ、不慣れな編集作業の為、60回を上まわる会合を重ねました。計画性に富み進行状態を記録し把握していただいた武藤副委員長、文章のまとめと交渉に優れる江下委員、事務的業務を一手に引き受けていただいた事務局の磯辺常務と多士済済のもと委員長は恵まれたスタッフで仕事が出来た事はこの上もない幸福だったと感謝致しております。然しこの間、武藤副委員長は肺炎を患われ、江下委員は二度目の入院となり、今回は再度の手術により発刊までに退院は不可能というアクシデントにより悪戦苦闘の連続でしたが、委員各位の積極的な活動と協力により、ここに上梓される運びとなりました。

なお深く反省していることは、組合は企業の集団で成り立っていることから集団のなかの企業の動きをもっと幅広く取り上げるべきではなかったかと思っています。

編集にあたり、原稿を頂戴致しました皆様 座談会に快よくご出席下さいました方々を始め関係各位に心からお礼を申し上げます。

本組合の目途とする共同化事業は今もお仕上げをめざして進められていますが、この10年間に苦難の道乗り越えて強固な基礎を固める事が出来ました。この10年の歩みを糧として、この次の20年史が削られる時さらに輝やかなしい成果がつけ加えられることを期待してやまない次第でございます。

記念誌委員会委員長 中 尾 剛

記念誌委員会

| | | |
|------|----|----|
| 委員長 | 中尾 | 剛 |
| 副委員長 | 武藤 | 嘉光 |
| 委員 | 江下 | 直光 |
| 委員 | 磯辺 | 重孝 |



十年の歩み

昭和58年12月10日発行

発行所 協同組合長崎卸センター
長崎市田中町1201番地
電話(0958)37-8111(代)

印刷者 諫早印刷株式会社
長崎県諫早市天満町13-22
電話(09572)2-1350(代)

